

業務資料 No. 289

昭和45年度営農指導実施報告書
昭和46年度営農指導計画書

昭和48年3月

海外移住事業団



国際協力事業団

受入 月日 '84. 4. 10	700
登録No. 03519	80.7
	EM

目 次

第1部 昭和45年度営農普及指導実施報告書

I	レシーフェ支部	1
II	ポルトアレグレ	31
III	サンタクルース	35
IV	ブエノスアイレス	47
V	アスンシオン	63
VI	サントドミンゴ	75

第2部 昭和46年度営農普及計画書

I	レシーフェ支部	81
II	サンパウロ	85
III	ポルトアレグレ	117
IV	サンタクルース	121
V	ブエノスアイレス	133
VI	アスンシオン	143
VII	サントドミンゴ	145

JICA LIBRARY



1053299[2]

第 1 部

昭和45年度営農普及指導実施報告書

I レシーフェ支部

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区 及び研究グループ	対象件数 実施回数
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 経営診断と債務償還指導 ○ ポンカンの介殻虫媒病の防ぎ方について ○ ニシク貯蔵法について 	<ul style="list-style-type: none"> 戸別巡回 営農相談 	<ul style="list-style-type: none"> リオ・ポニード 	<ul style="list-style-type: none"> 1回13戸 1回
5	<ul style="list-style-type: none"> ○ 人参の軟腐病の予防について ○ パワー地土壌の改良法について 	<ul style="list-style-type: none"> 営農相談 普及資料配布 	<ul style="list-style-type: none"> リオ・ポニード ビウン 	<ul style="list-style-type: none"> 1 1回10部
6	<ul style="list-style-type: none"> ○ 胡麻の肥培について ○ 養鶏の経営診断 ○ 経営診断と債務償還の指導 	<ul style="list-style-type: none"> 戸別巡回 ・ ・ 	<ul style="list-style-type: none"> イツベラ ビオ12世 リオ・ポニード 	<ul style="list-style-type: none"> 6戸 5戸 全13戸
7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 高台砂地利用としての永年作物の導入 ○ 水害後の畑作物防疫 ○ 果樹類の肥培管理の実際について ○ 永年作物の栽培技術について ○ 各移住地の営農概況について ○ 馬鈴薯の施肥について ○ パナナ、ジャトカ病の防除について 	<ul style="list-style-type: none"> 戸別巡回 資料配布 戸別巡回 ・ 資料配布 ・ 営農相談 ・(通信) 	<ul style="list-style-type: none"> ビウン カ-ポ リオ・ポニード 全地区 ・ リオ・ポニード ビウン 	<ul style="list-style-type: none"> 10戸 3戸 全13戸 1回180部 1回9部 1

レシーフェ支部
昭和46年3月現在

成		果		管農指導費 よりの支出	摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 債務償還畑の設定 ○ 病虫害の被害の恐ろしさを認識させ、防除を徹底させる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 菜撒を実施する様になった(80%) 	意義説明に止る	金額 CR\$ 4月計 CR\$ 2400		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 収穫後の秋腐を防ぐための人工乾燥の実施 ○ 酸度矯正と客土の 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 火力乾燥室を設けて以来殆ど防止可能となった ○ 50%実現 		5月計	資料名	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 施肥予定整枝の徹底 ○ 為合の衛生を徹底 ○ 債務償還畑の設定 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 80% ○ 20% ○ 100% 	改造新築の資金難	CR\$ 1600 6月計 CR\$ 1590	「ピウンの土壌診断」	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 放任高台地へカジュエを導入する ○ 施肥時期と量について認識させる ○ 栽培技術の向上 ○ 各地の管農状況、進度を知らせる 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 全戸1~1.5ha作付済(カジュエ) ○ 100%実施 		7月計 CR\$ 1550	資料名 「カジュエについて」 柑橘, バナナ, マラクチャー 資料名 「永年耕作地類の栽培要点」 「各移住地の管農概況について」	

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区 及び研究グループ	対象件数 実施回数
8	◦水害後の畑作物防疫について	戸別巡回	ビウン カーボ レシーフェ近郊	10戸 3 3 1
	◦マモンの栽培技術	戸別巡回	レシーフェ近郊	1
	◦アバカテの栽培について	営農相談(通信)	ナタール近郊	1
9	◦経営診断指導	戸別巡回	ビウン	2回10戸
	・	・	ビオ12世	全5戸
	・	・	リオ・ボニード	13
	・	・	カーボ	1
◦鶏病と防疫法とその行事	資料配布	ビオ12世	全5戸	
◦鶏の自家配合飼料について	・	全9地区	180部	
10	◦経営診断	戸別巡回		51戸
	◦メロン、西瓜の栽培技術	・	ビウン	10
	・	・	カーボ	3
	◦永年作物の管理	・	リオ・ボニード	12
	◦養蚕経営の合理化	講習会(於ビオ 12世)	ビオ12世	全5戸
	◦カジューナツツの栽培技術	資料配布	ビオ12世	5
◦グラジオラスの肥培について	営農相談	レシーフェ	10	
		ガビラバ	2	
			1	
11	◦胡椒の栽培技術	講習会(ベレン)	J・K ウナ	2 3
	◦柑橘類の肥培技術	講習会(サンバ ウロ)	リオ・ボニード	3
			レシーフェ	1

成 果			菅農指導費 よりの支出 金額 CRS\$	摘 要
当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因		
<ul style="list-style-type: none"> ◦被害作物の異常生理状態における防疫法の徹底 ◦生理的芯枯病の防除 	<ul style="list-style-type: none"> ◦低濃度消毒及採取の実施 ◦石灰欠乏症(石灰投下) 		8月計 CR\$ 100.00	
<ul style="list-style-type: none"> ◦融資実行に伴う作付計画の樹立 ◦稲飯官農設計 ◦鶏病の子防の徹底 ◦飼料の配合法, 自給度の向上 			9月計 CR\$ 16.00	資料名 「鶏の主な病気と防疫法について」 「鶏の飼料配合計算法」
<ul style="list-style-type: none"> ◦菅農現況調査 ◦灌水と防除の徹底 ◦経営の合理化 	<ul style="list-style-type: none"> ◦50%実現 ◦産卵鶏・淘汰法とその徹底により産卵率を向上させた 	短期作に追われ労力配分と実施不能	10月計 CR\$659.10	講師 坂本氏(養鶏実業家)
<ul style="list-style-type: none"> ◦育苗, 成木管理の習得 ◦栽培技術の習得 	<ul style="list-style-type: none"> ◦実習による技術向上 ◦実習での体験を生かしつつある 			<ul style="list-style-type: none"> ◦ベレン支部講習会へ合流(訓練講習費) ◦南伯産組, 協力(訓練講習費)

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区 及び研究グループ	対象件数 実施回数
11	○経営指導	戸別巡回	カーボ ビウン	1 10戸2回
	○水年作物の栽培要点(ガラナー)	資料配布	J・Kウナ	4
	' (ブドウ)	'	J・K	2
	' (柑橘)	'	'	1
12	○丁字の肥培技術	講習会(イツベラ)	ビウン	2
			ピオロ,レシーフェ	2
	○低辺農家の経営指導	戸別巡回	ナターム近郊	1
			レシーフェ近郊	2
			リオ・ボニード	5
	○バナナの肥培技術	戸別巡回	ビウン	10戸
	○柑橘,ゴヤバの肥培	'	リオ・ボニード	13
	○委託栽培作物管理	'	J・K	3件
			リオ・ボニード	4件
			レシーフェ近郊	1件
	○ブドウの肥培管理について	資料配布	J・K	2
	○ガラナー栽培について	'	J・K,ウナ	2
	○柑橘類の種類について	'	J・K	1
○SOLABARの用法について	管農相談	リオ・ボニード	2	
○柑橘類の新植について	'	'	1	
○灌漑設備導入について	'	ガビラバ	1	
46.1	○経営診断	戸別巡回	ビウン	10戸
	○丁字の栽培法	資料配布	カーボ ウナ;イツベラ, J・K	3 92部
	○胡椒の栽培法	'	'	92部
	○丁字作物について	管農相談	ビウン,レシーフェ	3
	○アピラの選地について	'	レシーフェ近郊	1
	○葉科緑肥について	'		1

成 果		当 初 目 標	実 現 した 成 果	実 現 出来 ない 原因	管 理 指 導 費 よ り の 支 出 金 額 CR\$	摘 要
		<ul style="list-style-type: none"> 栽培技術の向上 			11月計 CR\$ 79.20	
		<ul style="list-style-type: none"> パイアメタの新作物を認識させる 指導融資の実行8件 ゴヤバー, ブドウ, クマルー 桃, ゴヤバー, 苺, ニンニク 苺 	<ul style="list-style-type: none"> イツペラへの転住決意, 2戸出る 	(参照) 委 託 結 果 表	12月計 CR\$ 1840	(訓練講習費) 資料名 「ブドウ栽培基準」 「ガラナー栽培要点」 「柑橋項の品種と特性について」
		<ul style="list-style-type: none"> 指導融資による経営再建 栽培技術の向上 			1月計 CR\$ 233.20	資料名 「丁字栽培の要点」 「サラックにおける胡椒栽培」

月別	普及の指導事項	普及の方法	対象地区 及び研究グループ	対象件数 実施回数
2	○果樹病虫害の防除法	講習会 (ポニード, J・K)	リオ・ポニード J ・ K	14 30
	○各地の営農技術交換	営農実績発表会 (ポニード)	ポニード, ビウン, ピオ12, JK, ウ ナ, イツペラ	8件20名
	○営農診断	戸別巡回	ビウン	2回10戸
	○作付計画について	営農相談	リオ・ポニード ビウン レシーフェ	2回13戸 (3) (1) 4
3	○ゴムの病虫害予防	講習会(ウナ)	ウナ	1回36戸
	○野菜類の輪作について	営農相談	レシーフェ	1
	○土壌改良について	'	ナタール近郊	2
	○甜柿類 MULCOTE種について	'	リオ・ポニード	1

成 果		営業指導費 よりの支出 金額 CR\$	摘 要
当 初 目 標	実現した成果 実現出来なかった要因		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 病虫害の恐ろしさを認識させると共に防除を徹底させる ◦ 各地の営農技術交流をはかる 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 定期的防除を実施する様になった (80%) ◦ 各地の営農情報、技術の交換が出来た 	2月計 CR\$281227	講師 羽場久夫 (南伯産組技師)
◦ 防除作業の年中行事の徹底と新技術導入	◦ CEPLACより定期的巡回指導を受ける様になり、防除及品種更新も盛んとなった。	3月計 CR\$ 3642.19	講師 CEPLAC IPEAL 顕微鏡購入

2. 営農担当者の体制

レシーフェ支部
昭和46年3月現在

氏名	所属	年齢	普及活動年数	担当地域	概要
柴田 剛	レシーフェ支部	37	4年 3 バラグアイ 1 レシーフェ	管内全9地域 セアラ州、北大河、 ベルナンブーコ、 パイア	支部業務課長 農学系 営農業務企画予算 巡回指導相談
前田安隆	・	35	9年 5 ベレン 4 レシーフェ	同 上	営農担当 農学系 企画予算補助 巡回指導、営農相談

当支部の管轄地域は北はセアラ州から南はパイア州に亘る日本全土の約5倍の範囲に点在する
伯領計画植民地と散在入植者を抱えているので、現体制での緻密な巡回指導の実施は人数、予算
的にも困難な状態にある。

このため勢い、問題の多い移住地に指導が片寄りがちであるが、現状は支部長以下、サルバドール
駐在員を含め、全職員が他業務で出張の折にも併せ、相談指導に当たっている。

3. 営農普及指導上の反省と所感

(1) 昭和45年度の普及活動の第一の眼目は、各移住地の基幹作目の育成と規模拡大に注ぎ、こ
の方針に従って指導と啓蒙を行ってきたが、概ね所期の目標に近づきつつあった。

以下、管内各地の基幹作目の振興状況を前年度と比較してみれば、次の通りで、上昇傾向にあ
る。しかし乍らまだ、営農設備施設の完備及び支部の意とする技術的、経営的指導を充分出来な
かったため、この点今後特に指導啓蒙により、指導を強化していきたい。

ピオ12世植民地……産卵鶏・25万増(一戸平均1,000羽)

リオポニート植民地……柑橘類・22万増(一戸平均2ha)

ゴヤバー・現状維持(一戸平均0.5ha)

J・K植民地……柑橘類・125万増(一戸平均0.8ha)

胡椒・現状維持(一戸平均0.05ha)

イッペラ植民地……丁字・現状維持(一戸平均3ha)

胡椒・33万増(一戸平均1.2ha)

ウナ植民地……パラゴム・250万増(一戸平均0.7ha)

カカオ・75万増(一戸平均0.4ha)

胡椒・40万増(一戸平均0.08ha)

(2) 低位農家の営農再建については、特にピウン植民地では、現在までみるべき基幹作物が育成されていないので、講習会や現地視察等を実施して転住もすすめている。残留希望者に対しては、カジュー、ゴヤパー等の育成を強力指導中である。

リオポニートの低位農家に対しては、特に債務償還畑を新規設定して経営及技術指導を強化したが、初めての試みでもあり、十分な効果を挙げるには至らなかったが、今後も継続していく方針である。

(3) 指導方針と活動について

各移住地毎に重点指導項目をあげ、これにそって巡回指導を定期的に実施していくのが最も望ましいが、現在の体制では、物理的にも無理があり、このため、特に問題の多い移住地（ポニート、ピウン等）に巡回指導が片寄せざるを得なかった。ウナ植民地のゴム防疫対策講習会及びピオ12世植民地に対する養鶏講習会等は顕著な効果をあげつつあるので指導を継続、強化していきたい。

当支部の普及活動区域を大別すると、北部地域（ピオ12、ピウン、ナタール近郊）、中部地域（リオポニート、カーボ、ガピラバ、レシーフェ）、南部地域（JK、ウナ、イツベラ、サルバドール近郊、南パイア）の3地域で、広範囲に散在しており、しかも植民地は全てが伯国側の経営であるため、支部の陣容、予算面からみて、計画的、積極的指導が仲々難しい。このため、勢い問題の少ない処は消極的指導（資料配布、営農問答相談通信等）を余儀なくされている。

次年度は出来る限り、年度頭初計画に沿い普及指導の充実に期したい。

4. 昭和45年度委託栽培実施報告書

作物名	委託先	受託者名	面積本数	委託内容	実施目的
胡椒 (継4) 42.8植	ウナ	佐藤信雄	01 Ha 100株 品種 トマスー系	本園に於ける 栽培試験 (適地試験)	基幹作物パラーゴムの単一 作営農の危険分散のため、 第二の永年作物を育成する
桃 (継3) 43.8植	リオポート	佐藤忠恒	01 Ha 20株 品種 TALZMA DAMASCO	本園に於ける 栽培試験 (適地試験)	当地域の特色である温暖帯 気候を生かし、雨伯より搬 入し難い温帯果樹類を育成 する。
ゴヤバー (継2) 43.5植	リオポート	藤原富貴	05 Ha 200株 品種 AUSTRIANA	本園に於ける 肥培、剪定に よる出荷期調 整	柑橘類と併せ基幹作物の一 つとすべく大果種の計画栽 培法を確立する。
・	J・K	神田甚助	・	・	・
ブドウ (継2) 45.3植	J・Z	佐々木三雄	01 Ha 50株 品種 ITALA	本園に於ける 栽培試験 (適地試験)	基幹作物の一つとしての適 否判定

レジーフェ支部

実績及び問題点	所見及び一般農家に及ぼした影響
<p>(実績) 植付適期…5～8月(雨期) 収穫期…(2回)6,7月,2,1月 収量平均(4年生)黒胡椒35kg/本</p> <p>(問題点) 栽培上,特に問題はないが,収か 期の乾期でもよく雨が降るので,多 面積栽培となると乾燥施設が不可欠 となる。</p>	<p>試験成績良好の為,当地の基幹作物として普及対 象作物に採りあげる。</p> <p>(普及状況) 全36戸中の戸が栽培中6戸が計画中。栽培本 数は3,230本(成430,未2800)で前年度より 60パーセント増加している。</p>
<p>(実績) 収穫期…4～6月(雨期) 剪定時期…7下～8中 収穫期…1下～2上 両品種共,熟期は殆ど同時で早生系で ある。</p> <p>(問題点) 他作物に比し病害が多い</p>	<p>肥培管理が充分でなかった為,果実の結果はみた が,商品化に至るまでの生産は挙げなかった。 今後の試作継続により,経済性等を更に検討する 余地がある。</p>
<p>(実績) 開花時期…放任すれば同一樹に開花, 小果,熟果がみられ周年結 果する。 剪定時期…市場の端境(8～2月)を 狙い任意に決定できる。 収か期…剪定後7カ月前後となる。</p> <p>(問題点) 雨期には多湿すぎて病害が多い。虫 鳥獣害も多く有袋栽培の要があり, 労力を多く要する。</p>	<p>本作物の生果実及び加工品(羊カン的一种)は当 地方で最も一般的に嗜好されており,しかも需要 が多い。生果では大型果は好相を維持しており, 将来性は充分にあると判断されるので栽培普及中 である。</p> <p>特に本作物は出荷期を剪定によりコントロールで きる強味があるが生果出荷目的では労力配分上, 多面積一時出荷には無理があるので,一定量を毎 月剪定出荷する様に管理することである。</p> <p>(普及状況) リオポニート…全13戸中9戸栽培中,本数 2,135本(成265,未1870) J・K…全60戸中6戸栽培中,本数800 (成670,未130)</p>
<p>実績及び問題点共にリオポニートの場合と同様の 結果をえた。</p>	<p>(実績) 供試株の接木苗が揃わず自根苗を混ぜ て供試したためフィロキセラの被害 が甚大で,データを出すに至らなかつ た。 生育状況は雨期の雨が多く良好でない</p>
<p>(実績) 供試株の接木苗が揃わず自根苗を混ぜ て供試したためフィロキセラの被害 が甚大で,データを出すに至らなかつ た。 生育状況は雨期の雨が多く良好でない</p>	<p>供試材料が試験に不適となったこと及び当地の気 候条件よりみて,本作物の委託試験の意義が少な くなったので,取敢えず試験を打切る。</p>

作物名	委託先	受託者名	面積本数	委託内容	実施目的
無花果 (継 2) 44. 12 植	ピオ 1 2 世	大 蔵 素 之	0.2 Ha 180 株 品種 RCXO DE BALINHOS	本圃に於ける 栽培試験 (選地試験)	当地では基幹永年作物が定 っていないので、これが探 索と育成する。
カシューナット (継 2) 45. 3 植	ピオ 1 2 世 ピウ ン	西 村 定 雄 長 崎 良 澄 松 苗 凌 太郎	各 1.0 Ha 100 株 品種 CAJUBRAS系		当地で現在の処、灌溉に難 点のある高台地利用として の永年作物の育成
マカダミア ナット (継 3) 44. 3 植	レノフェ 近 郊	坂 口 章 司	2 株 品種 ハワイ系 KAKEA IKAIKA		永年作物の探索と育成
クマール(香料) 新 規 45. 12 種播	J・K ウ ナ	神 崎 実 西 本 伍 一	取付種子 各 2 Kg 品種 IPEAN系	発芽試験、 本圃に於ける 栽培試験	永年作物の探索と育成、胡 椒との混作物としての適否 性検討
アーリオ (継 2)	リオポート	井 手 辰 己	0.01Ha 品種 ミナス系 AMARANTE	栽培適否及経 済性の判定	当地方の特色である温暖気 候を生かした短期換金作物 の探索と育成

実績及び問題点	所見及び一般農家へ及ぼした影響
<p>(実績) 挿木後九一年生で樹高平均1.5メートルに伸長している。乾期の早魃には弱くこの間は生長が停止した。病害は殆どない。</p> <p>(問題点) 当地では農業用水の絶対量が不足しているので本作に必要な灌水が充分に出来ない。</p>	<p>未だ整枝の段階で生産期に達していないが、本作物の栽培は可能とみられる。</p> <p>問題は当地の立地条件よりみて普及するに足る経済作物となりうるかどうかは今後の結果をまたねばならない。</p>
<p>(実績) ピオ12世では九一年生で生長が充分でないところに10年振りの早魃にあり90パーセント枯死した。ピウンでは2件共かなり良く生長しており、草丈平均50センチ内外である。乾期の早魃時は生長を停止したが枯死することはない。</p>	<p>本作物は元々当地方の特産物であるので適地性、経済性の検討はさておき、当該移住地での放任高台地高度利用としての永年作物を育成したい。</p> <p>ピオ12世については、再度欠株を補植して試験を継続する。</p>
<p>(実績) 二品種共、定植後九二年生となり、旺盛な生長を示してきた。KAKEA種は2.2メートル、IKAIKA種は1.5メートルに生長している。</p>	<p>供試本数が少ないので、新に苗を導入したい。</p>
<p>(実績) 苗鉢へ播種、発芽率約80パーセント各15株は供試用として本圃定植できる見込みである。</p>	<p>供試用本数が少ないので、少くとも100株(1ha)分を揃えるべく、種子を導入したい。</p>
<p>(実績) 植付時期…5中～6上(雨期) 収穫期…9中～10 収量…50Kg(1播重量Kg)5倍増 球重の平均は40グラム程度でミナス産ものより1/2強の重さであった。</p> <p>(問題点) 植付期は5中～6上の雨期の最盛期をはずれるに従い結球率が下る。雨期低湿を利用しての栽培となるので南伯主産地に比して病害発生が多い。</p>	<p>栽培可能であるが、雨期の茶撒、乾期の灌水不可欠と、当地では労力が要りすぎる。前年度、ミナス原種による収量は播種量の約10倍量であったが、この二世種による本年度の収量は半減し、当地方の平均収量と同量となった。これは当地方の気温の高いことによる種球の退化とみられる。</p> <p>産物の市価は種球の購入価よりも低下しているもので、現在の処経済作物としては採り上げ難い。</p>

作物名	委託先	受託者名	面積本数	委託内容	実施目的
苺 (継 2)	リオポート	藤原 富貴	0.01 Ha 1,000 株 品種 生食用早生系 IAC 2712	栽培適否及経 済性の判定	当地方の特色である温暖気 候を生かした短期換金作物 の探索と育成
苺 (新規)	カモシン ポートの (一部)	春田 秀男	0.3 Ha 7,000株 品種 IAC 2712		

実績及び問題点	所見及び一般農家に及ぼした影響
<p>(実績) 定植時期…4～6月(雨期) 苗…サンパウロよりの導入苗1代目とし二世苗までは栽培可能、三世苗になると苗が退化して栽培不遜となる。 収穫期…定植後1.5カ月以降、約7カ月出荷 収 量…150Kg(サンパウロ平均220Kg) 1.5Kg/㎡ 良果が少かったので若干量商品化した。</p> <p>(問題点) 乾燥に特に弱く、管理に手間が要りすぎる。市場が狭いので大量出荷できない。</p>	<p>当地の気候よりみて、種苗は現地生産できず、サンパウロ方面より導入しなければならない。導入苗は二世苗までは収支見合がつく。(収益率42%)</p> <p>市場の取引値はよいが、当地では未だ珍奇の域をでず、現在の処、市場が狭い。大量生産すれば、自づと売値を下げざるを得ず、この場合は収益率の低下を余儀なくされるので、普及的観点よりみれば経済作物と判定できない。</p>
<p>(実績) 定植時期…7月上 苗…二世苗 収かく期…9中～12(3.5カ月間) 収 量…665Kg, 0.22Kg/㎡(収量が少いのは面積当りの植付本数がポニートの場合より1/3である)。市価CR\$ 10.00/Kg 好値..</p> <p>(問題点) ポニートと同様</p>	

5. 営農環境概況

移住地名 (所在地)	経営主体	移住地 創設年	邦人植 民始年	現 在 戸 数	総面積 KM ² ロツテ数	一戸平均 所有面積 ha	地権分譲 条 件	公 共 施 設 設 備 機 械
ピオ12世植民地 (セアラール バクター部)	INCRA (植民農 地改修院)	1957	1960.5	5 (23)	1.390 (61)	15 低地 1.5 丘地 3.5	未交付 (当初の分 譲条件) CR\$ 60.00 10年賦	INCRA事務所, 小学校 医務室, 組合売店, 集 荷場, 車輛, 公共ダム (2), 灌水路(一部の みで未定) (中心地は配電済)
ピウン植民地 (リオグランデノ ルテ州ニシアフロ レスタ郡)	INCRA	1953	1967	9 (37)	3.075 (45)	50 低地 1.5 高台 48.5	未交付 () CR\$ 45.00 10年賦	事務所, 小学校, 修理 工場, 車輛 (中心地配電済)
ブナウ植民地 (RGN トーロス郡)	ピオ12世 財 団 (財団法人)	1958	1959.1	1 (30)	1.365 (50)	12 低地 7.0 高台 50	永代譲与 (第三者へ 売却禁止)	事務所, 小学校, 医務 室, 車輛 (トラック, トラクタ ー)
リオポート植民地 (ベルナンブー州 ポニート郡)	INCRA	1956	1959.1	13 (32)	1.380 (42)	25	未交付 (当初の分 譲条件) CR\$ 75.00 10年賦	事務所, 小学校, 修理 工場, 車輛(トラック トラクター) (中心地配電済)
ガビラーバ植民地 (ベルナンブー州 ハマチガビラーバ 郡)	C R C	1961	1967.4	3 (81)	1.100 (94)	10	仮地権 CR\$ 2500 -4,000- 10年賦	事務所

自 然 的 社 会 的 条 件				
位置・交通便	地形・土壌	水 利	気象(年平均)	市場(人口)
南緯 40°10' 西経 38°28' 州都フォルタレーザ 南方 48KM バス(ガイウーバ 40KM 40分) →ジープ 8 KM 15分	標高 30~40Mの高 台地に在り緩傾斜低 地よりなる。花崗岩 系母岩よりなるラテ ライト赤色系壤土砂 壤土	農業用水→ダム (水量不足のため ダム給水路利 用のものは配給 制) 飲料水→井戸	(観測地)フォルタレーザ 気温 29.8 23.0 26.0 湿度 79.0 雨量 1,839mm 雨期 2~7月 乾期 8~1月	フォルタレーザ (75万人)
南緯 5°59' 西経 35°10' ナタール南方 20KM タクシー 20KM 15分	標高 20 M 前後 低湿地(パワー)と 高台地(砂質土)よ りなる。 高台は第三紀砂岩母 材ガドピランガ河に 隣接	農業用水→河川 水利用 (施設なきため 低地のみ利用中) 飲料水→井戸	(観測地)ナタール 気温 29.6 22.3 25.7 湿度 78.0 雨量 1,885mm 雨期 3~9月 乾期 10~2月	ナタール (265万人) レシーフェ (119.5万人)
南緯 5°17' 西経 35°28' ナタール北方 61KM バス(セアラミリン 30KM 50分) →ジープ 56KM 80分	標高 20~30 M 低湿地(パワー)と 高台地(砂質土)よ りなる。 地質はピウン同様 ピラーニヤス河,フ ォンセッカ湖に隣接	同 上	同上に準ずる	同 上
南緯 8°29' 西経 35°41' レシーフェ西方 143KM バス(ボニート 135KM 180分) →ジープ 8 KM 30分	標高 600~800 M 山陵地で起伏と川が 多い。花崗岩母材赤 色砂壤土。気候冷涼 のためラテライト化 は少ない。	農業用水→河川 水,私設ダム 飲料水→河川水	(観測地)植民地 気温 24.9 17.4 21.1 湿度 79.0 雨量 1,749 雨期 4~9月 乾期 10~3月 (特色)温暖気候 雨期涼冷	レシーフェ ボニート (1万人) カモシン (0.5万人)
緯経度 不詳 レシーフェ西方 134KM バス(ガビラーバ 134KM 150分)	標高 200~300M 起伏ある傾斜地が多 い粘土の多い砂質土	農業用水→河川 水利用 飲料水→井戸	リオ・ボニートに準ず ると思料されるも気温 は少し高い。	レシーフェ

移住地名 (所在地)	経営主体	移住地 邦人 植 創設年 入植 開始年	現 在 戸 数 日 間	総面積 ロッテ数	一戸平均 所有面積	地権分譲 条 件	公 共 施 設 設 備 機 械
カーボ植民地 (ベルナンブコ州 カーボ郡)	ORC	1961 1965.12	6 (300)	5,500 (340) ha	10 ha	仮地権 CR\$3300 一括払又は 10年賦	事務所, 小学校, 修理 工場, ドラック, トラ クター (中心地配電済)
レンフェ近郊 (ベルナンブコ州 カルビーナ郡 サンローンソダ マンダ郡)	自 営 農	— 1959.1	—	—	3	—	—
JK植民地 (バイア州マ ッタデサン ジョアン郡)	バイア 州政府	1954 1954.10	7 (49)	2,600 (211) ha	20~25	本地権 CR\$ 400~450 5年賦	事務所, 小学校3, 診 療所, 組合売店, 化 場, 架荷場, 車輛 (中心地配電済)
イツベラ植民地 (バイア州 イツベラ郡)	INCRA	1953 1954.10	7 (49)	5,000 (この うち 2,000ha は未開墾) (60) ha	30	未交付 (当初の分 譲条件) CR\$10000 10年賦	事務所, 小学校, 診療 所, 車輛, 共同作業場 (中心地配電済)

位置・交通便	自然的社会的条件			市場(人口)
	地形・土壌	水利	気象(年平均)	
南緯 8°10' 西経 35°8' レシーフェ南方 35KM バス(カーボ 30 KM 45分) ジープ 5 KM 10分 自家用 35KM 30分	標高 13 M 起伏に富む 緩傾斜地 第 3 紀砂岩母材, ラテライト 化植質砂質土, 下層に不透水粘土層あり	農業用水→河川 水(不足) 飲料水→井戸	(視測地)オリンダ 気温 291 217 253 湿度 783 雨量 2404 雨期 4~8月 乾期 9~3月	レシーフェ カーボ (1.7万人)
南緯 7°51' 西経 38°15' (カルビーナ) レシーフェ西北方 60KM バス(カルビーナ 90 分) (サンローレン) レシーフェ西北方 23KM ジープ 30分	標高 カービーナ サンローレンソ 第 3 紀層母材 起伏ある傾斜地 砂壤土	農業用水→河川 利用, 私設ダム 飲料水→井戸	(カルビーナ) 年間雨量 800 ミリで特に少く局地的に半乾燥地帯である。 (サンローレン) カーボに準ずる。	レシーフェ カルビーナ (1.5万人) サンローレンソ (0.5万人)
南緯 12°32' 西経 38°15' サルバートル北方 78KM バス(植民地 78K 90 分) バス(マッタ 65K 75分) →ジープ 8 K 7分 自家用車(78K 60分)	標高 80~100M 起伏ある丘陵地 第 3 紀砂岩母材 ラテライト化砂質土 下層に粘土質層がある 処あり	農業用水→河川 水利用 飲料水→井戸, 河川水	(視測地)サルバートル 気温 284 227 252 湿度 802 雨量 1936 雨期 3~8月 乾期 9~2月	サルバートル (9.2万人) フェイラデ・ サンターナ (10万人) アラゴイーニヤ (2万人) マツタデサン ジョアン (0.7万人)
南緯 13°15' 西経 39°10' サルバートル南西方 300KM 小型版(サルバートル イツペラ 40 分) バス(サルバートル イツペラ 7~8時間) →ジープ(イツペラ植 10K 20分)	標高 160~230 M 起伏の多い山陵地 水流豊富, 滝多し。 第 3 紀層砂岩母材 肥沃度の高い砂壤土	農業用水→河川 水, 私設ダム 飲料水→河川水	(視測地)植民地 気温 27.0 - - 湿度 80.6 雨量 3,472 雨期 3~8月 乾期 9~2月 毎月 100 ミリ前後 10 日以上の降雨あり	サルバートル (9.5万人) パレンサ (1.5万人) イツペラ (0.5万人)

移住地名 (所在地)	経営主体	移住地 創設年	邦人植 入開始年	現在 戸数 (倍)	総面積 ロッテ数	平均 所有面積	地権分譲 条件	
ウナ植民地 (パイア州 ラナ郡)	INCRA	1953	1953.8	36 (100)	5,494 (183)	30	未交付 (当初の分 譲条件) US\$ 3000~4500 10年賦	事務所, 小学校, 会館 倉庫, 車庫 (中心地配電済)
ノーバ・ウイ ンザ 植民地 (パイア州 ノーバ・ウイ ンザ郡)	州 営	1964	1964	11 (△ 5)	-	100	地権未交付 価格不明 3年据置 8年年賦	事務所, 小学校, 会館 診療所, 映画館, トラ クター

6 農作物・家畜別概況表

移住地名	現在 戸数	所有面積 平均	利用 面積	永年作物 (合計)			短期作物 (合計)				
				種類	本数	取死量	金額	種類	面積	販売量	金額
ピオ12世	5	Ha 15 (1.5低地 13.5丘地)	Ha 10.3	バナナ	550	1,000	60	メロン	Ha 18	K 43,900	23,320
				イチヂク	210	1,000	100	西瓜	11	15,290	5,090
				レモシ	30	4,300	90	豆	26	1,880	1,880
ピウン	9	50 (20低地 480高台)	50	バナナ	ダース 29,650	211,000	31,000	西瓜	7.6	K 138,150	22,560
				ココ子	1,970	-	-	トマト	1.6	16,000	8,750
				カシュー	1,100	-	-	メロン	3.5	40,000	8,600

自 然 的 社 会 的 条 件				
位 置・交 通 便	地 形・土 壤	水 利	気 象 (年 平 均)	市 場 (人 口)
南緯 15°15' 西経 39°12' ナルパドール南方 640KM バス (イタブーナ〜ウナ 植 120K 3~4時間 雨期不通あり) →ジープ (イタブーナ 〜植民地 2時間 15分	標高 200~300 M, 傾斜地, 高台地あり, 砂壤土, 低地は壤土 第 3 紀層母材 (高地)	水量豊富 農業用水→河川 水利用 飲料水→谷川, 湧水, 井戸利用	(観測地) イレウス 植民地内での観測値なし 気温 29.0 19.1 24.1 湿度 81.0 雨量 1,948 雨期 3~8月 乾期 9~2月	
南緯 17°50' 西経 39°40' ナスケ東方 100KM カラベラス西方 100KM	標高 45~60 M 低湿地帯及び平坦地 よりなる。 砂質〜砂壤土	水量豊富 農業用水→河川 飲料水→井戸	平均気温 20.6 最高気温 30.2 (2月) 最低気温 17.1 (7月) 降 雨 量 1,113 毎月の雨量分布よく 旱害はない	グイートリア (エスピリト サント州都) (10万人)

種 類	畜 産 物 (合 計)			農 家 所 得 (平 均)			経 営 一 般 状 況
	頭 羽 数	販 売 量	金 額	区 分	1969 44	1970 45	
鶏 卵	3,950	7263 ^キ ₇₀	101,990	最 高	8,730	18,000	入植後 11年経過, 41年には指導経営により鶏を導入して以来, 短作主体より養鶏主体経営となったが, まだ規模が小さいので設備投資中である。雨期には低地稲作も併せ主食, 副食の自給体制をとっており, 農家所得は上昇傾向にある。
養 鶏	—	1,680 ^羽	6,280	平 均	4,480	8,720	
豚 肉	17	4,720 ^K	6,680	最 低	1,100	2,800	
鶏	195	—	—	最 高	20,840	18,740	入植後 14年経過, 快少な低地の短作経営より脱却できずにいる。所有権の殆どをしめる高台地は現況では灌漑困難のため未利用であるが, カジューを試作中である。当 45年には水害に引続く全家長の交通網により, 営農に重大支障をきたし農家所得は下降線をたどっている。二, 三の農家は転出計画中である。
				平 均	8,000	7,730	
				最 低	1,160	3,060	

移住地名	現在戸数	所有面積平均	利用面積	永年作物 (合計)				短期作物 (合計)				
				種類	本数	販売量	金額	種類	面積	販売量	金額	
リオポート	13	250	90	柑 橘	6800	—	5,790	人 参	46	183,000	136,510	
					2,140							
				ゴヤバー	2,140	—	1,250	馬鈴薯	82	108,900	54,500	
				マラクジャ	3,000	—	5,250	西 瓜	65	178,000	54,440	
カ ー ポ	6	100	35	柑 橘	1,500	—	750	胡 瓜	15	54,500	15,660	
				ゴヤバー	420	—	—	メロン	42	19,500	14,360	
				マモ	1,200	—	—	ピーマン	09	650	5,830	
ビーフェ近 郊分散農 (含ガビラバ)	11	3~100	108	柑 橘	2,300	—	3,000	トマト	41	13,300	51,240	
				胡 椒	1,300	300	1,200	西 瓜	17.8	591,890	116,730	
				ゴヤバー	400	—	1,200	メロン	25	32,780	23,830	
J . K (クビチェカ)	65	20~25	93	柑 橘	11,310	—	27,350	トマト	17.7	1,337,000	401,100	
				胡 椒	3,000	1,875	7,500	準人瓜	4.9	12,800	128,000	
				ゴヤバー	720	—	1,000	西 瓜	11.9	486,920	109,520	
				マラクジャ	8,680	—	27,800	菜 豆	58	91,000	96,820	
イツベラ	7	200	17.8	胡 椒	8,200	7,500	22,500	トマト	0.7	52,000	15,550	
				丁 字	6,250	3,850	88,320	ピーマン	0.4	360	7,200	
				柑 橘	1,550	37,000	2,590	甘 藍	0.2	4,700	3,280	
				油ヤシ	3,100	—	1,000					
				ピアサーバ	14,000	—	—					

畜産物(合計)			農家所得(平均)		経営一般状況		
種類	頭羽数	販売量	金額	区分		1969 44	1970 45
鶏	75	—	—	最高	23,190	43,300	<p>入植後11年経過, トマト作偏重の失敗により, 多額負債を抱え, 経営は危機に直面し, 経営状態は急降下していったが, 長期営農振興対策により, 果樹類を導入して永年作主体経営へ移行中である。</p> <p>所得は44年度より持ち直して上昇線をたどりつつあるが, 未だ平均負債が大きく, 平均農家所得の2倍弱である。</p>
兎	25	—	—	平均	7,240	11,380	
豚	3	—	—	最低	35	-640	
鶏	650	—	—	最高	17,350	4,290	<p>ブナウ・ポニート等からの転入植以来, 5年を経過, 州都レシーフェに近距りにあるため, 短作主体で不安定であるが, 果樹類も増植中で小規模の花弁栽培も開始した。</p> <p>当45年には2回に亘る水害のため, 大打撃を受け, 所得は急降下したが, 緊急融資により, 経営の立直し中である。</p>
豚	2	—	—	平均	11,930	2,520	
				最低	6,920	1,340	
鶏 卵	22,000	2700,000		最高	38,700	82,330	<p>分益, 借地費, ポニート等からの転出者等で, カルビーナに最も多く居住している。</p> <p>州都レシーフェ近郊の地の利を生かした蔬菜作と養鶏専業に大別されるが, 階層分化がひどい。全体的には, 経営は上昇中である。</p>
養 鶏	—	8,000		平均	19,900	23,000	
豚 肉	90			最低	4,145	3,900	
鶏 卵	20,170	110,510	212,860	最高	27,700	66,000	<p>入植後, 10年経過, 州都サルパドールに近いため, 短作と養鶏主体経営で永年作の導入は遅れたが, 最近, 柑核類の栽植が盛んとなり, 前年度の2倍量となっている。</p> <p>農家所得は入植以来, 上昇の傾向にあり, 平均的バランスはとれている。</p>
養 鶏	—	42,000	103,690	平均	9,850	15,570	
豚	16	35	2,300	最低	2,255	480	
—				最高	68,630	121,070	<p>入植後, 16年を経過, 基幹作物である丁字, 胡椒を増植中であり, 平均所得は急上昇したが, 丁字と胡椒で収入をあげているのは未だ2世帯のみで, 上・下の隔差が大きすぎる。当地は香料産地の育成を目指しており, 意欲的な空気にある。</p>
—				平均	17,780	36,130	
—				最低	2,490	5,710	

移住地名	現在戸数	所有面積 平均	利用 面積	去年作物 (合計)				短期作物 (合計)			
				種類	数量	販売量	金額	種類	面積	販売量	金額
ウーナ	36	300	19.1	バナナ	23,650	40,000	172,860	トマト	90	3,350	33,470
				カ、オ	16,550	2,100	1,230	西瓜	100	14,030	30,600
				胡椒	2,980	300	1,000	マンゴカ	23.0	854	20,780
				柑 橘	1,260	—	5030	粉			
				丁 字	870	55	1,260				
ノバヴィン ーザ (前17)				ココヤシ	12,500	—	—	西瓜	285	240,000	29,000
				柑 橘	2,000	—	—	南 瓜	80	25,200	2,900
				バナナ	4,100	—	—	ト マ ト	15	1,840	1,840
								ピーマン	0.4	320	2,700

畜産物(合計)				農家所得(平均)			
種類	頭羽数	販売量	金額	区分	1969 44	1970 45	
鶏 豚肉	108	—	—	最高	27,900	39,150	入植後、17年経過、基幹作物のゴムは一時は病虫害の発生により窮地に立ったが、特別対策により、耐病性品種へ更新中である。カ、オ、胡椒、丁字も増殖中で農家所得は上昇傾向にはあるが、現在採液中のゴムの殆んどが罹病性の強い旧品種のため、ゴム自体の生産量は減少している。
				平均	8,340	11,330	
				最低	2,560	3,270	
鶏 豚肉	475 50	— —	200 350	最高	未調査	16,330	入植以来7年経過、椰子植民地として、経営に専念してきているが、未だヤシからの収入はなく、アバカシー、メロン、西瓜等間作して、くいつないている現状である。平均農家所得は管内では最低辺にあり、その上、平均所得の2倍額の負債を抱えて経営は苦しい状態にある。
				平均	・	3,100	
				最低	・	270	

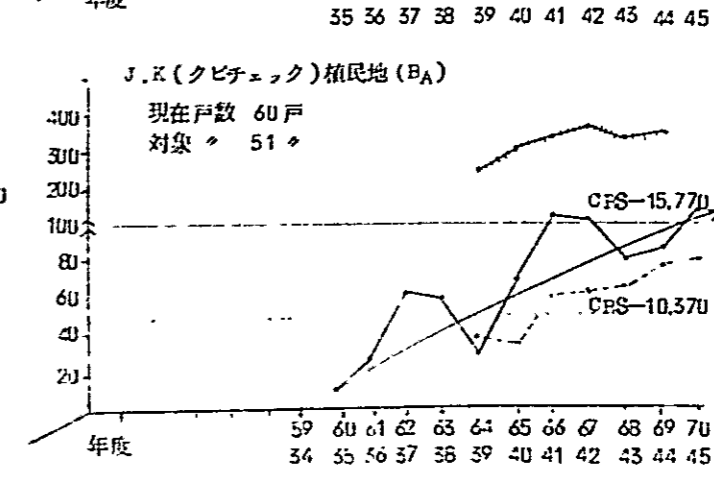
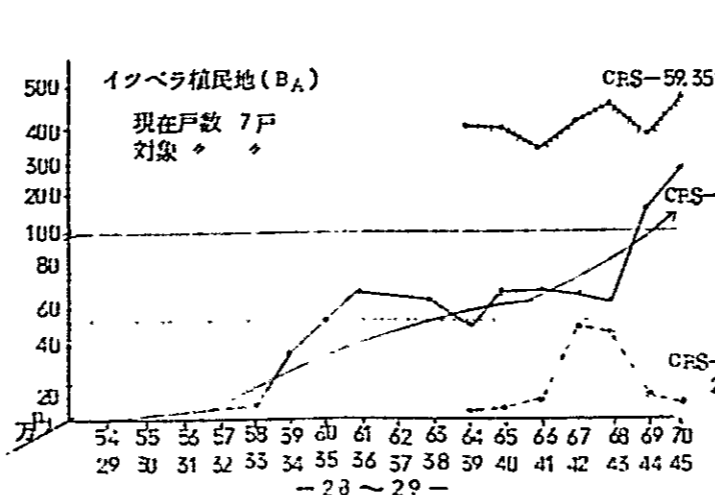
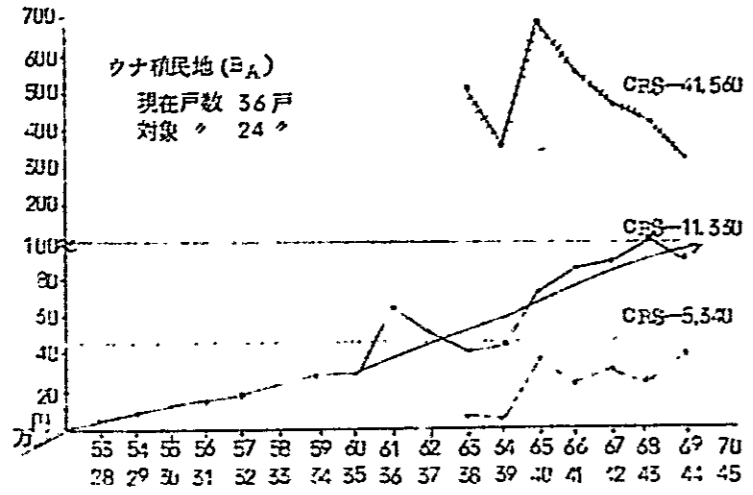
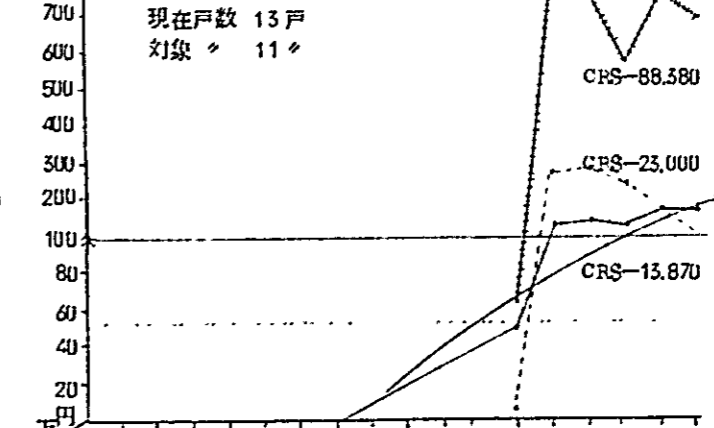
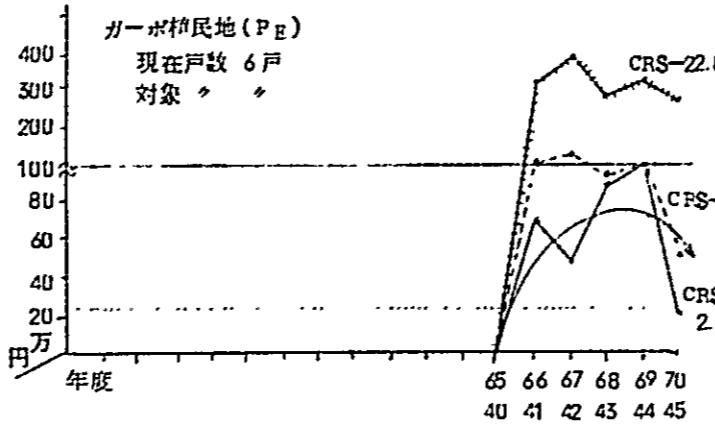
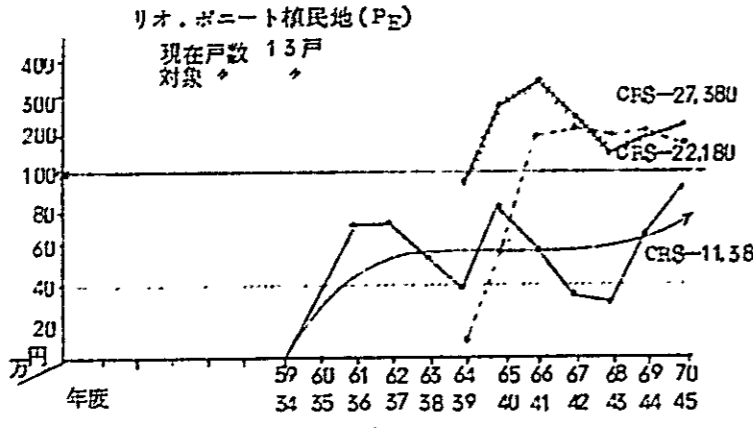
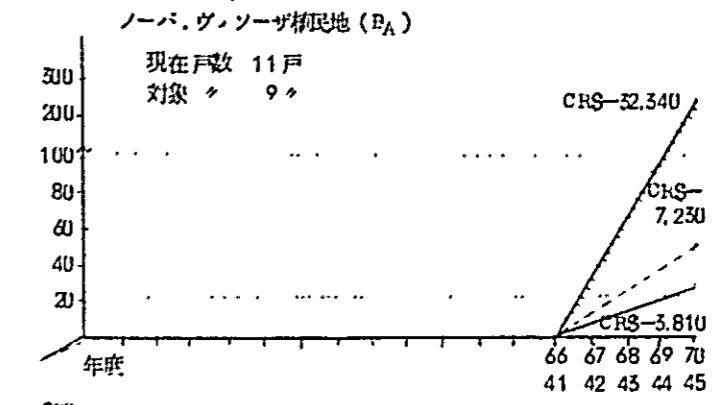
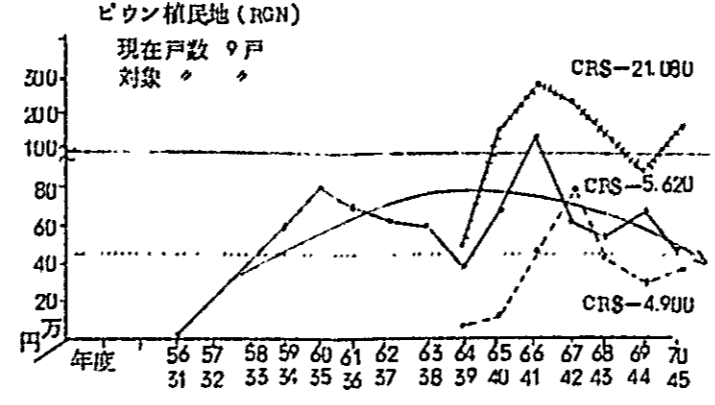
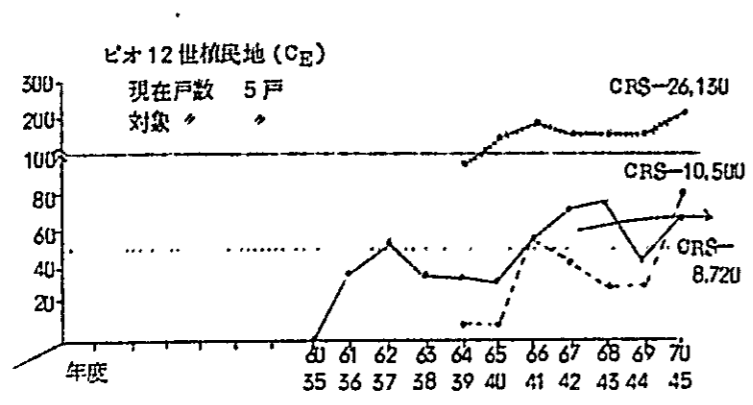
(註)箱の大きさ 60 Kg入用…J・K, イツペラ, ウナ
20 Kg入用…ポニート, カーボ, レシーフェ

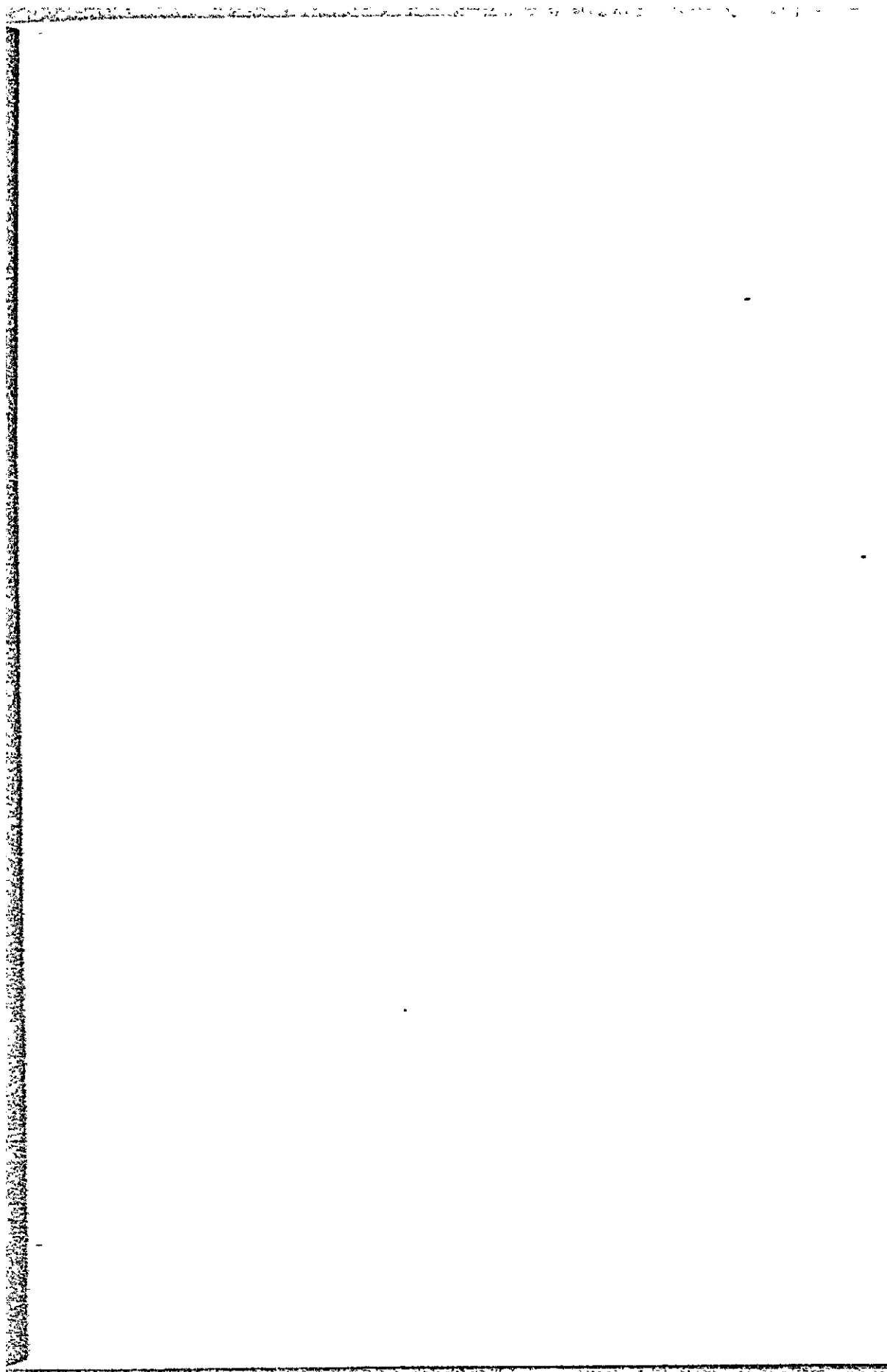
(7) 移住地の資産・負債・農家所得の推移表

1970年度換算率
1USドル=CRS-454
¥ 360
(年度別一戸平均, 単位, 万円)

—	農家所得
—	総資産
- - -	総負債
↗	農家所得の傾向曲線
...	平均生活費(昭45年度)

昭45 現在
レシーフェ支部





Ⅱ ボルトアレグレ支部

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	
4	<ul style="list-style-type: none"> ◦ネクタリン秋期管理講習会 ◦桃栽培モデル農家指導 ◦ぶどう台木のあっせん 	<ul style="list-style-type: none"> ◦集会による懇談会 ◦プロジェクトの作成協力 ◦カシアス・ド・スール農試, イボチ移住地より 	<ul style="list-style-type: none"> ラーモス移住地 ベロッタス バジュー移住地 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 1件 4件分 	
5	<ul style="list-style-type: none"> ◦地権申請期にある農家経営指導 ◦養鶏飼料配合事業指導 ◦チューリップ委託栽培 	<ul style="list-style-type: none"> ◦永年作物の徹底管理話合 ◦原料入手過程の問題点对策協議 ◦定植管理の現地指導 	<ul style="list-style-type: none"> ラーモス移住地 イボチ農協 ラーモス移住地 	<ul style="list-style-type: none"> 2件 2回 1回 	
6	<ul style="list-style-type: none"> ◦産栗協同組合事業指導 ◦ベロッタス農試よりの桃新品種苗木あっせん ◦早生桃の品種指導 	<ul style="list-style-type: none"> ◦組合のうち生産計画指導 ◦新品種特性指導 ◦通信指導 	<ul style="list-style-type: none"> ラーモス移住地農協 イボチ移住地 イタチ移住地 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 1回 1回 	
7	<ul style="list-style-type: none"> ◦移住地農協事業計画指導 ◦気象実績と営農対策指導 ◦果樹園冬期管理講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ◦組員別, 作物別営農収支計画作成指導 ◦通信指導 ◦施肥, 薬剤撒布技術の懇談会 	<ul style="list-style-type: none"> イボチ農協 各集団移住地農協 ラーモス移住地 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 1回4件 1回 	
8	<ul style="list-style-type: none"> ◦ぶどう台木定植指導 ◦霜害対策研究会 ◦スペイン, メロン栽培要領講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ◦適期作業の通信指導 ◦各種防止法の体験発表と討議 ◦実際栽培要領の講習 	<ul style="list-style-type: none"> バジエ移住地 ラーモス移住地 イボチ移住地 	<ul style="list-style-type: none"> 1回 1回 1回 	

昭和46年4月1日現在

成		果		摘 要
当初目標	実現した成果	実現出来なかった要因		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 本年度定植 ○ 2 ha の台木定植 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 長期営農資金貸付で予定どおり定植 ○ 予定どおり挿木，萌芽概ね良好 			
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1～2ヶ月内の地権取得 ○ 掛買いによるトウモロコシ入手 ○ 完全開花を期待 	<p style="text-align: center;">0</p> <p style="text-align: center;">0</p> <p style="text-align: center;">20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 外国人農地取得制限法 ○ 資金繰り困難 ○ 温度，球根条件 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 当分見込なし ○ 現金買い以外に方法なし 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 組合の法定化と事業拡大 ○ 試作徹底管理 ○ 当支部の奨励品種植付 	<p style="text-align: center;">50%</p> <p style="text-align: center;">50%</p> <p style="text-align: center;">50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 伯人との経済，農種目の格差 ○ ぶどう栽培管理労力との脱合 ○ サンパウロより50%は導入 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 小友植民地農協との合併問題 ○ 試験場よりの試作奨励 	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 組合の生産計画と組合員計画との合致 ○ 統計分析対策メモ印刷 ○ 徹底した管理への認識 	<p style="text-align: center;">50%</p> <p style="text-align: center;">100%</p> <p style="text-align: center;">100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生産物の市況変動 		
<ul style="list-style-type: none"> ○ 適期挿木と完全活着 ○ 全移住地の防止法統一 ○ 良品多収 	<p style="text-align: center;">80%</p> <p style="text-align: center;">50%</p> <p style="text-align: center;">20%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 定植畑準備おくれによる台木の品質低下（乾燥）で活着率不良 ○ 設備資金の有無 ○ 夏期の異常連続降雨による病害の激発 		

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は 研究グループ名	対象件数 又は 実施回数
9	◦開発銀行に対する営農収支計画報告書指導	◦個人の収支計画表の累計報告	イボチ移住地	1回
	◦ぶどう剪定講習会	◦若木ぶどうの整枝剪定技術研修	管内ぶどう栽培	1回
	◦病害対策指導	◦通信指導	イタチ移住地	1回
10	◦病害対策指導	◦病害の診断と薬剤撒布の徹底指導	イボチ移住地	3回
	◦短期作(そさい, 雑作)講習会	◦種目グループ別座談会	ラーモス移住地	1回
11	◦当面の営農ポイント指導	◦組合の集会で共同研修	ラーモス移住地	1回
	◦農産物展示会指導	◦協同出品による審査, 表彰	ポルトアレグレ市 近郊全域	1回
12	◦ぶどう摘果技術講習	◦摘房, 摘果の適期作業の徹底	イボチ農協	1回
	◦肉用鶏高鳥被害対策講習会	◦技術, 操作々業の検討講習	イボチ農協	1回
1	◦ぶどう, 桃の新梢管理講習会	◦実地指導	バジエ移住地	1回
2	◦ぶどう台木育埋指導	◦通信指導	バジエ移住地	1回
	◦ぶどう収支見積指導	◦個人別プロジェクトのチェック	イボチ移住地	34件
3	◦温帯果樹経営技術講習会	◦特に最近の日本果樹園芸講習会	ラーモス移住地	1回

成		果		摘 要
当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 計画的返済の実行 ◦ 適期実行をはかる ◦ 適期実行をはかる ◦ 病害の的確な診断 	<p style="text-align: center;">0</p> <p style="text-align: center;">80%</p> <p style="text-align: center;">50%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生産計画の狂い（気象市況） ◦ 蔬菜との複合営農による作業のズレ ◦ 現地指導ができなかった 		◦ 南伯中央産組，平松薫
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 完全防除 ◦ 協同出荷体制の確立 	<p style="text-align: center;">70%</p> <p style="text-align: center;">90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 連続降雨による全面発生で労力的についてゆけぬ者が続出したこと ◦ 若干の協調意欲のみだれ 		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 摘果と灌漑による果の肥大促進 ◦ 前年よりも充実に期す 	<p style="text-align: center;">90%</p> <p style="text-align: center;">100%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 欲ばった摘果が見られる 		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 適期作業の推進 ◦ 完全防止 	<p style="text-align: center;">70%</p> <p style="text-align: center;">90%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 摘果と肥大生理に対する認識不徹底 ◦ 施設々備不完全 		
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 適期の管理徹底 ◦ 中太台木の育成 ◦ 経営資金繰計画の確立 	<p style="text-align: center;">80%</p> <p style="text-align: center;">80%</p> <p style="text-align: center;">80%</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 適期を逸したこと ◦ 出役指導できず要領の不徹底（台木の太りすぎ） ◦ 資金繰に困った者あり 		◦ 外部技術者に委嘱
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 国庫園芸の認識強化 	<p style="text-align: center;">100%</p>			

Ⅲ サンクルス支部

(1) サンファン試験農場

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区名 又はグループ名	実施回数	
4	棉作	説明会	沖縄第3移住地	1	
5	牧草栽培	実地指導	サンファン	1	
6	家畜管理, 牧草栽培	実地指導	サンファン, 沖縄	1	
7	家畜管理, 牧草栽培	実地指導	サンファン	1	
	棉作	説明会	沖縄第1, 第2	2	
	農産物品評会	展示	サンファン	1	
8	営農関係懇談会	講習会	サンファン	1	

昭和45年度

当初目標	成 果		摘 要
	実現した結果	実現しなかった要因	
棉作導入可能性の認識	80%	認識の不足。 資金、稼働力の不足。	第1～第3移住地にわたり、41戸240haの試作を行なうこととなった。
Morkeron, Colonion の栽培指導	30%	意欲の低調。 現金収入に追われ牛導入の経済的余裕のないこと	が国農牧省技師による。
家畜飼育の改善、牧草栽培上の留意点	40%	同 上	が国農牧省技師による。
家畜飼育の改善、牧草栽培上の留意点	40%	同 上	が国農牧省技師による
棉作導入可能性の認識	85%	認識の不足。 資金、稼働力の不足	
各自丹精こめて作った農産物を相互に紹介し、農産生産に興味を持たせ、ともに助長振興を計る。			入植15年祭の一環として行なわれ、盛大であった。
沖縄移住地の農家経済調査集計結果の報告、ラパス、ユンガス方面の営農事情の説明又ブラジル地方の棉、小麦の現状等移住地外部の営農事情を広く入植者に知らしめる。	80%		技師・有働支部長、平野場長

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区名 又はグループ名	実施回数
10	作目別グループの編成	講習会	サンファン	1
11	台湾, サンパウロにおけるボン カンの栽培法	講習会	サンファン みかんグループ	1
	牛購入にあたっての注意事項	講習会	サンファン 牛グループ	1
	苺の市場性	講習会	サンファン 苺グループ	1
	今後の花卉栽培について	講習会	サンファン 花卉グループ	1
	家畜管理, 牧草栽培	実地指導	サンファン	1
	農機便り	印刷物	サンファン, 沖縄	1
12	みかん接木	実地指導	サンファン	1

当初目標	成 果		摘 要
	実現した成果	実現しなかった要因	
現在主作物となっている稲作の他に、将来有望な作物がいろいろある。これらの作物につき栽培知識技術を習得し、新規特産物として市場に売出せるまでの諸研究又はその生産を計る。	80%		次のグループが結成され、毎月、又は必要に応じ例会がもたれている。 (1)みかん(58名) 牛(16名) (2)バナナ(17名) 七面鳥(5名) (3)苺(19名) (4)花(24名)
当地におけるボンカン栽培上未だ不明な点が多いので、他国の栽培例を知り、当地ボンカン栽培上の参考とする。	60%	認識の不足	このような会合を何回も持ち、知識、技術を完全に習得させる必要がある。
当地での牛導入はまだ外部に依存するところが大きい。導入にあたって病虫害の有無、系統の良否、又受入側の必要事項を認識する。	60%	認識の不足 資金の不足	
当国における苺の需給現状を知り、採算にありか否かを判断する。	50%	生理的に適地と思えない。市場の現状拡大の可能性がまだ良く分っていない。	自家用には10戸程度栽培されているが、種類品質は悪い。
当地の気候、サンクルース市の流通現状からみて、どのような花卉栽培が成り立つかを知る。	50%	百合の栽培は可能であるが、市場拡大の可能性が良く分っていない。	百合の栽培は、家庭用に10戸、販売兼用に1戸が行なっている。
家畜飼育の改善、牧草栽培上の留意点	40%		が国農牧省技師による。
広く諸外国の農業事情、新規農産物、新規作物又はその栽培法等を紹介する。	50%		入植者希望によりサンファン52部、沖嶺29部、計81部を配布している。
みかん類芽つぎの時期、方法を習得させる。	約50%	技術を習っても、成功するまで自分でやってみない。	本年9-11月にならないと、確実な結果は分らない。

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区名 又はグループ名	実施回数
12	バナナ、七島閣について	講習会	サンファン	1
1	今後の営農のあり方について	座談会	サンファン 7実行組合	1
2	柑橋作付計画	講習会	サンファン みかんグループ	1
	今後の間草栽培について	座談会	サンファン 間草グループ	1
3	柑橋芽つき	実地指導	サンファン みかんグループ	1
	家畜の病気予防	実地指導	サンファン 希望者	1

2 普及指導上の反省と所感

(1) 入植者個々の営農上の進展又は失敗の事実を逐次適確に判断、手あてをする指導陣容又は、体制に欠ける。

営農上の診断を適切に行ない、その指図を敏速に計れる体制が必要である。

(2) 営農指導上重要な技術、知識の普及にあたっては、座談会や印刷物の配布だけでは、理解の程度が浅く、どうしても最先で実地指導を行なう必要がある。

(3) 経済的階層分化が急速に進んでいる。中位層にある入植者については、個々に営農遅滞の要因を究明し、改善への技術的、資金的援助を必要とする。この層は入植戸数の約60%を占めると推定される。

下層位にある者については、転敗、兼業等を促める。これは事業所の協力を得指導する要がある。

(4) 現在、牛、鶏を中心として養畜の気運が高まりつつあり、この振興は大に計る必要がある。定期的に沖縄畜産センターの協力を得ているが、突発的な発病指図に際し、往復310kmにある

成 果		摘 要	
当 初 目 標	実現した成果		実現しなかった要因
当移住地で産菜として成立するかを知る。栽培上の問題点を知る	未 定		七島 については本年中に試験販売にまでもってゆき、総合結論を出す。バナナは増産を推進する。
営農の体系化、生産の団地化を計る。	未 定		毎月行ない、農業経営のあり方、栽培技術の習得を計る必要がある
各戸の所有面積100haとし、農業経営の一環として、どのような品種のみかんを何ha位植えたら良いかを、戸々に判断する。	50%	資金不足により意欲がありながら実行出来ないもの、決断をしにくいもの。	約半数は方針を決め、植付準備にとりかかっている。
当移住地で産菜として成立するかを知る。栽培上の問題点を知る。	未 定		入植者古木氏と試験場で共同作業中。
みかん類芽つきの時期、方法を知る。	50%	意欲のある者とない者があり、ないものは反復訓練怠り成功率低い。	
豚、牛、豚の子防注射	70%	認識の不足。意欲の低調	豚コレラの子防注射を実施、豚は全戸、牛は半数について行なった

同センターの協力はなかなか受けにくい。最低必要な技術、薬品、器具は当農場でも具備しておく必要がある。

3. 営農担当者の体制

氏 名	所 属	概 要
宮 川 清 忠 (昭和45年12月以降)	サンファン試験農場	試験及び普及業務総括。沖縄移住地の作物部門、特に棉作についても兼任している。日常の営農指導についてはサンファンが主となるが、沖縄の棉作については、沖縄事業所に専門連絡員を置き、これと協議指導の効率化を計ろうとしている。
遊 佐 健 輔 (昭和46年2月以降)	サンファン試験農場 サンフ	総務、試験、普及

(2) ヌエバエスペランサ畜産試験農場

1 サンファン・オキナワ各移住地普及指導状況

昭和46年3月現在

月別	普及指導事項	普及方法	対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は総回数	成 果	
					当初目標	実現した成果
1月	家畜の飼養管理	巡回指導	サンファン移住地	5	家畜の合理的飼養管理向上	
"	"	"	沖縄第1移住地	3	"	
"	"	"	" 第2 "	2	"	
"	"	"	" 第3 "	2	"	
2月	家畜防疫について	講習会	" 第1 "	1	家畜伝染病に対する認識を深め 予防接種の徹底	
"	"	"	" 第2 "	1	"	
3月	雄牛の去勢	実地指導	" 第1 "	2	肥育牛の内質改善	
"	家畜防疫について	講習会	" 第1 "	1	家畜伝染病に対する認識を深め 予防接種の徹底	
"	"	"	" 第3 "	1	"	
"	"	"	サンファン "	1	"	

2 普及指導上の反省と所感

(1) 普及指導活動の反省

- イ 45年度は普及指導担当者が45年12月に赴任したため、僅かな期間しか普及指導活動は出来なかった。
- ロ 移住地内外関係機関との協調が欠けた感があり、今後は関係機関との連絡を密にし、普及指導したい。

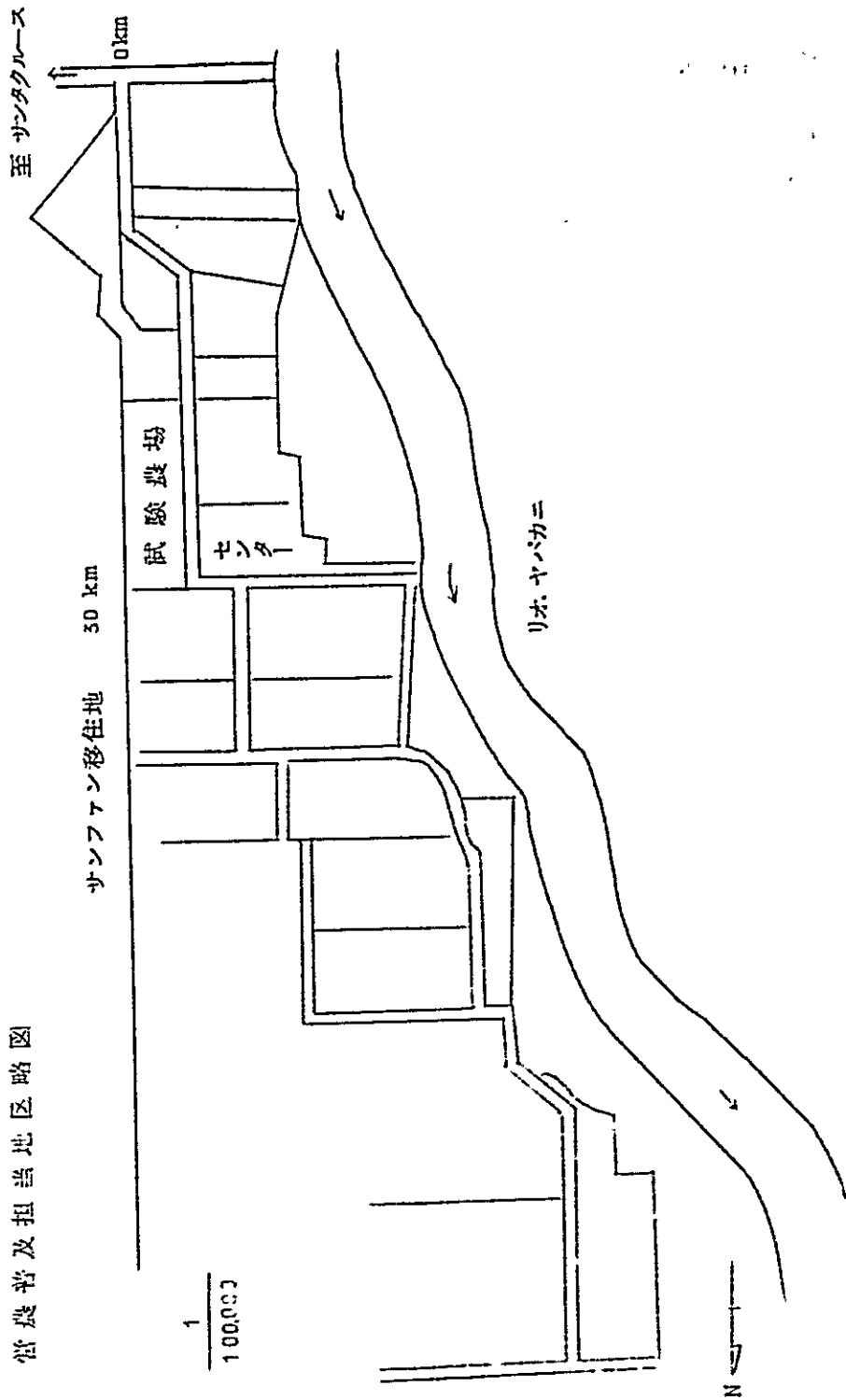
(2) 今後の方向についての所感

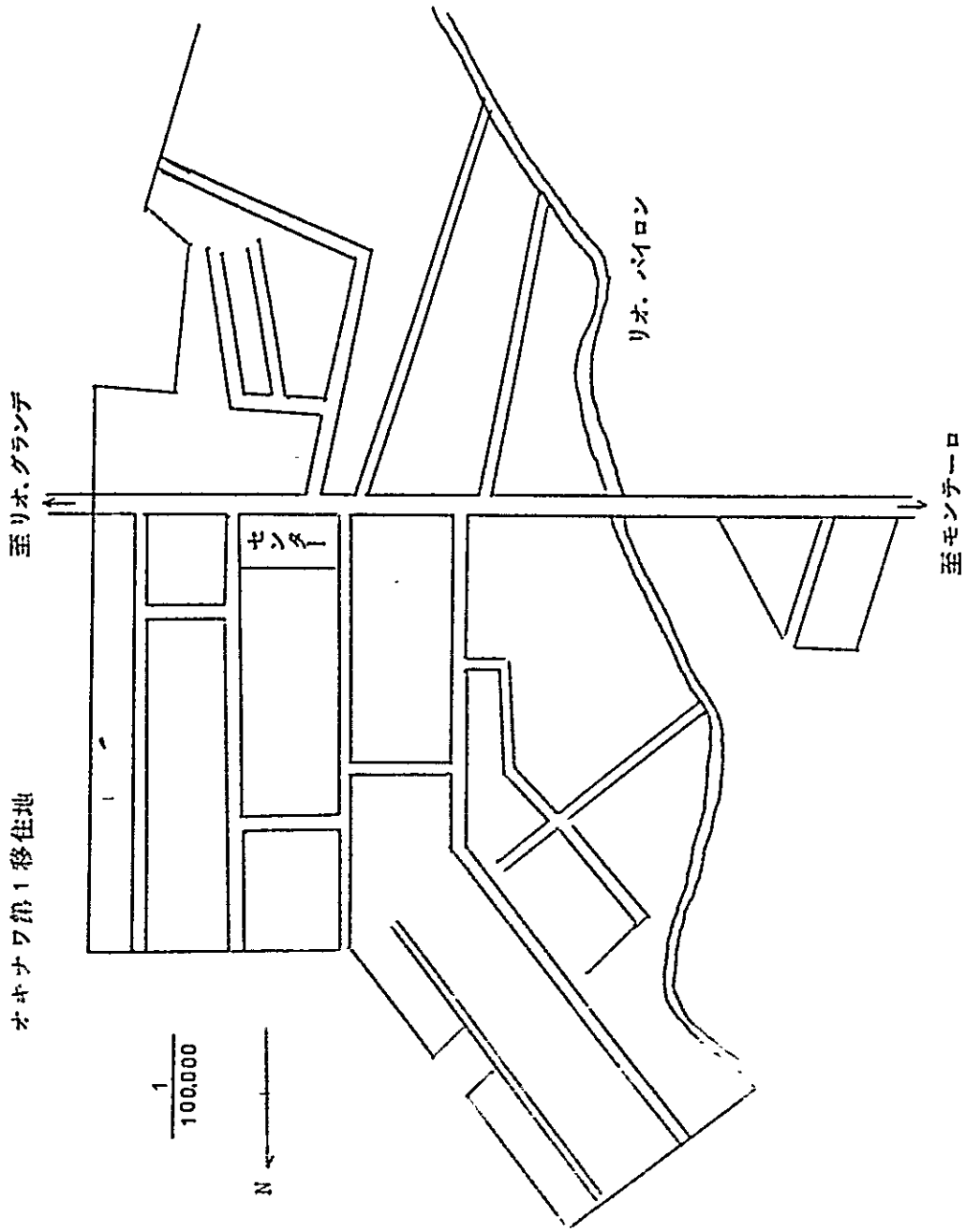
- イ ポリビア国には各種の家畜伝染病が散在しているので、先づ家畜伝染病の予防を重点的に普及指導したい。
- ロ 現在の粗放的畜産経営を除々に集約的、合理的経営の方向へ普及指導したい。
- ハ 現状の普及指導体制では各戸別巡回指導には限界があるので、講習会、パンフレット等の手段を講じて普及指導したい。

3. 営業担当者の体制

氏 名	所 属	摘 要
大 城 弘四郎	オキナワ事業所	

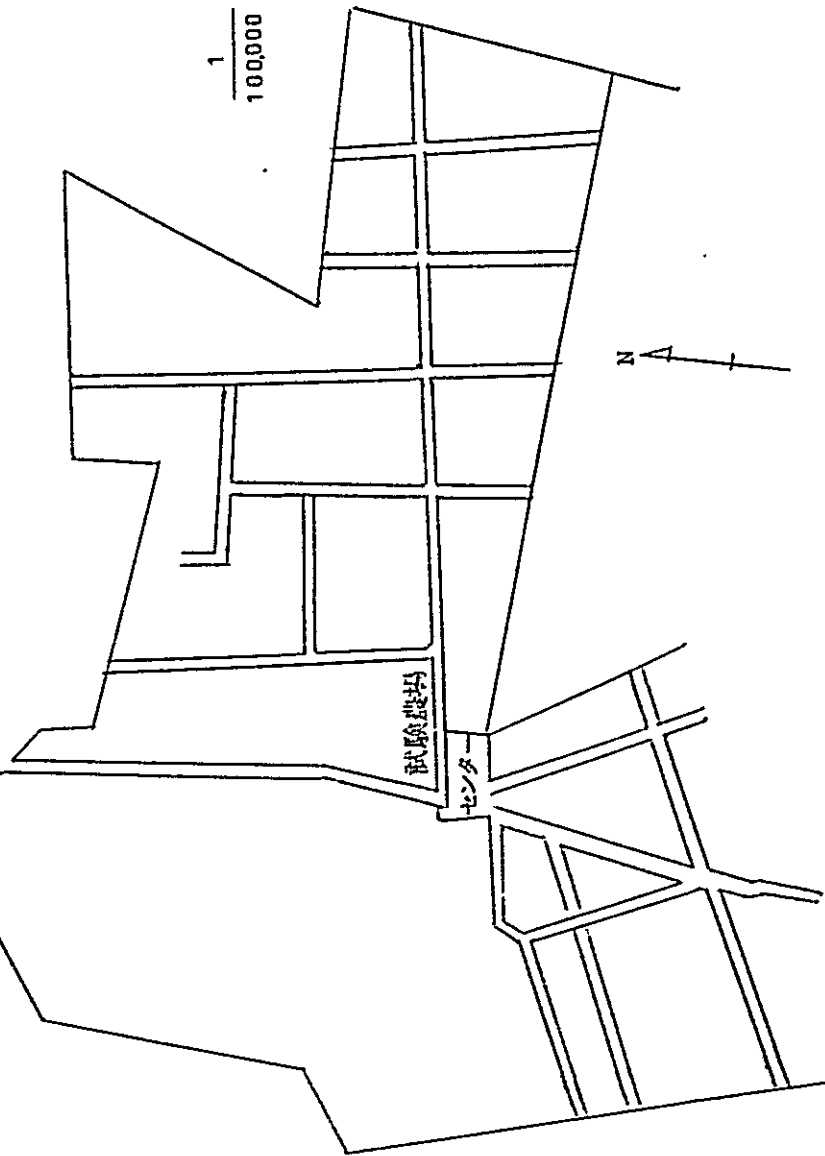
営農普及担当地区略図



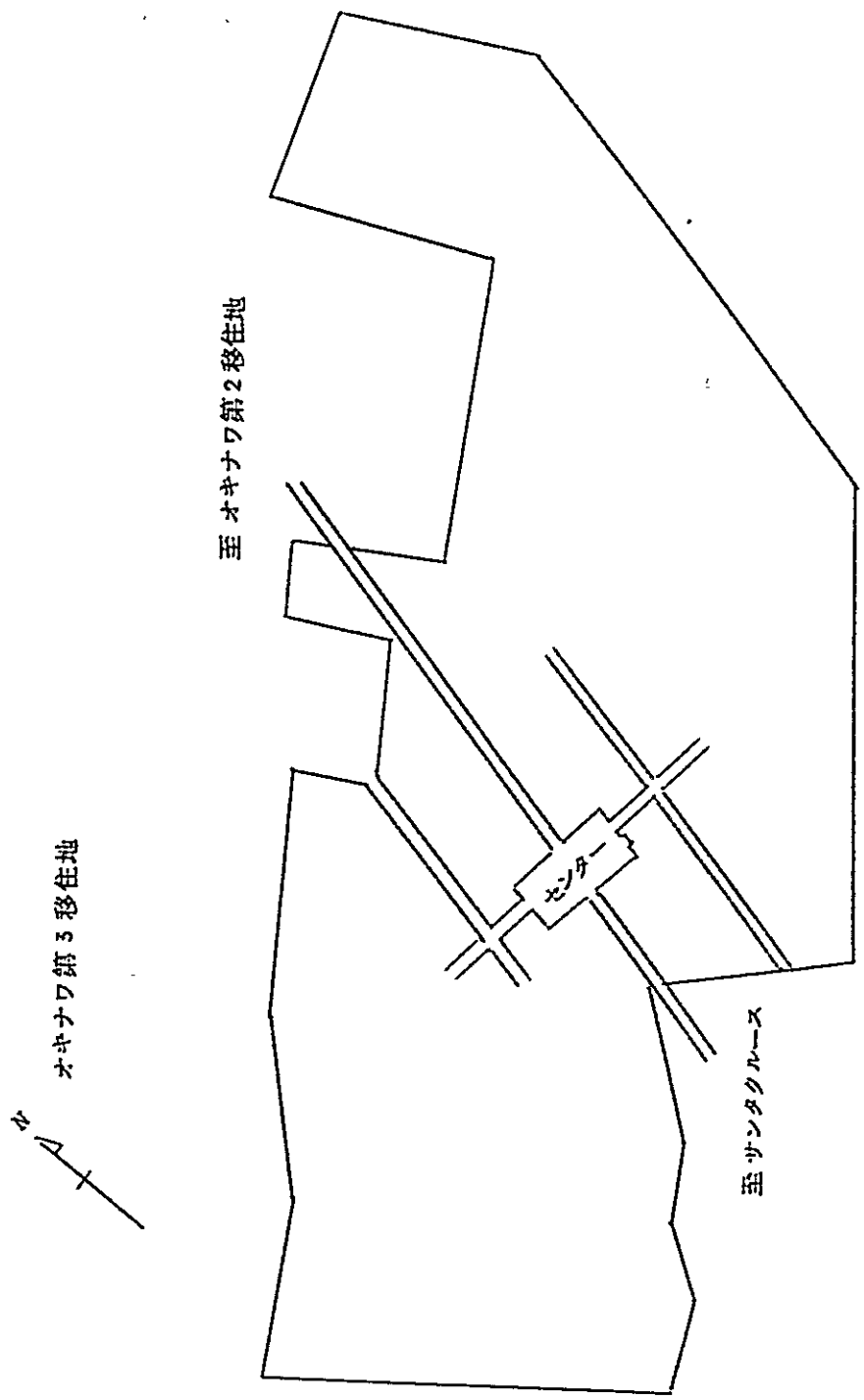


オキナワ第2移住地

至オキナワ第1移住地



至オキナワ第3移住地



Ⅳ プエノスアイレス支部

—アンデス事業所—

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名
4	給水ポンプの合理的運営 ブドウ新植並びに販売申請	農協水利部を通じ指導	全戸 全戸
5	営農関係図書購入回覧	農協を通じ各戸に回覧	全戸
6	生活改善料理講習 ブドウ奨励品種の再生産	講師による実地指導 冬期冷蔵保存	婦人部 営農部
7	用水路の保全維持 乾燥野菜販売指導	幹線支線水路の清掃 消費地との直接販売	全戸生産者5名
8	環境整備	苗木購入により移住地の緑化促進	全戸
9	土壌塩分に関する一般認識の普及	代表部坪井営農担当職員による講習会	全戸
10	トマト新品種試作奨励 灌漑水不足対策と給水ポンプの完全利用	野田氏に依頼栽培 農協水利部を通じ指導	短期作物栽培者 全戸
11	北米高級農産物の紹介映画	映画を通じ各自に指導	地区内希望者
12	用水路の保全	幹線支線水路の夏期保全清掃	全戸
1	1970年度稲付作物調査 営農拡大に対する指導	各戸巡回調査指導	全戸
2	給水ポンプの農具への移管、自主運営管理 株の販売指導	農協水利部を通じ指導 企業者の調査、紹介	全戸 希望者
3	ブドウ栽培管理知識の普及	サントリー石井博士による講演会	全戸

昭和46年4月現在

対象件数 又は 実施回数	成 果			摘 要
	当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因	
2 2戸 2 2戸	農協への完全移管 20ha	洪水期の利用 11.3ha 新植	組合員の団結不足 資金不足	
2 2戸	営農認識の向上			農耕と園芸 家の光
2回 2 2戸	現地料理2品習得 苗1000本生産	700本生産	親木生育不良	講師謝金 苗冷蔵用資材
2 2戸 5戸	冬期水路清掃 手持品の一掃	産税局より認可 手持ちの1/2販売	邦人間の需要に限度 がある	
2 2戸	住宅周辺の植樹 幹線道路の植樹	苗木成育順調		苗木代、燃料費
2 2戸	一般概念把握			
2 2戸	苗木の生産 農協への移管	少量生産 洪水時の利用	風害による枯死 組合員の団結欠除	
1回	全員出席	15戸出席	農作業(洪水)によ る欠席	
2 2戸	夏期水路清掃	産税局より認可		
2 2戸	全戸指導			
2 2戸	農協への完全移管	完全移管完了		
5戸	有利販売	完全販売		
2 2戸	全員の出席	15戸出席	農作業(洪水)によ る欠席	

2 普及活動上の反省と所感

アンデス移住地において、常に問題となるのは、灌漑水絶対量の不足である。

周辺農耕地は増大の傾向にあるも、逆に灌漑水は減少の傾向にあり、年毎に問題は深刻化している。昭和45年度より、過去10年間納入し続けていた水利税の見返りとして、第2次造成地区割当の灌漑水の供給が始まり、前年に比し、大巾な給水計画を樹て得たが、増水分は全て第1次地区に投入既植の永年作物、短期作物の栽培管理に充当する事にて辛うじて営農を維持している現状である。

従って、大量の水を消費する短期作物栽培は極力抑え、永年作物、特にブドウの植付に切替えるべく指導している次第であるが、これとて限度があり、現在大半の入植者の有する2ロッテ(20ha)を全面ブドウ或は桃等の植付を実施するには、遺憾乍ら、灌漑水が足りず、完全な生育、管理は望めない。

当指導方針としては、水不足を補う手段として、深井戸よりの供給を利用させるべく、これが充分な管理と運営を農協水利部自体にて行い様、強く説得に当たっているが、過去数年に亘る事業団に対する強い依頼心が未だに根強く、特に差し迫った問題として受取られていなかったが、幸いにして昭和45年度末に至り、ポンプ運営管理を農協水利部にて行い事に組合員全員の意見の一致をみ、移管が実現、自主運営に動き出した次第である。これ迄に到達するに長時間を費した事は事業所としての指導が充分でなかったと反省する。

当移住地は、少数家族の入植者により構成され、僅か22戸在住するに過ぎぬも、入植者間の年齢層・入植の動機、或は入植地区等にて種々のグループが発生、仲々全員の団結が期し難い面があるが、これを早期に改善し、農協の体質改善と共に入植者をして協調精神の高揚に努めさせるべく、指導方針としたい。

— ガルアッパー事業所 —

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名
4月	<ul style="list-style-type: none"> 温州みかんの植付奨励 アナナス施肥改善 	<ul style="list-style-type: none"> 優良苗木の配布,パンフレット配布,講習会 巡回指導,講習 	柑橋グループ 栽培農家
5月	<ul style="list-style-type: none"> 紅茶のさし木 柑橋類の優良台木用種子の播種(クレオパトラ,ランブル) 	<ul style="list-style-type: none"> 実地指導,苗木,穂木のあっせん 種子の配布 	紅茶部会 柑橋部会
6月	<ul style="list-style-type: none"> パルタの接木 	<ul style="list-style-type: none"> ブラジルからの資料,提供託試験 	先進農家
7月	<ul style="list-style-type: none"> トマト栽培 大豆栽培の普及 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培原理の講習 買付工場との話合,講習 	蔬菜グループ 柑橋栽培農家の 間作導入
8月	<ul style="list-style-type: none"> 柑橋の間作に換金作物の導入(スイカ,メロン) 柑橋の密植栽培と畝肥の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 講習,討議 先進地の視察と反省会 	柑橋部会
9月	<ul style="list-style-type: none"> 紅茶のさし木による育苗 	<ul style="list-style-type: none"> 育苗農家の体験発表 	紅茶グループ
10月	<ul style="list-style-type: none"> 種豚の導入 	<ul style="list-style-type: none"> 先進スイス人豚部落の視察,繁殖用種豚の導入 	養豚グループ
	<ul style="list-style-type: none"> 台湾樹の母樹育成 	<ul style="list-style-type: none"> 種根,バラグァイより導入,配布 	全農家
11月	<ul style="list-style-type: none"> 大豆選品種作付奨励 	<ul style="list-style-type: none"> バラグァイより大豆種子導入 	大豆作付希望農家
	<ul style="list-style-type: none"> 営農型題の在り方 	<ul style="list-style-type: none"> 先進移住地の視察 	婦人部

対象件数 又は 実施回数	成 果			摘 要
	当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因	
20戸 5戸 栽培農家	<ul style="list-style-type: none"> グーリス病に対する経営上からの対策 葉芯栽培 葉芯施肥 	<ul style="list-style-type: none"> 各農家平均1ha以上保有 栽培農家5戸 栽培農家5戸 		
7戸 20戸	<ul style="list-style-type: none"> さし木繁殖による苗木育成 全戸 	<ul style="list-style-type: none"> 6戸保有 15戸 	<ul style="list-style-type: none"> 発芽不完全 	
2戸	<ul style="list-style-type: none"> 接木の成功 	<ul style="list-style-type: none"> 80%成功 		接木の時期と穂木と台木の樹液量の問題
13戸 12戸	<ul style="list-style-type: none"> 経営上の潤活油 全農家 	<ul style="list-style-type: none"> 全戸 10戸 	<ul style="list-style-type: none"> 播種期の干魃で発芽不揃 	
20戸 15戸	<ul style="list-style-type: none"> 5戸 全戸 	<ul style="list-style-type: none"> 2戸 日本みかん計画密植栽培実現 	<ul style="list-style-type: none"> 技術の不足 緑肥の導入は2戸のみ 	
6戸	<ul style="list-style-type: none"> 活着率80% 	<ul style="list-style-type: none"> 60%程度 	<ul style="list-style-type: none"> さし穂の採取時期とさし木の時期 	
2日	<ul style="list-style-type: none"> 種豚配布農家2戸育成 	<ul style="list-style-type: none"> 2戸飼養 		
2回	<ul style="list-style-type: none"> 自家育成母樹の確保 	<ul style="list-style-type: none"> 14戸 		種樹不足
40ha分 20戸	<ul style="list-style-type: none"> 全農家 	<ul style="list-style-type: none"> 100% 		
30人	<ul style="list-style-type: none"> ミジョネス農業に希望を持たせる 	<ul style="list-style-type: none"> 希望を持った 		

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区名又は研究グループ名
12月	○有望新規作物および新品種のブラジルより導入(苺, パルタ, トマト, ビーマン)	○委託栽培	蔬菜部
1月	○冬野菜導入計画の打合せ	○優良種子ブエノスより導入	柑橘栽培者
2月	○パリタの柵木用種子の確保	○種子採取配布	3戸
3月	○ブラジルのトマト, アナナス, 柑橘, 苺, 其の他の栽培についての講習 ○ブラジルより, パルタ, ベカン, 苺, トマト, ビーマン, 無グールス病柑橘母樹の大量導入	○講習会 ○委託栽培	全農家

2. 普及活動上の反省と所感

当移住地は吾国に於てテラランヤ土壤, 亜熱帯気候と特殊地帯に属し, 然も開発の歴史が浅い, 一方当国の農業政策なり農業技術はすべて温帯地域に偏しているのが現状である。

然も, ブエノスへ直結する産業道路が整備された今日, これらの特殊地帯の利点を生かす農業経営方法をあみ出す必要がある。

其のためには, 従来まで行って来たタバコ栽培をつなぎとして, 油桐, 柑橘一本の永年作の農業経営から脱皮して, 農業を焼き直した熱帯農業技術をブラジルから導入する必要がある。

ブラジルからの講師の招き, 2度に亘る移住者のブラジル視察等を通じて, 当移住地の自然条件, 立地条件が如何に恵まれているかを認識させると同時に, 目をブラジルに向けさせる事により, 将来の当移住地の方向づけに成功したと思われる。技術はブラジルより, 市場はブエノス市場へと考へて行く必要がある。

普及活動上, 大豆の導入, 無グールス病柑橘のブラジルよりの導入, 紅茶のさし木等, パリタの柵木繁殖, トマト, ビーマンのビニールトンネル栽培等, 新たに手をかけた作物があるが, いづれも, 技術の向上と経験を必要とする事を痛感する。

油桐, 柑橘, マンジョカ等の未収が多かったため, 急場をしのご意味で, トマト, ビーマン等の蔬菜の導入を図ったが, 技術を要求するこれらの作物を最少面積に抑えた事はよい結果となり今後ともあくまで, 目標を永年作において, それへのつなぎ或いは経営の潤滑油として採りあげて行きたい。未だ技術が不足しており, 今後選別防除, 施肥法の確立が必要であり, 篤農家, 先進農家に新しい事を試験させながら移住者をどんどん引張って行きたい。

対象件数は 実施回数	成 果			摘 要
	当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因	
10戸 配布	○適品種の選定	○ピーマン、パルタは成 功	○トマトは失敗、再 度要試験	
13戸	○ピーマン、トマト の導入	○全戸植付		
2回	○先進農家育成	○3戸、全戸		
全戸	○ブラジルより技術 の導入	○各農家ブラジルに目を 向けさす		

パルタの導入、台湾桐の種子繁殖、無ウイルス病柑橘苗木の導入について、INTAも利用価値があるので、今後活用の方法を研究する必要がある。

3. 環境概況

部門	区分	現 状	
自然環境	土地	地形	起伏が多く、溝の深い小川が多く、石礫地帯が多い。 1 ロッテに 10 ha も平坦で然も耕作可能な面積を有するロツテは少い
		土 壤	土壌侵蝕および、退耕者跡の（タバコを栽培したため掠奪した土地）再生林が多い。 土壌侵蝕により土壌構造が相当破かいされている（タバコを栽培したことがあるため）
	気 象	降霜・敵気象	降霜が当地農業の制限因子、気象に一定の周期がなく年々変化がある
		災 害	降霜，降雷，旱魃
社会経済環境	市 場	周辺に歴史のある外人農協の加工場等が多く、然も国道 1 2号線の舗装化により、フェノス市場直結の農産物の出荷が可能な時代に入っている。	
永年作物	柑 橘 類	栽培柑橘は殆んどカルデロン種，一種類であり，グィールズ病に罹っており，なお病気は進行しつつある。	

昭和46年4月1日現在

問 題 点	対 策
<p>各農家土地条件が異なるため、利用方法も異って来ているため、各農家、まちの営農形態をみ出しているため、組合運営、販売、移住地管理、あらゆる面に問題がおきている。</p>	<p>傾斜地、石礫地帯は植林、或いは牧草導入による肉牛の放牧。 高台は紅茶、柑橘、バナナ河周辺の無霜地帯はパイナップル、パルマ等地域を区分して産地化の形成を図る。</p>
<p>再生林の耕地化は不経済で土地の価値がない。 土壌保全とトラクター農業のあり方。 土地利用方法と被覆作物の導入</p>	<p>牧野化、植林、焼畑農法、二圃式農法の確立による耕地化を図る。 緑肥の導入、トラクター耕耘の時期、永年作物の導入</p>
<p>微気象と栽培技術の確立、気象条件に合った栽培技術の確立 作物の選択、永年作、牧草の導入</p>	<p>防霜対策 防霜林の設置 乾燥農業の確立 気象条件とにりみ合わせた除草、施肥、播種 適地適作主義と永年作物、牧野化による肉牛の導入、中小家畜の導入</p>
<ul style="list-style-type: none"> ○ プ市場向農産物の品質改善 ○ 梱包方法の確立 ○ プ市場の端境期を狙う栽培法の確立と、作付農産物の選定 ○ プ市場内作物の選択統一と産地化の形成 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブラジルより入荷する農産物の調査 2. ブラジルより優良品種の導入 3. 計画出荷と周辺邦人移住者との連携
<ol style="list-style-type: none"> 1. 保母苗木を植付したこと 2. 乾燥時のトラクターによる除草で病気の進行を早めた 3. 対ヴィールス病性の他の種類（ポメロ、マンダリーナ、レモン）の組合せが行われていない 4. 台木をカラタチ台を使用 	<ol style="list-style-type: none"> 1. ブラジルより病ヴィールス病母樹の導入 2. 台木はランブルを使用 3. ポメロ、マンダリーナ、レモン等の組合せ植付により収穫期を異にして現金収入を常に得る事 4. カルデロンに変わる同一系統のパレンシヤ種の無病母樹をブラジルより導入

部 門		区 分	現 状
永 年 作 物		植 林	2戸の農家のみ植林専業にしておりあまり進んでいない。
		紅 茶	1.紅茶のさし木繁殖により植付奨励 目下苗床保有農家7戸 本年度より定植の予定 2.従来の実生繁殖より脱しさし木繁殖により収量、品質の改善

4. 農作物・家畜別概況

部 門		区 分	現 状
有 望 永 年 作 物		パ ル タ	ブラジルより優良品種10種類導入在来のメキシコ系台木に接木中
		ウーグァイタリヤーノ	導入予定
		台 苧 桐	各農家、庭先に植付してある。
短 期 作 物		大 豆	本年度本格的に栽培 平年作

問 題 点	対 策
<p>農家が植林に対する農業経営上の位置づけを認識していない。</p> <p>1. さし木の時期選定 2. さし穂の採取時期 3. 苗床の病虫害 4. ビニールの張り方</p> <p>さし木の治癒率が悪く然も定植の時期、定植に問題あり、新伐開地にはさし木苗がよいが、旧い畑には実生植付の要あり。</p>	<p>タバコの前渡資金と植林融資（低利子）の組合せ利用により、他部門とは別個に独立部門経営方式をとらせ、毎年1 ha 植付の奨励</p> <p>1. 1 2月さし木を5月さし木に変える 2. 穂木を若木より採取して老熟穂木をさける 3. 土壌消毒、ビニール、其の他の資材の消毒 4. さし木苗により優良母樹を育成して、其の中から種子を採取、実生として門引を行いさし木苗繁殖と同程度の紅茶園の造成</p>

問 題 点	対 策
<p>1. 台木による対霜性品種の選抜 2. カミキリムシの駆除 3. 矮性化 4. プ市場端境期に収穫しうる品種の選抜</p> <p>大量繁殖、種子繁殖したい。現在は種根繁殖</p>	<p>1. ブラジルより技術の導入 2. 台木はメキシコ系在来種の使用（対霜性、矮性化）</p> <p>台母での試験データを導入、ブラジルより技術導入種子繁殖方法を研究</p>
<p>1. 農家栽培技術の不足 2. 播種期の乾燥で選期免した 3. 選期除草の必要 4. トラクター利用の栽培方式確立</p>	<p>1. 選期播種 2. トラクター耕起後すぐ播種 3. 除草を1回を2回にする 4. トラクター栽培の先進地視察</p>

部 門	区 分	現 状
短期作物	トマト,ピーマン	現在柑桔類,油桐,マンジョカ等の売行が悪いので急場をしのぐ作物として,ブ市場向け導入している。
	タバコ	従来より作付面積が減っているが,現金収入が確実なので現在15ha位にとどまっているが,政府買上げの価格保証
新作期短期作物	小豆	日瑞より契約栽培の要請
	ホーキ草	芝本産菜との契約栽培のための試作

5. 改善対策の選定とその性格

地区又は区域名	部 門	改 善 上 の 問 題 点
ガルアッパー移住地	土地 利 用	1.傾斜地の利用 2.石礫地帯の利用 3.再生林の利用 4.土壌保全 5.微気象と土地利用
	社 会 経 済 境	1.産業道路の整備 2.流通機帯の整備

問 題 点	対 策
1 トマト、ピーマンとも1株当りの収量が少い 2 病害虫の発生が多い 3 施肥方法が確立されていない 4 完全な防霜法の確立 土地を荒す作物なので新設開地1回のみ作付し、 女、子供の稼働力を利用出来る農家に普及	1 ブラジルより対病、対霜、収量の多い品種10 種類を導入適品種の選定 2 慣行施肥の調査による施肥基準を決め、土壌分 析を行う 3 小面積、完全防霜、有機質施用で収量をあげる 4 ブラジルで行われている防霜方法を導入 5 ビニールトンネル栽培 他作物との労力競合を考慮して現金収入の入り得る 小面積、高収量をあげる栽培方法を採用
日本種は通さない面あり収量があがらない 規格に合う品質良好なものが生産し得るかどうか	適品種の選定、播種期の選定、委託栽培 委託試験栽培

同 右 対 策	対策の性格					実施主体		可能性		
	音	調音	試	資	他	事	他 ・他	困 難 度	適 用 度	効 果
1 牧野造成による肉牛の放牧	◎									
2 アメリカ松の植付		○								
3 石垣苺の栽培			○							
4 糞肥作物の導入と二圃式農法の確立	○									
5 等高線栽培と帯状緑肥作物の導入 降霜地地区、無霜地帯、湿地帯等の区分による 作物の選定		○								
1 プ市場出荷農産物栽培の選定		○								
2 ミシヨネス州日本人の計画出荷	○									

地区又は区域名	部 門	改 善 上 の 問 題 点
ガルアッペー移住地	<p>農</p> <p>業</p> <p>経</p> <p>営</p> <p>柑</p> <p>橘</p>	<p>1. 営農基盤の確立と永年作の組合せによる多角経営</p> <p>2. 永年作物到達するためのつなぎ方法の改善</p> <p>3. トラクターの利用と作付体系，経営形態の改善</p> <p>4. 農作物の産地形成</p> <p>1. 各品種組合せによる年間を通じての現金収入， 或いは対ウィールズ病対策となり得る</p> <p>2. 対ウィールズ病穂木と台木の選定</p> <p>3. 施肥基準設定と病虫害防除法の確立</p>

同 左 対 策	対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
	普	風 普	試	資	他	事	事 ・ 他	他	困 難 度	適 用 度	効 果
自給自足を土台とするため、飯米の確保のための 水田造成	○										
油桐、紅茶、柑橘、植林等の組合せ											
1 農閑期の労力利用によるブ市出荷の冬野菜の導 入	○										
1 トラクター使用による経営規模面積の確保		○									
2 トラクターによる雑作、野菜栽培への応用 (防霜、灌水)			○								
1 作物の選択統一と契約栽培、計画出荷	○										
1 ジュース用マンダリーナ(ムルコッチ)、ポン カン、レモン(タヒチ)をブラジルより導入。 温州みかんを組合せる	○										
1 無ウイルス病母樹をブラジルより導入配布	○										
1 慣行施肥調査による基準設定	○										
2 土壌の分析											

V アスンシオン支部

1 営農普及指導状況

月	計 画		対象地区又はグループ
	指 導 事 項	達 成 目 標	
4月	植林説明会	1.永年作物導入 2.畜産との組合せ	東 栄 部 落 春 風 会
5月	小麦種子導入	1.優良品種の導入 2.作付体系の確立→機械化 3.冬期栽培作物の導入	全 戸
	養蚕講習会	1.現金収入を挙げて営農の安定を計る	希 望 農 家
6月	牛馬売買に関する手引き書作成	1.売買手続方法の修得 2.不正売買の防止	全 戸
	雑作(大豆、マリス)種子導入	1.増産を回り収益を上げる	全 戸
7月	桑苗の導入	1.桑の栽培テスト	希 望 農 家
8月	不振農家対策	1.作付計画の作成	特別不振農家
9月	炭疽ワクチン接種	1.法律で定められている防疫対策の完全実施	全コロニア
	豚の出荷指導	1.出荷方法の指導 2.共同作業 3.計画出荷	養 豚 グ ル ー プ
10月	鶏のニューカッスル病対策	1.知識の普及 2.自主防疫、衛生対策の確立	養 豚 家

昭和45年12月現在

実		績		
員数	方法・場所	担当者	協力者	備考
30戸 120戸	エルナンダリア植林地帯の視察 と説明会	中山		
10戸	ドイツ人移住地より種子の導入 を行ない配布	中山 蓬田		農場でも交栽培を行ない優良品種の確保, 栽培体系の
25戸	事業所会議室 説明会, スライド	中山	ISEPSA 鈴木, 成松技師	
全戸	自治会を通じて全戸へ配布した	中山 農場		
全戸	ブラジルより マيس Bene-F 大豆 アラサツバ	中山	伯国農村協会	
10戸	アルトバラナ農場より導入配布 (15 ha)	飯原 菊地		農場での品種の苗木をアルトバラナより導入して栽培試験中
4戸	種子, 人夫の斡旋	中山		
全戸	各農家巡廻する	農場		管理枠場の設置が急要である
38戸	養豚農家での豚糞込み作業	農場		農場カミオン使用 出荷前の豚のコンデンション作りが不完全
30戸	3ヶ所(農場, 事業所, 東栄会館)で講習会開催 パンフレットの配布	大畑場長	アスシオン大学	

月	項目	計 画	
		指 導 事 項	達 成 目 標
10月	口蹄疫ワクチン接種		1.知識の普及 2.自主防疫，衛生対策の確立
	豚コレラワクチン接種		同 上
	豚出荷指導		
	小豆作況調査		1.作付面積の把握 2.作付適期の把握 3.水量調査
11月	養豚グループ育成とヘルパー制度採用		1.ヘルパーによる養豚農家の指導 2.グループ活動の強化
	大豆作況調査		1.優良品種の選定 2.増収
12月	畜産振興会会合		1.食肉センター設立
			対象地区又はグループ
			牛 飼 育 家
			養豚グループ
			養豚グループ
			全 戸
			養豚グループ
			全 戸
			肉牛飼育農家 養豚振興会 (旧養豚グループ)

2 環 境 概 況

部 門	区 分	現 状
自 然 環 境	地 形	標高 200~300m の波状地形
	土 質 土 壌	<p>中世玄武岩の風化土壌（テラロシア）で帯赤赤褐色乃至粘土質土壌で肥沃である。</p> <p>大別して森林土壌とカンボ土壌に分けれる。</p> <p>森林土壌：暗赤色の壤土及至粘土で厚さ 100~1500 m で粘土質 50% 以上である。</p> <p>カンボ土壌：河川の沖積地は微砂質壤土で肥沃である。谷間の土壌は黒色の砂土或いは微砂質壤土（黒泥土）で肥沃度は低い</p> <p>イグアス砂住地内の土壌は pH 5.0~7.0</p>

実 績				
員 数	方 法 ・ 場 所	担 当 者	協 力 者	備 考
7戸	映写実施(農場),パンフレットの配布,巡回接種	中山 栗城 菊地	ISENALFA	中山,菊地職員はSENALFAの講習会に参加
	青年団による接種作業に協力,指導	菊地 菊地		農場カミオネット使用 農場カミオン使用
	聞き取りと現場の視察	中山		
10戸	農場にて会合を開く	大畑場長		講習会用テキスト作成中である
	聞き取りと現場の視察	中山		
10戸	食肉センター設立に関する打合せに出席しアドバイスを行なう	大畑場長		肉牛の有利な販売方法の検討

問 題 点	対 策
テーラローサ土壌は表面流土が激しく,通気,通水性を欠く,降雨後乾燥すれば固結し緻密となり過乾となる上に高熱を帯びる	根柢による深耕 緑肥,厩肥の施肥による腐植土化 等高線栽培の推進

部 門		区 分		現 状	
自然環境	気象	気雨	温量	年間平均気温	22~23℃
				絶対最高気温	37~40℃
				絶対最低気温	-4℃
				年間平均雨量	1,800~2,000 mm
				湿度	77~87%
				年間降雪回数	4~5回

3. 改善対策の選定とその対策

地区、区域名	(部門)改善上の問題点	同 左 対 策
イ グ ア ス 移 住 地 内	(蔬菜) ○ トマト、蔬菜作では伐開面積が伸びず経営の拡大が出来ない。	1.各種永年作目の導入と栽培試験による選作目の選定(転作指導) 2.栽培技術の普及 3.市場流通面の調査
	○ トマト蔬菜栽培を今より安定した作物にする必要がある。	1.新品種の導入による市場性、耐病性、生産量のある品種を栽培する。 2.芭国内消費→国外向け輸出をする。
	(雑作) ○ 収量が少なく、上手な土地利用がなされていない。伐開後マスを播種するが、収穫後カボイラ(灌木林)にしてあるのが多い。 ○ テーラローサ土壤に於ける施肥の是非何年目から施肥が必要か 施肥比較試験等	1.収量をもめる……新品種の導入と栽培試験 2.栽培適正現模の究明と土地利用(栽培体系)の確立 3.市場流通面でもっと便宜を図る 施肥及び収量性の究明試験, 施肥量の試験

問 題 点	対 策
年により早魃(セッカ)ばあったり、長期降雨をみることもある。又冬期に数回の降霜が来るが、これらが時として大きな災害を来たらしめる。	気候に左右され易い作物の栽培を止める(その意味で畜産は堅実である) 各種作物の導入と栽培試験による適作物の選定、普及……農場 資料の蒐集と提供……支部事業所及び農場 霜害対策 } → 灌水施設の設置 早魃対策

対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
普	普調	試	資	その他	事	事他	他	困難度	適用度	効 果
		○				○		B	大	大
○					○			B	大	大
	○					○		B	中	中
				○	○			C	中	中
	○							A	中	中
		○		○		○		B	中	中
			○			○		A	中	中
		○						B	中	中
		○				○		B	大	大

地区、区域名	(部門)改善上の問題点	同 左 対 策
イ グ ア ス 移 住 地	<p>(牧 畜)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦牧草は特に冬期間のが不足である。 ◦飼育料の絶対頭数が少ない。 ◦管理技術等、家畜飼育技術が欠けている。先行投資が必要である。 <p>(酪 農)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦技術的に高度である事が要求される上に、社会的、経済条件が悪い事、管理施設技術が低い為、頭数が伸び悩んでいる。生産乳の販売がうまく行かない。 <p>(養 豚)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦優良繁殖豚の不足。 ◦飼料確保が不安定である。 ◦飼育管理技術が低い。 ◦生産豚の出荷体制が確立されていない。 ◦市場の確保と価格の維持が必要である。 <p>(養 鶏)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦養豚に同じであるが、特に鶏の場合、防疫、疾病に対する対策が不十分であること、生産卵価が不安定であること等が大きな問題である。 <p>(養 蚕)</p> <ul style="list-style-type: none"> ◦養蚕導入に於ける問題点としては、生産量が僅少、出荷運策方法の難しさがある。トマト莖葉栽培者の消毒薬の害、蛾、ねずみの害の防除法の解決がある。 	<p>各種牧草の導入栽培試験 試験展示圃場の整備、種子採苗採取圃の整備 優良肉牛(サンタヘルトルーデス)の増殖と配布、講習会、研修会の開催、青年学級での教育を強化する。 畜産融資枠の拡大</p> <p>1.経済的に酪農が成り立つか否かの基本的な検討が必要 2.講習会、研修会による技術のレベルアップ 3.生産量をまとめる事及び加工する方法を考える事</p> <p>1.優良豚の導入と増殖配布 2.組織強化と計画的購入出荷 3.ヘルパー制度による指導の徹底 4.品種改良、計画的出荷に上り、市場性を高め市場の拡大(輸出、加工も考える)、価格の維持を図る。</p> <p>1.講習会、座談会による技術のレベルアップ 2.組織の強化 3.市場の拡大</p> <p>1.養蚕農家をまとめ、協定型形にもってゆく 2. ISSPSA ビラボ工場までの輸送経路の調査 3.境界外、モンテ内養蚕の検討</p>

対策の性格					実施主体			可能性		
普	普調	試	資	その他	事	事他	他	困難度	適用度	効果
		○				○		B	大	大
				○		○		B	大	大
				○		○		A	大	大
	○					○		A	中	中
○				○	○	○		C	大	大
				○		○		A	中	中
				○		○		B	大	大
				○		○		B	大	大
	○				○	○		C	大	大
				○		○		A	中	大
	○		○			○		B	大	大
				○		○		B	大	大
				○		○		A	中	大
				○		○		A	大	大

地区、区域名	(部門)改善上の問題点	同 左 対 策
	(カフェ) ○霜害防除法の問題がある。	1栽培試験と灌水施設の検討。モンテカフェの試験

4. 営農担当者の体制

氏 名	所 属	年 令	普及活動経験年数
中山 栄 助	イグアス事業所 (農場兼務)	48	3年('68~)
蓬 田 輝 彦	イグアス農場	29	2年('69~70.7)
杉 山 淳	イグアス農場長	47	2年('67~69.8)
栗 城 俊之助	イグアス農場	28	1年('69.3~)
大 畑 吉五郎	イグアス農場長	46	1年('70.8~)

5. 営農指導方針と体制について

1. 過去2年間の方針と指導体制

(1) 方 針

移住者に対する指導、援護の拠点である試験農場の基礎造りが最重点であった。即ち、草地造成、優良基礎牛の導入と増殖で一般営農指導に立ち向う事が出来ず、自治会普及班と事業所が行っていた。指導目標は伏開を伸ばし、使役牛導入による省力化と雑作(マيس、大豆)優良品種の導入による増収を計って来た。

成 果：1農場に牧草20余haが造成され、実用的牧草が選定された。現在、普及しつつある。

2 優良肉用牛の増殖中であり、一部、生産仔牛の払下げが可能となった。

3 45年3月末(44年度末)の伏開面積は2,200ha強であり、伏開面積は急速に伸びつつある。45年12月現在、1戸平均30haの伏開が出来ている。

4 大豆、マيسの収量を、格段の増収を実現することが出来たが、いまだ満足する事は出来ない。

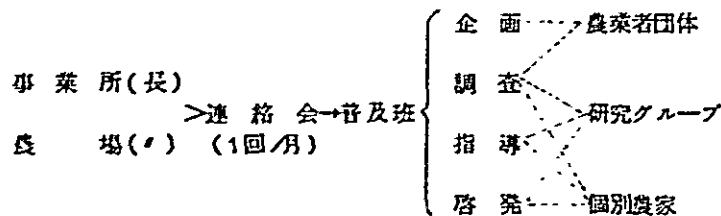
(2) 体 勢

分担として、農場(畜産)、事業所(一般野菜、雑作、果樹)の指導体制を組んだが、不合理な点が生じ、お互いの連絡不充分等から、移住者への指導がくい違ったりした面が多々あり、それが他業務にも影響する結果に及んだ。

対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
普	普 調	試	資	その他	事	事 他	他	困難度	適用度	効 果
		○			○			B	中	中

担当農家戸数	担 当 面 積	普及上の機動力	備 考
130	2,000 ha	ジ ー プ	主に維持, 果樹関係の指導
'	'	カミオネッタ	家畜部門の指導
'	'	'	'
'	'	'	'

これは是正の為, 44年来, 170年1月)農場, 事業所で合同討議によって作成した体制は下図の通りで, 職員各々が担当分野を持ち, 管農指導を全職員で行なう事により, 管農面, 生活改善面等の巾広いものを展開することとした。



しかし, この組織化と実際には実現せず, 前の指導体制に戻ってしまっている。その原因としては, 各人の自覚, 反省が要求される。、それ以上に, 各々の担当業務が多忙であり, そこまで手が回らない事, 予算面, 時間的な面で無理がある事等が考えられるし, 職員がまず勉強研習する必要がある事をその一因であるかと思われる。

2 反 省 点

- (1) これまでの指導は集団指導の散発的なものであって, 系統的, 一貫性のあるものではなかった事。

(2) 移住者団体、自治会に営農促進委員会があるが、創立趣旨が団体交渉の手段的なものゝために、事業団の方針と結び付かなかつた。

(3) 予算、人員的に不備であるから、指導項目を徹底してしぼるべきであつた。

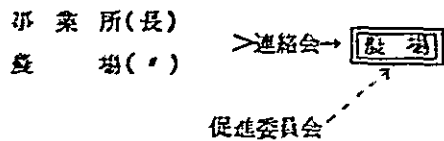
3. 今後の指導方針と体制

(1) 方 針

人員、予算から、全てを採り挙げてゆくことは難かしいし、効果的(4-)になると思われるから、畜産指導に最重点を置き、その他のものについては、種子種苗の斡旋、配布、資料の提供調査、展示、養蚕についてはケース・バイ・ケースによる指導を行なう。又、グループの育成、青年層の指導、教育、自治会、農協等の組織の育成に力を入れてゆく。

営農普及活動	}	畜産……全面的に行なう。
		果樹樹……講習会、調査、資料の提供
		植 林……種苗所との提携
		雑 作……優良品種の導入、資料提供
		蔬 菜……資料、情報の提供
		その他……ケース・バイ・ケースで行なう (養蚕、カフェ、パイナップル、ハッカ、etc.)

(2) 体 制



営農普及活動	}	場 長……養蚕、その他全般
		栗 城……肉牛、乳牛
		中 山……雑作、果樹、資料の翻訳、農薬渉外
		岡 田……養蚕、特殊作物
		秀 池……養豚
		園 ……カフェ

とし、農場が主体となった体制にもってゆく、勿論、予算、人員から見ても、問題が多いから従来通り、事業所の援助、協力を得てゆかねばならない。

改 善 点

- ① 中山職員（兼務）を週一日（火曜日）、農場勤務とする。
- ② 営農普及費のコントロールを農場長がする。（従来は普及費については、農場長がノータッチ）
- ③ 農場でジープ1台を確保する。
- ④ 移住者依頼の運搬輸送業務は原則として農場は行わない。
- ⑤ 営農指導普及の場として、生産者グループを結成し、一方、地区営農座談会を行ない、個別指導については、低位農家を先行することとする。又、農協の指導力を充実せしめる為、たえず、関係機関との連絡を保つよう考えて行く。
- ⑥ 生産物は共販を原則として流通の改善を計って行く。
- ⑦ 家畜導入の好期に至ったので、指導力は畜産に傾注する。
- ⑧ 畜産経営の強化を計る為、施設の改善、家畜導入等の資金の斡旋については、今まで通り、事業所融資担当と連絡を密にする。

VI サント・ドミンゴ支部

1 営農普及指導状況

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区又は 研究グループ名	対象件数は 実施回数
4月	輸出振興	プエルト・リコ市場調査 (予備調査)報告会の開催。	輸出蔬菜栽培者等18名	1回
		プエルト・リコ新聞「エルムンド」紙の提供	全地区	1年間
6月	新品種の導入	あっせん	コンスタンサ地区	2件
	経営改善	「営農通信」の記事で解説	全地区	1回
7月	最新農業技術知識の吸収	日本の最新農業図書を紹介及びあっせん	全地区	1回
	ドミニカに適する日本野菜品種の導入	同左品種の紹介	全地区	1回
9月	虫害防除法	「営農通信」の利用	全地区	1回
	ド国内生産状況の把握	日本人会連合会会報の利用	全地区	1回
	研究心の高揚	篤農家の表彰により刺激を与える。	全地区	1回
	養鶏及び蔬菜栽培技術		全地区	2回

成 果			摘 要
当 初 目 標	実現した成果	実現出来なかった要因	
ブエルト・リコ市場の概要を理解させる。	ブエルト・リコ市場への関心を強めさせた。		45年3月ブエルト・リコ市場の予備調査を実施したその報告会を開催したもの
ブエルトリコ市場の把握	利用者は極めて少なかった。		
	日本白菜等の種子を導入あっせんした。		
15年前の生産中心的農業から販売に重点を置いた農業に転換させる。	目に見えた成果は、現われていない。		
研究心をもたせる。	計6件の図書購入希望があり、一応の成果はあったと考える。		
	除々にではあるが、日本野菜のト国市場への進出について移住者間で研究が盛んになった。		
特にコンスタンサのキャベツの虫害を防除する。	結論的にキャベツ栽培の中止が最良の方法であり、生産者側はこの方法にしたかった。		
生産、販売活動の基礎として作物別生産量を周知させる。			
			米の品種改良をした谷岡を表彰した。

月別	普及指導事項	普及の方法	対象地区又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
10月	永年作(ワシントンネーブル)の苗の導入	あっせん	コンスタンサ地区	1回
	トマトの米国品種導入	あっせん(マナバル種)	コンスタンサ地区	1回
	メロン種子(米国品種及びスペインメロン)の導入。	委託試験栽培	ビヤテノーブル	1件
	蔬菜の貯蔵法	文書により説明	コンスタンサ地区	1回
	にんにくの加工法	文書により説明	コンスタンサ地区	1回
	マラクジャの種子導入	委託試験栽培	希望者	5件

2 普及活動上の反省と所感

45年度は当支部に営農関係専門職員の配置がなかったため、十分な普及活動が出来なかった。従って、移住者に対する個々の技術的指導よりも移住者共通の問題である営農上の基本問題たる土地推進問題につき、重点的に事務手続を推進した。そのため、まず本部に申請を行ない適地調査の実施を期し、その承認を得て中南米代表部より坪井職員の参加による、コツイ、サバナ・デ・ラ・マル、エル・セイボ地区につき適地調査を実施し、該地区概況調査ならびに同地区に土地を所有した場合の営農モデルの検討等を行なった。

また、上記土地所有推進問題の検討と併行し、移住者の生産中心的古い経営の在り方に少しでも新しい知識、技術を注入し経営の改善を図るべく最新農業図書で紹介と購入あっせん、新品種、土質品種の導入あっせんを重点的に実施した。

また、輸出振興のため、米国三井物産サンファン事務所と契約を締結し、プエルトリコ市場調査を実施したが、46年4月に締結された「ドミニカ国とプエルトリコにおける農産物補完協定」によりド国からプエルトリコへの輸出が実質上制限されることとなったことは、極めて残念と云わざるを得ない。

なお、本年度は従来必ずしも整備されていなかった支部営農指導用農業専門図書の整備に力を入れた。

成 果			摘 要
当 初 目 標	実 現 し た 成 果	実 現 出 来 な か っ た 要 因	
農務省に交渉し苗を安く譲り受ける。	計画が延期され懸案となっている。		
	品質が良いので販売面で好成績を挙げた。		
		雨のため病害が発生	
	試験栽培の成功	地区によっては良く結実した。	

第 2 部

昭和 46 年度営農普及計画書

I レシーフェ支部

1 昭和46年度委託栽培実行計画

作物名	委託先	受託者名	供試品種	面積本数	新継別
桃	リオポニート	佐藤忠恒	TALIZMA DAMASCO	20株	継4
マカダミア ナッツ	レシーフェ	坂口章司	KAKEA IKAIKA	2株	継4
無花果	ビオ12世	大政喜之	ROKO DE BALINHOS	180株 0.2ha	継3
カジュ ナッツ	ビウン	長島良澄 松百菱太郎	CAJU-BRAS系	各100株 1ha	継3
クマルー (香料)	J・K ウナ	神崎実 西本伍一	IAM系	各40株 0.1ha	継2
ビーニヤ (果樹)	ビオロ	西村定雄 藤原市郎	SAIC-PE系	0.1ha	新規
ゴヤバー (果樹)	ビウン	長島良澄 松百菱太郎	AUSTRALIA系	各0.1ha	新規
蒞石	ビオ12世	土屋喜加江 小林保之	高橋系	各0.1ha	新規
イヤーン (大薯)	ビウン	田中太郎 松百幸孝	INHAME DE LOSTA種	各0.01ha	新規

目 的	委託事項と移住地営農との関連性	調査事項及び方法
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 当地域の特色である温暖帯気候を生かし、南伯より搬入し難い果樹を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 基幹作物として、柑橘、ゴヤバを育成しており、これに次ぐものである。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 前年度までに生理ステージは調査済、今回は経済性の検討を行う。
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 永年作物の探索と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ レシーフェ近郊は短作、養鶏が主体であり、経済性のある永年作物が見当たらない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生理生育ステージ、適応性、病虫害の有無等
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 基幹となるべき永年作物の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 当地は養鶏主体の植民地であるがこれに安定作となりうる永年作物を探索中である。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生理生育ステージ、病虫害、経済性の検討
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 灌漑に難点のある高台砂地の利用としての永年作物の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 低地（2ha）蔬菜作とバナナ作が主体で高台地が未利用であるのでこれが利用を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高台砂地における適応性、生育ステージ、施肥による生育調査
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 丁字に次ぐ香料作物の探索と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ ウナ、JK共に果樹及び工芸作物を基幹作物として育成しているが、ゴム、カカオ、J字、胡椒に次ぐものとして検討してみる。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 環境適応性 胡椒等との混植、蔭樹としての適否性 経済作物としての判定
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 永年作物の探索と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 当地は養鶏主体の植民地であり永年作物が育成されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 適応性、経済性の検討
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 永年作物の導入と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 蔬菜、バナナ作が主体で基幹となるべき永年作物が育成されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生理生育、適応性、経済性の検討
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 永年作物の導入と育成 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 養鶏主体の植民地で永年作物が育成されていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生理生育、適応性、経済性の検討
<ul style="list-style-type: none"> ◦ 高台砂地における雨期作物の探索 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 灌漑に難点のある高台砂地は未利用であるが、雨期での利用を検討する。 	<ul style="list-style-type: none"> ◦ 生理生育、適応性

作物名	委託先	受託者名	供試品種	面積本数	新継別
(委託調査)					
気象観測	リオポニート	藤原 勇一			継 4
・	イツベラ	倉谷 虎夫			継 2
・	ウナ	西本 伍一			継 2

目 的	委託事項と移住地営農との関連性	調査事項及び方法
<p>○移住地内の局地気象を調整し 営農に資す。</p> <p>同 上</p> <p>同 上</p>		<p>○気温 最高最低平均 °C</p> <p>湿度 %</p> <p>降雨量 mm</p> <p>降雨日数</p>

Ⅱ サンパウロ支部

1 富農普及指導計画

普及指導事項	到達目標		
		対象地区名 グループ名	対象件数 実施回数
1. 栽培技術指導及び飼育技術の指導	1. 果樹, 特にイタリアブドウの技術指導により単位面積当りの収量の増加 出荷時期の調節, 優良品の生産という問題に取り組む	ジャカレイ グワタバラ ビニヤール 日光 オーリンニヨス 桜高森 バ・アレグレ	各地区共 各2回
	2. 短期作物, 特にグワタバラ低地に於ける稲作, 玉葱, かんらん, にんにく, 苺の技術アップ	グワタバラ	年5回
	3. 畜産, 主に養鶏の技術指導	グワタバラ ジャカレイ バ・アレグレ	各地区共 各2回
2. 経営指導並びに分析	1. 移住地の実体を調査し, 把握する。 2. データを分析し, 問題点を抽出, 改善策を樹てる。 3. 問題点を指摘し, 改善する。	全入植地 及び分散移住者	1回
3. 知識情報の援助	1. 刊行物配布 2. 市場(市況)情報 3. 経営, 技術	管内関係移住地 及び分散移住者	年2回
4. 物の援助	1. 設備投下資本の軽減	グワタバラ バ・アレグレ 日光	

推 進 方 法					
普及方法	実施場所	担 当 者	協力機関 協力者名	準 備	摘 要
1講習会 2実地指導 3研修, 視察 (先進地域の)	1各人植地 2各人植地及び 試験場 3モジ, スザノ, 北バラナ	野 水 克 修 中 筋 登 湯 川 修 介	管農協力委員会 州試験場技師 産組技師 (ビニヤールは 南伯産組)	年度始めの委 員会により決 定	
1技術討論 2講習会 3実地指導 4研修	1現 場 2 . 3 . 4先進地域	湯 川 修 介	協力委員 技協, 技師の派 遣を要請		
1篤農家によ る実地指導 2先進地域へ の視察	1各対象入植地 2先進地区	小 林 憲 市	協力委員 産組技師(パ・ アレグレは中央 産組)		
1実地調査 2集 計 3分 析 4改善指導		奥 村 孝 夫 野 水 克 修 湯 川 修 介 岡 田 礼 三			
1刊行物によ る普及		野 水 克 修 中 筋 登	1管農協力委員		
1農採用重機 械の貸与 2倉庫, サイ ロの建設 3電化による生 産基礎の充実 4グワタバラ低 地工事	グワタバラ グワタバラ パ・アレグレ 日 光			1州農務局	

普及指導事項	到達目標	対象地区名	対象件数
		グループ名	実施回数
5.組合指導	1.組合の健全運営 2.入植者の組合意識の向上	バ・アレグレ産組 グワタバラ 水利組合	1回
6.流通機構	1.生産物需給の調節	バルゼア グワタバラ	

2. グワタバラ移住地

区分		現況
自然環境	地形土壌	<p>1.総面積7,294 Haのうち、丘地4,145 Ha, 低地3,149 Haに分かれている。</p> <p>2.近地は東南に向かって、緩い傾斜をなし、低地部分に達した所で断層により区切られている。</p> <p>3.低地部は3,149 Haのうち、ロッセ部分は、1,200 Ha, 残り約2,000 Haは、保留地又は調水池である。</p> <p>4.標高は、丘地で570~505 m, 低地で505~498 mであり、丘地は大きな波状形である。</p> <p>5.丘地の土壌は、酸度の高いテラロツミヤ・ミスタと呼ばれる砂壤土である。全般に腐植質が少ない。</p> <p>6.低地は沖積土、低位泥炭土壌が薄い地区で2メートル、厚いところでは7~8 mに達する。</p> <p>7.低地部南端をモジクワス一河が東から西へ向かって流れている。</p> <p>8.低地部は、モジクワス一河の洪水から保護するため、堤防により囲まれている。</p>
	用水	<p>1.丘地ロッセの用水は、モンブカ川、ベアード川、又は幹線水路沿いのロッセに限られる。</p> <p>2.低地は用水路、排水路に分けられ、各々揚水機、排水機の稼働により調節している。</p>

推 進 方 法				
普及方法	実施場所	担 当 者	協力機関 協力者名	準 備 摘 要
1.経営指導 2.講習会	バ・アレグレ グワタバラ	奥 村 孝 夫 藤 田 繁 楠 木 功	1.官農協力委員	
1.食品加工工 場の設置	バ・アレグレ産組 グワタバラ			

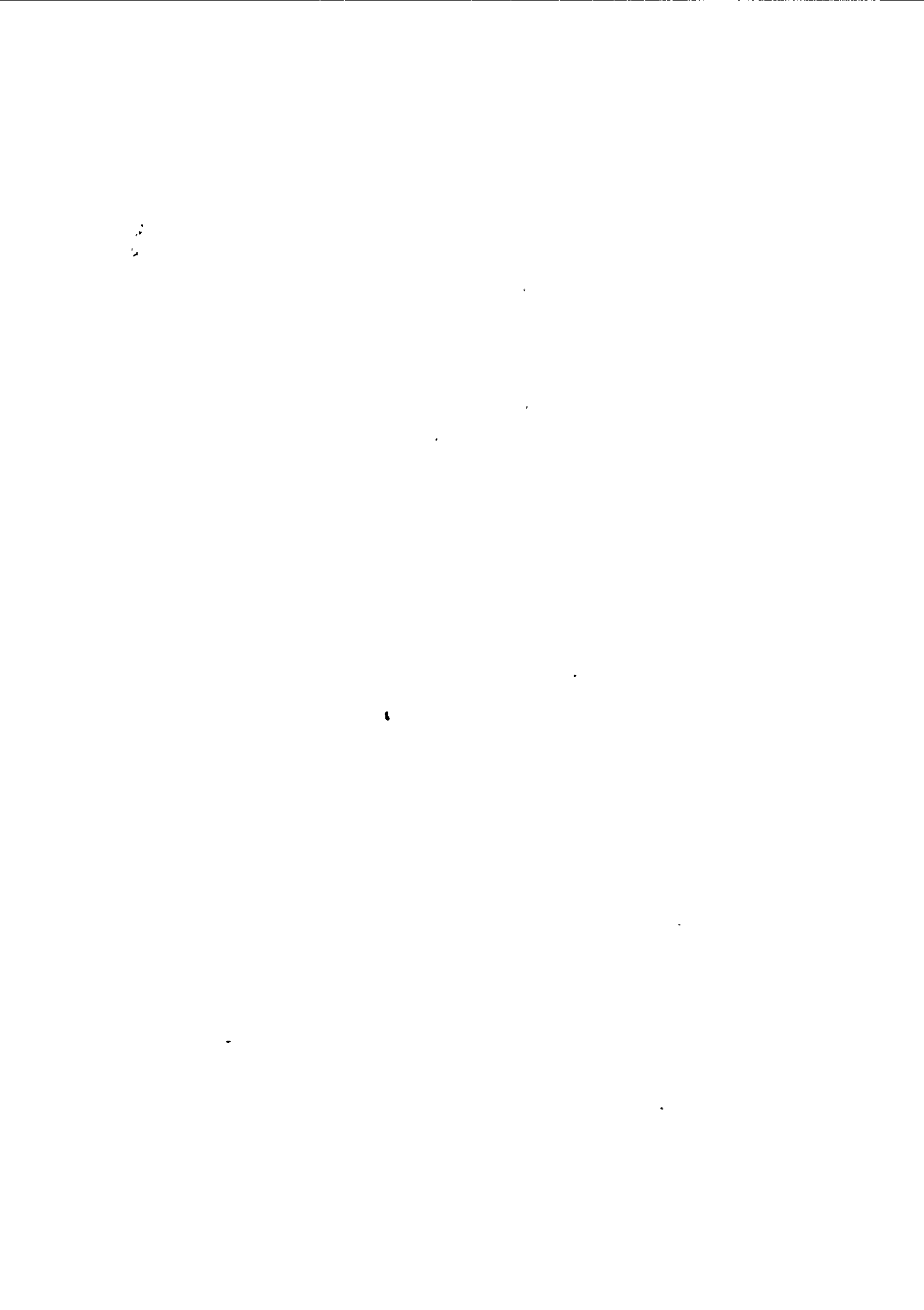
問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調普	試	貸	他
<p>1.入植ロッテは、4畝ロッテに分れているため、能率的な営農が不可能である。</p> <p>2.丘地、低地とも酸性土壌で、土壌改良には、相当量の石灰投与が必要。(生産性低い)</p> <p>3.低地は混炭土であり、排水、有機質の分解に時間、資金がかかる。</p> <p>4.丘地のエローゾン</p> <p>5.低地ロッテは、有機質の分解により用水路の再造成が必要となっている。</p>	<p>1.交換分合</p> <p>2.石灰、肥料の投与、堅盤の破かい。</p> <p>3.排水工事</p> <p>4.採肥栽培、等高線栽培</p> <p>5.補修工事</p>					
<p>1.丘地の畑地灌溉は、限度があり、水量も少ない。</p> <p>2.低地は広範囲にわたるので、各地に高低差が存る。</p> <p>3.乾期にはモジグワスー河の水位が低下するので揚水機の運転が困難になる。</p>	<p>1.丘地の灌溉計画</p> <p>2.各人により地均しを行う。 ニベラドールの購入。</p> <p>3.州政府による導水路改修。</p>					

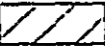
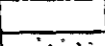
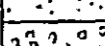
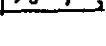
区 分		現 況							
自 然	気 候	<p>1大陸性気候であり、昼夜の気温差が高い。</p> <p>2年平均気温は、21.8℃</p> <p>3年間降水量は1,000ミリ前後で年により差が大きい。</p> <p>乾期4～9月、雨期10～3月までと雨期に降水量の大半が集中する</p> <p>4.年数回の降霜があり、作物与える被害は大きい。</p> <p>5.冬期に数回の降霜がみられ、特に低地部は気温が低下する。</p>							
		区 分	1	2	3	4	5	6	7
		平均最高気温	31.6℃	30.1	28.6	27.9	24.2	21.0	23.5
		平均最低気温	18.3	17.1	16.6	14.7	13.8	12.7	13.5
	平均月間降雨量	181.1mm	167.5	135.2	41.2	36.0	22.0	12.3	
環 境	土 地	<p>1低地3Ha、宅地1.5Ha、柑橘地2.0Ha、雑作地6.0Haの4紙分 類地形態に分れている。</p> <p>2低地は夏期作として米作、冬期作としてカンラン、玉葱、ニンニク、 苺が主体となっている。</p> <p>3丘地では養鶏、養豚、養蚕、乳牛があり、これに附随したトウモロコ シ畑、桑園、採草地等に分れている。</p> <p>4.丘地には一部ブドウ、マラクジャ、アバカシ等の樹園地もある。</p>							
	短 期 作 物	<p>1稲作—夏期、植付面積（低地）250Ha</p> <p>2蔬菜—夏作、低地及び一部丘地50Ha（玉葱、ニンニク、トマト、カ ンラン、人参等）</p> <p>3雑作—丘地及び一部低地400Ha（トウモロコシ、フェジョン、落花生 等）</p>							
	永 年 作 物	<p>1柑橘は品種の選定が失敗し、現在再検討されている。これは、丘地利 用の面からも重要である。</p> <p>2アバカシー、一定面積の大規模経営形態で植付けする必要がある。現 在苗の増殖中。</p> <p>3マラクジャー、ジュース加工会社と契約栽培を行っている。</p> <p>4.ブドウ、一部農家により、ニヤガラ種が植えられているが、最近他農 家も栽培の気運が高まった。</p>							

問題点	対策	対策の性格																												
		普	調普	試	資	他																								
<p>1集中豪雨によるエロゾーン</p> <p>2雷害</p> <p>3降霜害</p> <p>4雨期の多雨による低地作物の過湿害</p>	<p>1耐霜性作物の作付け</p> <p>2排水溝の清掃,整備</p>																													
<table border="1"> <thead> <tr> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>24.5</td> <td>27.2</td> <td>30.5</td> <td>31.5</td> <td>31.6</td> <td>ベウリスタ鉄道会社観測</td> </tr> <tr> <td>14.5</td> <td>16.1</td> <td>17.8</td> <td>18.1</td> <td>18.6</td> <td>観測期間 1944年~1961年</td> </tr> <tr> <td>8.7</td> <td>17.7</td> <td>92.5</td> <td>113.5</td> <td>167.8</td> <td>11年間の平均</td> </tr> </tbody> </table>		8	9	10	11	12		24.5	27.2	30.5	31.5	31.6	ベウリスタ鉄道会社観測	14.5	16.1	17.8	18.1	18.6	観測期間 1944年~1961年	8.7	17.7	92.5	113.5	167.8	11年間の平均					
8	9	10	11	12																										
24.5	27.2	30.5	31.5	31.6	ベウリスタ鉄道会社観測																									
14.5	16.1	17.8	18.1	18.6	観測期間 1944年~1961年																									
8.7	17.7	92.5	113.5	167.8	11年間の平均																									
<p>1基盤整備が不十分である。</p> <p>2営農指導が不足な為,無駄が多い。</p> <p>3入植者の研究心も足りない。</p>	<p>1基盤整備のため,昭和46年度より低地工事を開始した。</p> <p>2事業団が主体の営農指導体制の確立。</p> <p>3入植者に対する緻密な指導</p> <p>4営農規模の適正化</p>																													
<p>1価格が不安定である。</p> <p>2冬期の蔬菜作に制限がある。</p> <p>3.単位当り収量が低い。</p>	<p>1高収量を上げることにより生産コストを下げる。</p> <p>2玉葱,ニンニク,カンラン等の集約栽培</p> <p>3技術の普及</p>																													
<p>1カンフロ病等のビールス病が必配されている。</p> <p>2アバカン一苗が高いので他地区からの導入は困難である。</p>	<p>1耐病性品種の導入,及び年間を通じての収穫を可能にする。</p> <p>2長期融資による資金手当</p> <p>3営農指導</p>																													

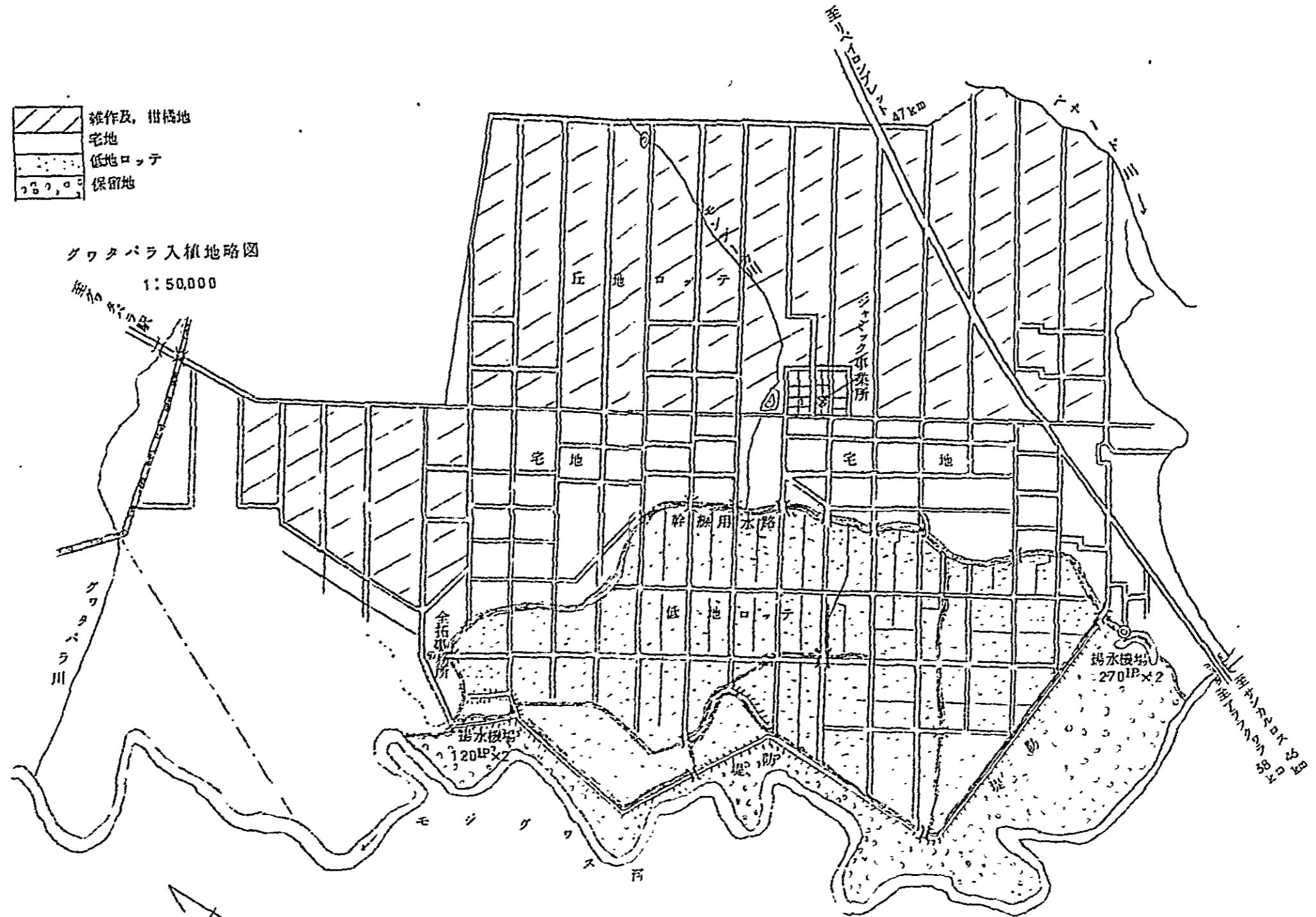
区 分		現 況							
自然環境	畜 産	<p>1 養鶏は、産卵鶏が主体である。 現在成鶏 150,000羽 雌 59,000羽</p> <p>2 養豚一種豚の生産である。現在頭数150頭</p> <p>3 酪農、乳牛が一部入れている。現在少数頭数</p>							
社会・経済環境	販売、販売方式	<p>1 121戸のうち118戸がコチア組合に加入している。</p> <p>2 コチア組合に出荷しているのは、鶏卵が8割を占める。</p> <p>3 米、野菜はリベロンブレット市の商人に直接出荷している。</p> <p>4 果実は庭先産してある。</p> <p>5 養蚕はブラ拓製糸と契約出荷している。</p> <p>6 鶏卵も一部農家が組合を脱退して、自家販売している。</p>							
	道 路 交 通	<p>1 地域内にリベロンブレット市方面への舗装道路が通じている。</p> <p>2 サンパウロ市迄 285KM, リベロンブレット市 50KM (人口23万人), アララクアラ市 40KM (人口10万人), サンカルロス市 45KM (人口10万人)</p> <p>3 パウリスタ鉄道が移住地西端をっており、グワタバラ駅が存る。</p>							
	医 療 衛 生	<p>1 本年度より移住地中心に、移動診療所が設置された。</p> <p>2 リベロンブレット市には大学病院、サンタカーザ等がある。</p>							
	教 育	<p>1 移住地小学校は、教育法改正により100名に満たないため、2教室に減らされた。</p> <p>2 高校、大学はリベロンブレットに存る。</p> <p>3 現在学生数は</p> <table style="margin-left: 20px;"> <tr> <td>グワタバラ小学校</td> <td>50名</td> </tr> <tr> <td>グワタバラ中学校</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ボンフィン</td> <td>140名等</td> </tr> <tr> <td>リブレット</td> <td>外高校生 9名</td> </tr> </table>	グワタバラ小学校	50名	グワタバラ中学校		ボンフィン	140名等	リブレット
グワタバラ小学校	50名								
グワタバラ中学校									
ボンフィン	140名等								
リブレット	外高校生 9名								

問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調	試	資	他
1 自給飼料の生産により飼料代の節減 (飼料高) 2 適正規模に達していない(1戸当り 5千羽以上) 3 養豚は販売先の選択が大切	1 トウモロコシの生産 2 サイロ建設 3 設備資金の長期融資 4 選, 洗卵機の共同利用					
1 組合手数料の高いこと。 2 野菜の販売については, 組合は商人 に売り敗けしている。	1 野菜流通機構の整備 2 アララクアラ, サンカルロス 等の地方小都市市場の研究を すること。					
1 道路税(郡税)の徴収						
1 移動診療所への特設医謝金の増額						
1 教師謝金のアップ						



	雑作及、田橋地
	宅地
	低地ロッテ
	保留地

グワタバラ入植地略図
1:50,000



3. ジャカレイ移住地

区 分		現 況																																
自 然 環 境	地形土壌	<p>1本地区は、パライーバ溪谷の南端に位置し、パライーバ河の支流であるバラテイ川を挟んで東西に細長く占めている。</p> <p>2バラテイ川は、天井川を形成し、移住地北部を原始的な状態で蛇行している。</p> <p>3バラテイ川を挟んだ川の両岸に低地を有し、全体の1/4を占める。</p> <p>4バラテイ川北部のロツテは70%が丘陵地で傾斜がきついので耕作地としては不適である。同川南部の丘陵地は全体に緩傾斜であり、入植者のほとんどは当地域に入植している。</p> <p>5低地は、沖積性植填土、丘陵地は、砂質壤土、色は濃い赤褐色を呈する</p>																																
	用水	<p>1バラテイ川及びその支流である小川が地区内各所にあり、乾期でも不足したことがない。</p> <p>2バラテイ沿いの各ロツテは、雨期に低地部が浸水する。</p>																																
	気 候	<p>1気温は年19.6°Cと、温暖であるが、夏期は最高38°C以上になることがあり、また冬期には数回の降霜がある。気温差が大きい。</p> <p>2年間降雨量は、1901~1912年の統計によると、平均1215.9mmであるが、これも年により差がある。</p> <p>31度に30~50mmの降雨のあることがある。</p> <p>4降雹が年間を通じ4~5回ある。</p> <p>5突風がある。</p> <p>気温、雨量(ジャカレイ市観測)</p>																																
		区 分	1	2	3	4	5	6	7																									
	平均 気温	22.6	22.6	21.8	20.0	17.2	15.9	15.5																										
	平均月 降雨量	174.3	215.0	155.2	81.6	76.0	45.4	27.7																										
	土地利状況	<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2"></th> <th colspan="5">既 開 発 面 積</th> </tr> <tr> <th>畑</th> <th>田</th> <th>樹 園</th> <th>草 地</th> <th>宅 地</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地区当り(ha)</td> <td>229</td> <td>10</td> <td>29.3</td> <td></td> <td>10.6</td> </tr> <tr> <td>1戸当り(ha)</td> <td>0.99</td> <td></td> <td>1.3</td> <td></td> <td>0.4</td> </tr> </tbody> </table> <p>1当地区の総面積は、613Ha</p>											既 開 発 面 積					畑	田	樹 園	草 地	宅 地	地区当り(ha)	229	10	29.3		10.6	1戸当り(ha)	0.99		1.3		0.4
	既 開 発 面 積																																	
	畑	田	樹 園	草 地	宅 地																													
地区当り(ha)	229	10	29.3		10.6																													
1戸当り(ha)	0.99		1.3		0.4																													

問 題 点	対 策	対 策 の 性 格																			
		普	調 査	試	資	他															
1 雨期には低地の程んどが浸水し、耕作不能となる。 2 パラテイ川に面したロツテの1/2以上が低地である。 3 北部丘陵地は傾斜がきつく耕作不能 4 低地は比較的肥沃、丘地はエロージョンのため片寄せ地	1 国家的規模での治水工事が必要、抜本的対策なし。 2 牧場用地、又は植林用地として売却。 3 エロージョン対策として等高線栽培、緑肥の導入。																				
1 上記1に同じ	1 上記1に同じ																				
1 作物に決め手がない。(特に短期作) 2 エロージョン、作物に与える害、浸水 3 降雹により、イタリアブドウ等作物が全滅することがある。 4 1970年12月21日の突風は、鶏舎、家屋、ビニールハウス等11棟が倒壊し、大損害を受けた。(約30万コントス)	1 花卉のような値段の高低の少ない作物を導入する。 2 金網等を張る。 3 コンクリート建築等により補強、更新していく。																				
<table border="1"> <thead> <tr> <th>8</th> <th>9</th> <th>10</th> <th>11</th> <th>12</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>167</td> <td>188</td> <td>201</td> <td>215</td> <td>221</td> </tr> <tr> <td>460</td> <td>641</td> <td>1044</td> <td>825</td> <td>1437</td> </tr> </tbody> </table>	8	9	10	11	12	167	188	201	215	221	460	641	1044	825	1437						
8	9	10	11	12																	
167	188	201	215	221																	
460	641	1044	825	1437																	
未 開 発 面 積						合 計															
その他	計	小 林	原 野	その他	計	合 計															
20	658			119.67	119.67	185.47															
				4.60																	
1 低地は放置未利用	1 洪水調節ダム、河川改修																				

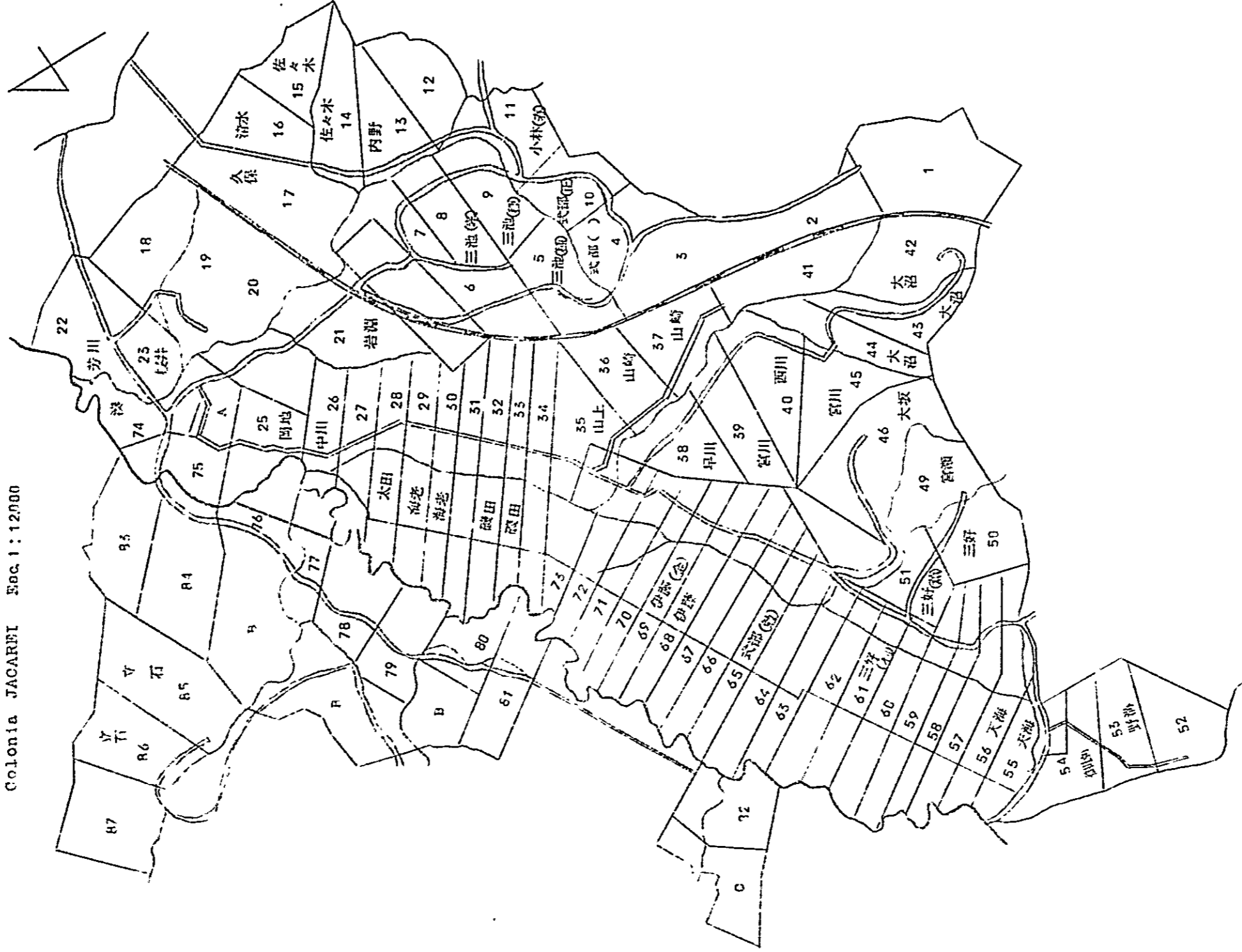
区 分		現 況
自然環境	水 利	1.傾斜地は畦間への掛け流し、又はスプリンクラー利用 2.バラテイ川、又はその支流の小川より取水 3.動力はディーゼルエンジン
	道 路	1.一般的に地区内道路は良好である。 2.移住地西北端をアスファルト道路が完成した。 3.移住地内を貫通する中央線以南の地域と北部を連絡する地区内道路は鉄道側により閉鎖された。
	経 営 区 分	1.短期作は、花卉栽培、七菜作は、ほとんど無くなった。 2.永年作としては、イタリアブドウが主体、他はボンカン、桃、ゴヤーバがある。 3.畜産は、産卵鶏及び肉鶏が主体、一部に養豚が導入されている。
	短 期 作 物	1.露地植の菊、カーネーション及び鉢物。 七菜作はほとんどなくなった。
	永 年 作 物	1.花卉は、バラ栽培農家が4戸ある。 2.果樹は、イタリアブドウ栽培農家が7戸、約4,000本、桃栽培農家は3戸、780本、ボンカン栽培農家は8戸、2,600本、ゴヤーバ農家4戸、644本、その他は自家用として、柿、ピク、レモン、キンカン等が植えられている。
	畜 産	1.養鶏は、産卵鶏と肉鶏と両方ある。 産卵鶏農家 5戸約50,000羽 肉鶏農家 9戸月当り約40,000羽 2.養豚は、大手養鶏農家が飼料のくずで飼育している。飼育農家は、5戸100頭前後。
社会・経済環境	販売・販売方式	1.入植当初は、全戸コチア産組加入であったが、組合の矛盾、及び商人が入り込んだことにより、半政近くが脱退又は事実上無利用である。 2.大手養鶏農家3戸は、個々に販売ルートを持っている。 3.花卉栽培農家も自己販売を行っている。 4.果樹栽培農家のうち、ボンカンは、山産しとしている。他も商人に販売している 5.肉鶏の場合は100%コチア産組へ出荷している。 6.入植者のうち、半政以上が、販売手段としての自動車所有している

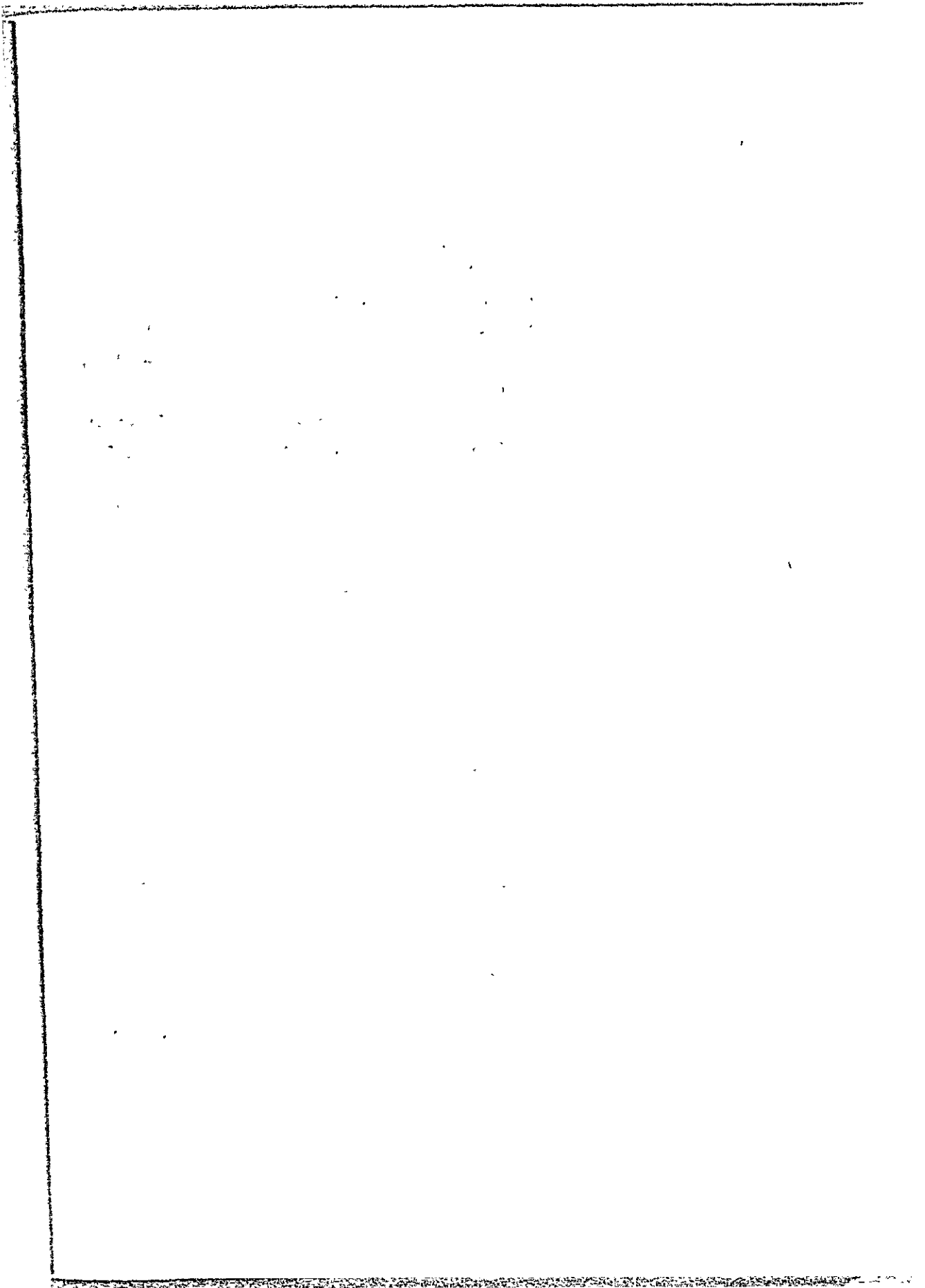
問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調普	試	資	他
1.土壌侵蝕，地力の減退	1.等高線栽培，緑肥の施用					
1.鉄道線路をはさんだ北部，南部地区の連絡道路が閉鎖されたので，出荷物集荷に困難をきたしている。	1.アスファルト道路に達するまでの第三者土地を買い取り，道路造成が必要（予算要求中）					
1.被害が最も問題であり，対策に苦慮している。 2.生産過剰による安値が問題	1.金網等を張れば防げるが，高価なため，だれも使用していない。 2.出荷時期の調整，技術的な方法，及び貯蔵冷蔵庫建設					
1.値段の変動が大きい。 2.マレックス氏病，ニューカッスル等のビールズ病による損害 3.飼料の安価入手	1.飼育技術の改革，安価な飼料による生産原価の低減。 2.予防薬の適時投与，鳥舎の改良。 3.低利の融資。					

区 分		現 況
社 会 ・ 経 済 環 境	経 済 的 条 件	1 サンパウロ市場へ70 Km, リオ市場へ350 Kmと比較的恵まれている。 2 周辺の中小都市のフェイラ(朝市)に直売できる。 3 この反面, 景気, 不景気の影響をまともに受ける。
	労 働 条 件	1 労働者は割合豊かである。 2 労使のトラブルが多い。
	人 口・戸 数	1 戸数は35戸, 人口は約150人。
	道 路 交 通	1 入植地西北端をカンピーナス〜ジャカレイ連絡道路が横切り, ツトラ街道までは4 Km, JACAREI市までは10 Kmであり, 全線舗装である。 2 2時間々隔に入植地入口までバス便がジャカレイ市に連絡している。

問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調普	試	好	他

Colonia JACAREI Esc. 1:12000





4. パルセア・アレグレ移住地

区 分		現 状							
自 然 環 境	地 形 土 壤	<p>1 大きな馬の背状丘陵地で、稜線が東西に貫通し、境界線は南北の川により仕切られている。</p> <p>2 地区内は、緩い起伏を持ち、南北に向って傾斜している。</p> <p>3 全体的には、サンパウロでテラロシヤ・ミスタと呼ばれる赤色の砂壤土であり、部分的に黒土（マサッペ）、又はテラロシヤが露出しており、この部分は耕作に適した沃土である。</p> <p>4 移住地の中央稜線上をノロエステ鉄道が横断しており、この鉄道線以北の土地は、全体の$\frac{2}{3}$であり、砂質土である。このため耕作には適さず乾期には砂バク状を程する。</p> <p>5 鉄道以南は比較的肥沃であり、この東端約14ha分が移住地として分譲されている。</p>							
	用 水	<p>1 地区内に豊富な水流が得られない。</p> <p>2 境界線を画す、パラドゥロ川は距離が遠い。</p> <p>3 耕作は、大面積をばり雑作であり、自然降雨に期待している。</p> <p>4 乾期には汲井戸の水が不足することがあり、養鶏羽数の増羽が出来ないロツテがある。</p>							
	気 候	<p>1 10月より翌年の3月までが雨期、4月より9月までが乾燥期である</p> <p>2 この雨期は、夏期に当り、乾期は冬期にあたる。</p> <p>3 乾期の作付けは無理である。</p> <p>4 気温は、1日の格差が大きい。冬期にも日中は高温になるが、夜間には氷点下に降ることが多い。</p> <p>5 雨量は、年により異なり1,000mmを割る年もあるが、大体1,200~1,300mm程度で、大半は10月~3月までに降る。</p>							
		区 分	1	2	3	4	5	6	7
		平均最高気温	23	33	32	33	29	28	33
		平均最低気温	21	22	20	19	15	10	12
		平均月間降雨量	269	140	102	99	81	32	11
		年間降雨量	1,313 mm						

問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調	試	資	他
1 総面積 38.472Ha のほとんどが遊休 になっている。 2 酸度が高い PH3.5~5	1 当支部は、牧場として漸次 造成を計画していたが本部 より売却の指示があった。				○	
1 降雨期及びその量により取入れ量が 決まる。	1 雑作用の灌漑は無理である ので、保水力を高める意味 から緑肥の栽培が必要であ ろう。 2 浅井戸に替る深井戸掘削が 要望されている。					
1 乾期の土地利用が皆無である。 2 冬期の降霜があり、作物が制限され る。 3 陸稲、トウモロコシ、フェジョン等 の作柄は不安定である。	1 永年作を導入し、1年を通 じ土地利用するよう図る。 2 緑肥、鶏フンにより、有機 物の土地含量を増し、乾期 の土中含水量を増加させる	○		○	○	
8	9	10	11	12	備 考	
31	32	33	34	34	パールゼア事業所	
14	16	18	20	20	1958~64年平均観測値	
14	39	156	184	186		

区 分		現 況 状					
自 然 環 境	土 地 利 用	既 開 発 面 積					
			畑	田	樹 園	草 地	宅 地
		地区当り (Ha)	184.0		26.3	23.3	25.8
		1戸当り (Ha)	5.28		0.75	0.25	0.73
	<p>1.移住地の総面積, 38,472Haのうち入植地部分は 890 Haであり, 1 ロット当り面積は 25 Ha である。 現在戸数 35戸</p>						
	道 路	<p>1.移住地内の雨期の道路は, 最悪であるが, 乾期には車輛の通過に差支えるほどでない。 2.カンボグランデ市よりの連邦道路が移住地内を通過しているが, 未舗装であるので, 雨期の通行は困難である。</p>					
	植 生・林 相	<p>1.酸性の高いセラードと云われる砂漠以前の貧弱な喬木, 灌木地帯である。 2.有用材は少ない。</p>					
	短 期 作 物	<p>1.陸稻, トウモロコシ, 緑豆, フェジオン等の雑作が主体で, 一部農家の中には, 棉作や, 低地を利用してのカンボグランデ向けの蔬菜作も取入れている。 2.養鶏主体であるため, 広いロットを有効に使用しているものが少ない。</p>					
	永 年 作 物	<p>1.一部農家は, 柑橘, アバカン, ゴヤバ等を 1,000本程度とり入れ, 好成績を上げている。 2.植林地全体が 1戸当り, 柑橘 1,000~2,000本 (5~10 ha) 程度を植える必要がある。</p>					

問 題 点		対 策					対 策 の 性 格					
							普	調	普	試	資	他
		未 開 発 面 積										
その他	計	山 林	原 野	その他	計	合 計						
2172	477.4			41265	41265	89005						
620	1321			1179	1179	250						
<p>1養鶏が主体であるので、所有面積に比し利用度が少い。</p> <p>2入植10年を経過した移住地としては、樹園地が少い。</p>		<p>1土地改良（鶏フン）により雑作の収量を安定したものにす。</p> <p>2永年作としては、柑橋、アバカシ、チェリモヤが適する。</p> <p>3増反を奨励し、肉牛用草地の造成をすすめる。</p>					○		○	○		
<p>1道路補修費がかさむ。</p> <p>2連邦道路の早期舗装が希まれる。</p> <p>3郡役所が弱体のため、補修が十分でない。</p>		<p>1郡役所での道路修理援助。</p> <p>2連邦道路の舗装。</p>								○		
<p>1伐木抜根は容易であるが、有用材なため、開墾費はでない。</p>												
<p>1天候により豊作、不作の差が大きく営農が不安定である。</p> <p>2価格も不安定である。</p>		<p>1単位面積当りの収量を高めることにより、価格の下落をカバーすることができる</p> <p>2鶏フン、緑肥をとり入れ、土地の肥沃性を高める。</p>										
<p>1柑橋導入の農家は、肥沃地をもっているが、肥沃地のない農家は問題がある。</p>		<p>1鶏フン、緑肥による土壌改良</p>										

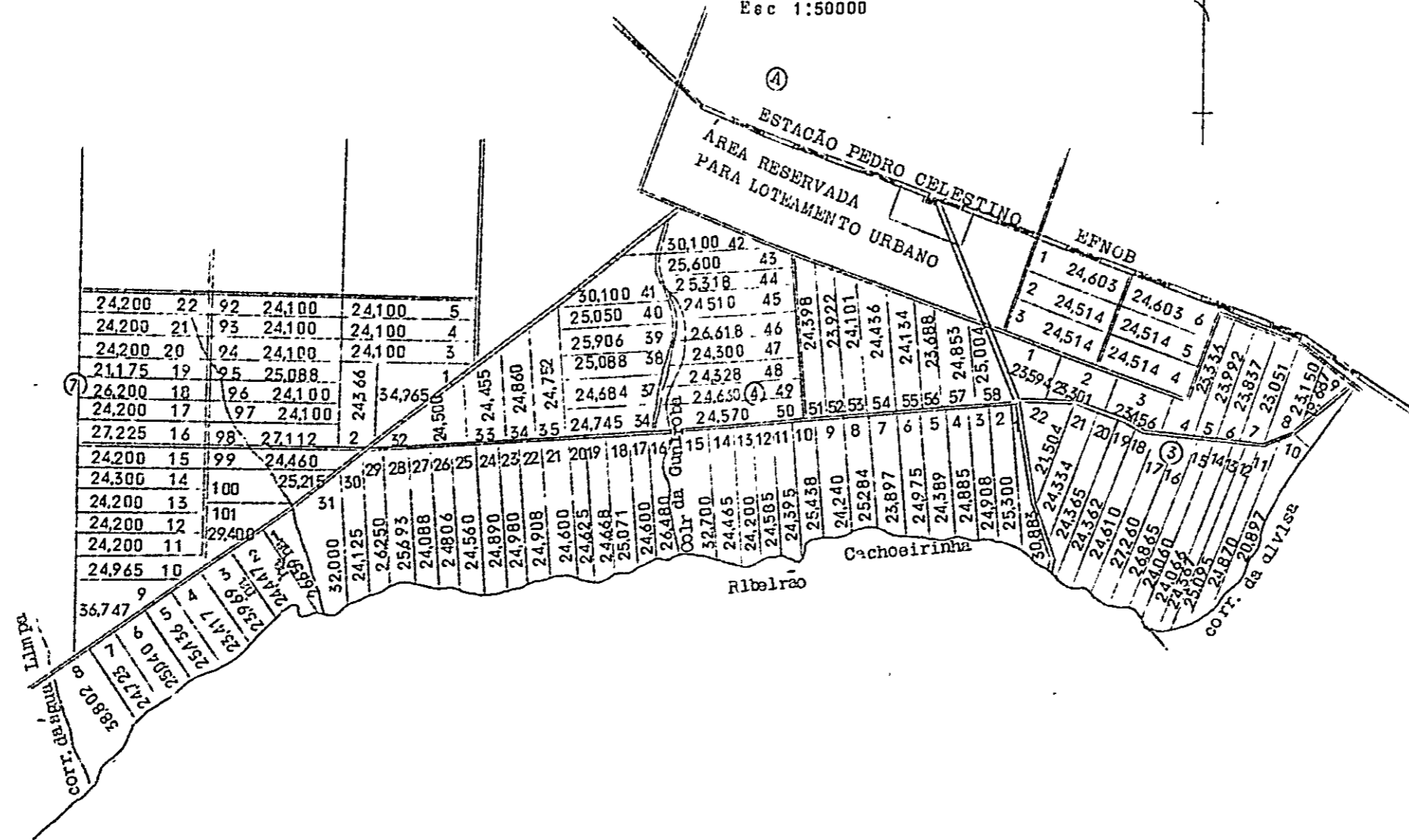
区 分		現 状
自然環境	畜 産	<ol style="list-style-type: none"> 1. 農家平均3,000~4,000羽の産卵鶏を所有している。 2. 奥地養鶏のため飼料は安価に入手出来、生産コストが低い。 3. サンパウロ市場の影響を受けることが少ない。— 有利である。 4. 比較的病気の発生が少ない。 5. 一部農家は肉牛を導入している。また、所有面積が大きく遊休地も多いので、将来牧畜を入れることが必要である。
社会	経済的 条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. マットゾロソ州は、州内人口が少く、未開発地域に偏するので、経済活動は不活発である。 2. 鶏卵の販売先は、カンボグランデ市（人口10万）、クヤパ市（人口7万人）が主となり、その他の都市は、各人口1~3万人程度であり生産限度がある。 3. 蔬菜、果実は、カンボグランデ市に出荷みている。 4. カンボグランデ市迄は50Kmと近いが、雨期には道路が悪化するのて、自動車便は困難をきわめる。
	販売・購買組織	<ol style="list-style-type: none"> 1. パ・アレグレ産組が法定組合として登録されている。 2. 経営内容は健全である。 3. 中央産組の傘下である。
環境	社会的 条件	<ol style="list-style-type: none"> 1. 入植戸数は、増反、分家独立を含めて36戸である。 2. 移住地の中央を東西にノロエステ線鉄道が走り、サンパウロには、1,296Km、約30時間で達する。 3. 移住地南部中央を連邦道路が建設されたが、舗装が未だ完成していない。 4. 最寄りの都市として、カンボグランデ市があり、航空機、鉄道、バス便がサンパウロ、その他諸都市に通じている。 5. 地区内には、4年制小学校があり、カンボグランデには、中、高、専門学校がある。 6. 開拓前線としては、治安が確立されている。 7. 医療施設は、カンボグランデ迄出る必要があり、日系の特約医も契約している。

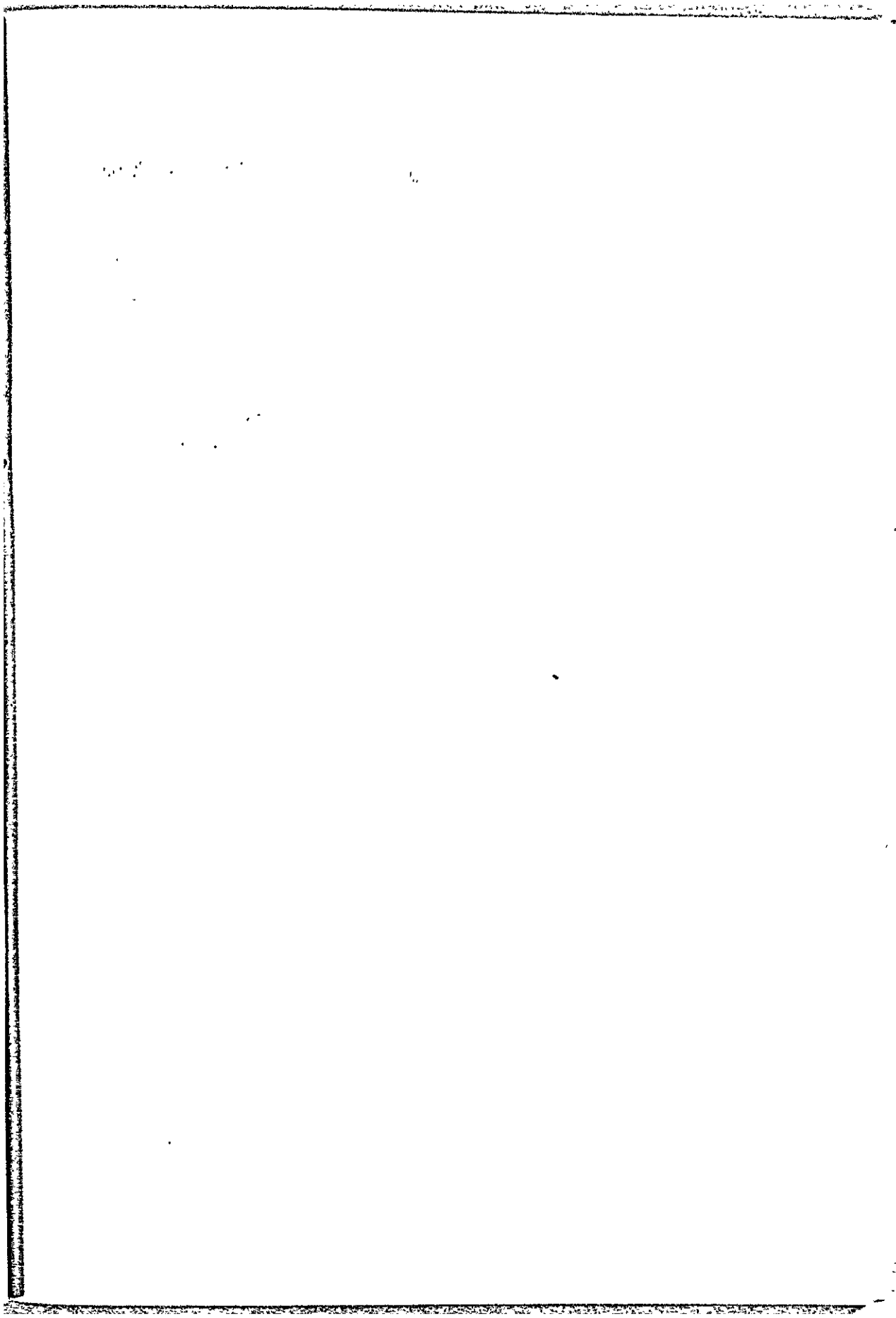
問 題 点	対 策	対 策 の 性 格				
		普	調	試	資	他
<p>1 全体の産卵鶏約120,000羽を急放 に増羽することができない。</p> <p>2 飼育技術が稚拙である</p> <p>3 牧場地を造成し、肉牛の導入を希望 しているが、資金的に詳しい。</p>	<p>1 技術指導が必要。</p> <p>2 事業団が牧野改良、肉牛導 入の低利、長期融資をする 必要がある。</p>	○		○		
<p>1 消費人口が少ないのですぐ生産過剰に なる。</p> <p>2 雨期の道路が問題。</p>	<p>1 生産の調節、産卵数は、15 万羽が限度である。</p> <p>2 テレーノスまでがアスファ ルト舗装になっているがあ との15 Kmが悪路である。</p>					
<p>1 中央産組のより強力な指導が望まれ る。</p>	<p>1 組合指導は、産組中央会と より強力な提携が必要。</p>					
<p>1 次代を荷う青年層の教育問題。</p>	<p>1 毎年、青年講習会を開催し て効果を上げている。</p>					

PLANTA PARCIAL DA FAZENDA VARZEA ALFRE
 "JAMIC" LTDA

Esc 1:50000

N





Ⅲ ボルト・アレグレ支部

1 営農普及指導計画

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名	
			対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
4月	<ul style="list-style-type: none"> イタリアブドウ栽培技術 モモの省力栽培技術 	<ul style="list-style-type: none"> 良品多収のポイントを認識する。 整枝と薬剤技術を検討する。 	イボチ移住地外関係者	50戸
			ラーモス移住地地区	50戸
5月	<ul style="list-style-type: none"> 桃整枝技術講習会 委託栽培指導 	<ul style="list-style-type: none"> 若木の整枝技術普及 チューリップの定植準備指導 	バジュー, イタチ	各1回
			ラーモス, ヴィディラ農試	3件
6月	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう技術講習会 ぶどう接木講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう園の冬季管理の徹底をはかる。 接木法の習熟と実行 	イボチ移住地外関係者	50戸
			バジュー移住地	4戸
7月	<ul style="list-style-type: none"> モモ, ネクタリン剪定講習会 年間営農計画作成指導 	<ul style="list-style-type: none"> 防霜対策とかね合いの剪定技術普及 年間, 種目別収支計画と借入金返済計画の樹立 	ラーモス移住地	50戸
			イボチ移住地	34戸
8月	<ul style="list-style-type: none"> 肉用鶏経営収支見積と実績関係資料作成 桃類無袋栽培研究会 	<ul style="list-style-type: none"> 経営の実態と改善点の把握 病虫害発生理論と実際技術の研究 	各地区	1回
			ラーモス移住地	50戸
9月	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう剪定講習会 短期現金作物講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 整枝と剪定の技術改善をはかる 果樹経営のつなぎ確立をはかる 	イボチ, バジュー, その他	各1回
			ラーモス, イボチ	各1回
10月	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう病害対策指導 柑橘栽培講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 黒斑, 露菌病完全防除の薬剤技術普及 今後の有望品種の栽培学的特性の検討 	イボチ移住地	34戸
			イタチ移住地	11戸
11月	<ul style="list-style-type: none"> 農産物展示会の充実 市場対策指導 	<ul style="list-style-type: none"> 現地生産者協会との有機的な連携推進 市場調査と出荷対策具体案の検討(イボチ, ラーモス各農園の出荷対策) 	ボルト・アレグレ近郊全地区	250戸

推 進 方 法					
普及の方法	実 施 場 所	担 当 者	協 力 関 係 者	準 備	摘 要
○講習会	イボチ移住地	笹 田	岸 光夫農林技官 及び平松薫技師		
○	ラーモス移住地	香川, 笹田			
○実地指導	バジェ, イタチ	笹 田			
○試作実行計画の 打合せ	ラーモス移住地	笹田, 香川	ヴィディア試験場	球根の冷蔵処 理	
○講義と実習	イボチ移住地	笹 田	加賀落 巖	ぶどう栽培テ キストの作成	
○実地指導	各 農 家			接木穂木のあ っせん	
○実地集団講習	ラ ー モ ス	香 川			
○調査用紙による 記入	イボチ移住地	笹 田	移住地農協	調査用紙の印 刷	南三州開発 銀行対策
○資料の印刷と配 布	事 務 所	笹 田	農 協	資料収集, 分 析	
○スピード, スプ レーターの実演	ラ ー モ ス	香川, 笹田	初 田 農 機 (又は共立農機)		
○実地指導	農家集団地	笹 田	加賀落 巖		
○講義と実際	ラーモス, イボチ	香川, 笹田			
○講義と病害診断	イボチ移住地	笹 田	移住地組合	病害資料表配 布	
○講義と討議	イタチ移住地	笹 田		柑橋畑市場統 計表	
○展示会による各 人の自覚	ポルト・アレグレ市	笹 田	市 農 務 局	実行委員会の 設立	
○資料の収集分析	サンパウロ	笹 田	加賀落 巖		

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名	
			対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
12月	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう摘果講習会 	<ul style="list-style-type: none"> ぶどう房の商品としての仕上技術の徹底 	イボチ移住地	34戸
1月	<ul style="list-style-type: none"> 気象統計と営農反省会 リングの接木技術講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 不順であてにならない気象予想対策 新経営品種の導入と台木の検討 	イボチ, ラーモス, バジューイジュレイ, イタチ ラーモス移住地	各1回 50戸
2月	<ul style="list-style-type: none"> 果樹経営技術講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 生産費切り下げのための経営ポイントを研究する。 	イボチ, イタチ	各1回
3月	<ul style="list-style-type: none"> 果樹収穫後の管理講習会 	<ul style="list-style-type: none"> 灌漑, 礼肥, 薬剤撒布の徹底 	イボチ, ラーモス, バジュー	各1回

推 進 方 法					
普及の方法	実施場所	担当者	協力機関 又は 協力者	準備	摘要
○実際指導と討 議	イボチ移住地	笹 田	平松 薫 技 師	生産計画の集 計表作成	
○統計の分析配 付	各 地	笹田, 香川	各 統 計 機 関	資料の印刷配 付	
○実際指導	ラ ー モ ス	香 川	後 沢 技 官	穂木のあっせ ん	
○講演会と現地 指導	イボチ, イタチ	笹 田	後 沢 憲 志 技 官 (技 協 派 遣)		
○講義と実習	各 地	笹田, 香川	各 農 協	果樹農事	

IV サンタクルース支部

1 営農普及指導計画

月別	普及指導事項	到達目標		
			対象地区名又はグループ名	実施回数
4月	○ボンカンの出荷方法価格協定	○ボンカンの出荷箱の統一、並びに生産者価格の協定。	みかんグループ	1
	○百合、グラジオラスの栽培について	○百合、グラジオラスをグループ員は栽培を試みる。	花卉グループ	1
	○棉の当面の管理	○適収穫法の認識、ラガルトロサーダの駆除	沖 縄	1
	○棉の当面の管理	○収穫期に入るため、棉の適収穫貯蔵方法とラガルトロサーダの駆除についての認識。	沖 縄	1
5月	○農場便りの発刊	○新作物紹介、外国における栽培技術の紹介、その他農業に関するニュースの紹介。	サンファン沖縄	1
	○みかん類市場の最近の模様	○最近のミカン類の各種別、品質、価格と、どんなものが好んで消費されているかを知る。	みかんグループ	1
	○棉の落葉について	○沖縄第一方面は、開繁中にもかかわらず展葉、着蕾を続けている。今後とも土壌、湿度、気温の関係から、このような現象は起ると思われるので、この対策につき検討する。	沖 縄 第 一	1
6月	○みかん類の経営における位置	○100haの経営可能地のうちで、何haをみかん園として待つか、どのようなみかんを選ぶか、各員が計画を樹立する	サンファン みかんグループ	1
	○棉の収穫について	○6月、80%の棉収穫を完了する。棉の収穫法と品質について知らしめる。	沖 縄 第 1 ~ 3	1

推 進 方 法					
普及方法	実施場所	担当者	協力機関	準備	概要
○座談会	サンファン試験農場	宮川清忠	サンファン農協		
○座談会	サンファン試験農場	宮川清忠	入植者 栽培経験者		
○実地指導	沖縄第1～3	宮川清忠	沖縄第1～3 農協		
○印刷物		宮川清忠	サンタクルース 日 報		
○印刷物	サンファン試験農場				
○座談会	サンファン試験農場	宮川清忠			
○実地指導	沖縄第一	宮川清忠	沖縄第一農協		
○座談会	サンファン試験農場	宮川清忠	サンファン農協		
○実地指導	沖縄第3,第1	宮川清忠	沖縄第3,第1 農 協		

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又はグループ名	
			対象地区名又はグループ名	実施回数
7月	○養鶏指導	○サンファン移住地における養鶏の現状と問題点を知り、改善策を樹立する。	サンファン, 沖繩養鶏者	1
	○みかん出荷の共同化	○小型貨物車を持っている人は自力でサンタクルスまで販売に行き、良い値で小売りをしている。小型車を持っていない人、小売りをやる才覚のない人、庭先で、又は地元で極く安値で売っている。販売の共同化を組合を主体として推進するよう計る。	サンファン みかんグループ	1
8月	○稲の成育と要水量について。8月の主な農作業について	○稲の成育期別要水量を知り、天水を利用し、陸稲から安全度の高い水稲作に極力移行するよう推進する。	サンファン 各実行組合	1
	○ボンカンの剪定方法の春肥の施用について	○ボンカンの整枝剪定の意識方法につき習得する。8月のボンカンの手あて、特に春肥の施用につき指導する。	サンファン みかんグループ	1
	○牧草と牛の飼育管理について	○牧草の禾本科、荳科混播の必要性と牛に対する法定伝染病予防注射の必要性について	サンファン 牛飼育者	1
	○咽草の染色と絡込み	○当国人の趣向に合う染色をなし、ゴザ、カゴ、壁かけ、ヤカン敷き等を作成する。	栽培者古木氏他	1
	○農産物品評会	○移住地内農産物を相互に紹介しあい、農業振興と意欲の向上を計る。	サンファン移住地	1
9月	○各作物と農薬について	○稲、大豆、スイカ、ミカン等に対する消毒と施用上の注意事項。その他9月の主な農作業について	サンファン 各実行組合	1

推 進 方 法					
普及方法	実施場所	担当者	協力機関	準 備	摘 要
○実地指導,座 談会	沖縄移住地 サンファン移住地	サンパウロ産組 浅井 獣医師	サンファン,沖縄 農 協	印刷物	
○座談会	サンファン試験農場	宮 川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○座談会	サンファン 各実行組合	宮 川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導,座 談会	サンファン試験農場	宮 川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導	牛飼育者宅	農牧省 Ing Swarez 遊 佐 健 祐	支 部		
○実地指導	サンファン試験農場	宮 川 清 忠	サンファン農協		試験農場にて 紫色病,機械 を用意ここで 実際の製品化 を計る
○展 示	サンファン村役場	サンファン村役場	サンファン試験農場 サンファン農協		
○座談会	サンファン 各実行組合	宮 川 清 忠	サンファン農協	印刷物	

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又はグループ名		
			実施回数		
9月	○みかんの防風樹と芽つきについて	○防風樹の意義を知らしめ、実施を推奨する。芽つきを習得させる。	サンファン みかんグループ	1	
	○牧草と牛の飼育管理について	○8月と同じ	サンファン 牛飼育者	1	
	○スイカの病虫害防除について	○スイカの病虫害防除について適農農薬を知らしめ、防除上の注意点を指導する。	サンファン スイカ栽培者	1	
10月	○夏期大豆の品種と性格について	○現在当地に適応する夏期大豆としてベリカン、サンファン種が優良とされている。この他試験の結果コロンビアが優れていることがうかがえる。これら試験成績を解説し、一般栽培に備えて大豆の特性、栽培法を広く周知させておく。	サンファン 実行組合	1	
	○スイカの病虫害防除について	○スイカ収穫期に入るが、病虫害の防除と、収穫果実の農薬残効性を周知徹底させる。	サンファン スイカ栽培者	1	
	○牧草と牛の飼育管理について	○9月と同じ			
	○棉の栽培法と農薬について	○本年棉栽培者全員に対し、棉の性質栽培法の概要、使用農薬についての諸注意を与える。	沖縄第1～第3 棉栽培者	1	
	○棉の栽培法と農薬について	○棉連絡指導員に技術的内容につきよりつ込んで指導する。	沖縄第1～3 棉指導員	1	
11月	○みかん畑の管理と消毒について	○みかん畑の雨期における管理の主要事項と消毒について	サンファン みかんグループ	1	

推 進 方 法					
普及方法	実施場所	担当者	協力機関	準備	摘要
○実地指導, 座談会	サンファン試験農場	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導	牛飼育者宅	農牧省 Ing Swarez 遊佐 健 輔	支 部		
○実地指導	栽培者宅	宮川 清 忠			
○座談会	サンファン 各実行組合	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導	栽培者宅	宮川 清 忠 農牧省 Ing Swarez			
○座談会	沖縄第1~第3 各 組 合	事業団棉作 指 導 班	沖縄第1~第3 各 農 協	印刷物	
○座談会	沖縄畜産センター	事業団棉作 指 導 班	沖縄事業所 沖縄第1~第3 農 協	印刷物	
○座談会	サンファン試験農場	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	

月別	普及指導事項	到達目標	実施回数	
			対象地区名又はグループ名	実施回数
11月	<ul style="list-style-type: none"> 稲作、管理上の主要事項と大豆の栽培について 牧草と牛の飼育管理について 棉の栽培法と農薬について 	<ul style="list-style-type: none"> 稲の播種も終り、除草、消毒が始まる。大豆も早まきは始まる。これら作物についての11月の主な作業、より優良な肥培管理について理解を深める。 9月と同じ 棉連絡指導員に、技術的内容につき、よりつっ込んで指導する。 	サンファン 実行組合	1
12月	<ul style="list-style-type: none"> 棉の栽培法と農薬について 稲、大豆の病虫害とその対策について 牧草と牛の飼育管理について 	<ul style="list-style-type: none"> 棉連絡指導員に技術的内容につき、よりつっ込んで指導する。 稲熱病及び害虫、大豆の虫害防除について知る。 9月と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄第1～第3 棉指導員 沖縄第1～第3 棉指導員 サンファン 実行組合 	1 1 1
1月	<ul style="list-style-type: none"> 棉の栽培法と農薬について みかん類の管理と消毒について 牧草と牛の飼育管理について 	<ul style="list-style-type: none"> 1月に発生する棉の病虫害につき指導員に知らしめる。 みかん類の雨期における管理の主要事項について 9月と同じ 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄第1～第3 棉栽培者 サンファン みかんグループ 	1 1
2月	<ul style="list-style-type: none"> 棉の栽培法と農薬について 牧草と牛の飼育管理について 	<ul style="list-style-type: none"> 2月に発生する棉の病虫害につき指導員に知らしめる。 9月と同じ 	沖縄第1～第3 棉指導員	1
3月	<ul style="list-style-type: none"> 棉の収穫前後における諸注意について みかんの収穫前における諸注意 稲作管理上の主要事項と大豆の栽培について 	<ul style="list-style-type: none"> 棉の収穫時の諸注意及びその前後の病虫害対策。 出荷時の梱、出荷時の等級分け、農薬の効力性等について知らしめる。 稲の収穫期と冬作大豆の播種期も近づくので、それぞれに必要な作業、準備作業を知らしめる。 	<ul style="list-style-type: none"> 沖縄第1～第3 棉指導員 サンファン みかんグループ サンファン 各実行組合 	1 1 1

推 進 方 法

普及方法	実施場所	担当者	協力機関	準 備	摘 要
○座談会	サンファン 各実行組合	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○座談会	沖縄畜産センター	事業団 棉 作 指 導 班	沖縄第1～第3 農 協	印刷物	
○実地指導 座談会	沖縄畜産センター	事業団 棉 作 指 導 班	沖縄第1～第3農協 沖縄事業所	印刷物	
○座談会	サンファン 各実行組合	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導, 座談会	沖縄畜産センター	事業団 棉 作 指 導 班	沖縄第1～第3 各 農 協	印刷物	
○実地指導, 座談会	サンファン試験農場	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○実地指導, 座談会	沖縄畜産センター	事業団 棉 作 指 導 班	沖縄第1～第3 各 農 協	印刷物	
○実地指導, 座談会	沖縄畜産センター	事業団 棉 作 指 導 班	沖縄第1～第3 各 農 協	印刷物	
○座談会	サンファン試験農場	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	
○座談会	サンファン各実 行 組 合	宮川 清 忠	サンファン農協	印刷物	

Ⅳ-1 ヌエバエスペランサ畜産試験農場

1 営農普及指導計画

月 別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名		対象件数又は実施回数
4月	<ul style="list-style-type: none"> 家畜防疫 家畜伝染病予防液一覧表 	<ul style="list-style-type: none"> 予防接種の徹底 ' ' 	オキナワ第3移住地	50戸	
			サンファン, オキナワ移住地	300戸	
5月	<ul style="list-style-type: none"> 雄牛の去勢 飼料の配合割合 	<ul style="list-style-type: none"> 肥育牛の肉質改善 合理的飼育 	オキナワ第2, 第3移住地	60戸	
			サンファン, オキナワ各移住地	400戸	
6~7月	<ul style="list-style-type: none"> 家畜の病気の見分け方 	<ul style="list-style-type: none"> 病気の早期発見, 早期治療 	'	'	
7月	<ul style="list-style-type: none"> 養鶏経営 	<ul style="list-style-type: none"> 鶏の合理的飼育 	'	'	
8~9月	<ul style="list-style-type: none"> 鶏の病気と手当 	<ul style="list-style-type: none"> 病気の早期発見, 早期治療 	'	'	
8月	<ul style="list-style-type: none"> 棉栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 棉作の知識と技術普及 	棉作指導員	20名	
9月	'	'	オキナワ各移住地	400戸	
10月	<ul style="list-style-type: none"> 養豚経営 	<ul style="list-style-type: none"> 豚の合理的飼育 	'	200戸	
10~3月	<ul style="list-style-type: none"> 棉栽培 	<ul style="list-style-type: none"> 棉作の知識と技術普及 	'	'	

地区	部門	改善上の問題点	同左対策
オキナワ移住地	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 1雨量が少ないため常習早魃地である。 2地区内の道路が悪く, 特に雨期に甚しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 1リオ・グランデよりの灌溉用水路の設置 2牧畜, 棉栽培を推進する。 1道路を補修し, 砂利を敷く。
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 1食生活が単純になりやすく栄養がアンバランスになりがちである。 2ヤンマイ荘家屋は対用年数が短く火災の恐れがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 1料理講習会の開催, 料理の工夫。 2棟瓦葺に改める必要がある。

昭和46年4月現在

推 進 方 法					
普及方法	実施場所	担 当 者	協力機関 又は 協力者	準 備	摘 要
講習会 パンフレット	第3小学校	大 城	第3農協 各農協	印刷物 ・	
実地指導 パンフレット 新聞	農 家	・ ・ ・	第2,第3農協 各農協 サンタクルス 日 報 社 サンパウロ 産組中央会	去勢器具 印刷物	
実地指導及び 講習会 講習会	農家及び 各小学校 各小学校	浅 井 大 城	サンパウロ 産組中央会 各農協	印刷物	
・ ・ ・	畜産センター オキナワ各小学校 ・ 農 家	官 川 ・ 大 城 事業所職員	オキナワ各農協 ・ ・ ・	・ ・ ・	

対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
普	調 普	試	資	他	事	事 他	他	困難度	適用度	効 果
○			○			○		C A A	大 大 大	大 大 大
○			○			○		A B	大 中	大 中

地区	部門	改善上の問題点	回左対策
オ キ ナ ワ 移 住 地		3.娯楽が少ない。	3.特に青年にスポーツ，ダンス，音楽に興味を持つように指導する。
	社会経済環境	1.第2，第3よりサンタクルース迄の道路が悪く，降雨の場合通行出来ず農産物の運送や買物に支障を来たす。 2.雇用労力の不足が深刻化しつつある。 3.地区内に交通機関がない。	1.道路のアスファルト，又は砂利舗装が必要である。 2.機械耕作の促進 3.農協経営の乗合バスの運行が望ましい。
	牛	1.優良種牛が少ない。 2.牧草は禾本科一辺倒である。 3.牧場管理が悪い。 4.子防接種が不十分である。	1.優良種牛の導入をはかる。 2.豆科牧草の導入をはかる。 3.雑作，雑木の刈り取りをはかる。 4.子防接種の徹底をはかる。
	豚	1.優良種豚が少ない。 2.子防接種が不十分である。 3.飼育が粗放的である。	1.優良種豚の導入をはかる。 2.子防接種の徹底をはかる。 3.集約的，合理的飼育をはかる。
	鶏	1.品種の更新が必要である。 2.衛生管理，飼育管理が不十分である。 3.主に自家配合飼料を与えているので，栄養のアンバランスが目立つ。	1.優良品種の導入をはかる。 2.子防接種の徹底，飼料改善をはかる。 3.飼料工場を設立し，初生ひな，中ひな，大ひな，成鶏用等の統一した飼料給与が望ましい。
	棉	1.棉栽培の経験がない。 2.機械耕起畑面積が少ない。	1.棉栽培の知識技術の普及をはかる。 2.機械耕起畑面積の拡大をはかる。

対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
普	聞 普	試	貸	他	事	事 他	他	困難度	適用度	効 果
○						○		A	大	大
			○			○		C	大	大
○			○			○	○	B B	大 大	大 大
○ ○ ○ ○						○ ○ ○	○	B B B	大 大 大	大 大 大
○ ○ ○						○ ○	○	B B B	大 大 大	大 大 大
○ ○	○					○ ○ ○		B B B	大 大 大	大 大 大
○	○					○ ○		A B	大 大	大 大

V プェノスアイエス支部

— アンデス事業所 —

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名 又は研究 グループ名		対象件数 又は 実施回数
4月	◦永年作物の植付指導, 営農関係図書回覧	◦ブドウ植付1戸当り5haの早期実現	全	戸	22戸
5月	◦昨農年度の反省と次期営 農計画の策定 ◦アルファルファ播種	◦生産性の向上と合理化	全	戸	22戸
		◦1戸当り3haの圃場確保,家畜の導 入に対する飼料自給化	全	戸	22戸
6月	◦畜産加工 ◦農産加工	◦冬期保存食の確保 ◦大豆製品の加工方法	豚飼育者 全	戸	必要に応じ 1回
7月	◦果樹の剪定 ◦水路管理	◦果樹の結果習性についての会得	全	戸	1回
		◦水利部強化と水路維持管理	全	戸	22戸
8月	◦農作物の試作と牧畜の管 理	◦果樹, 蔬菜, 畜産全般についての栽培 試験, 管理状況の視察による実態把握	全	戸	22戸
9月	◦用水路保全と環境整備	◦全用水路にポプラの植付, 幹線道路に 常緑樹の植付	全	戸	22戸
10月	◦肥料, 農薬の合理的使 用法	◦適切な土壌管理と肥料設計力の確立, 桑理, 葉害の把握	全	戸	22戸
11月	◦果樹及び蔬菜の肥培管理 について	◦生育経過と施肥のねらいにつき, 充分 な把握	全	戸	22戸
12月	◦共同出荷活動準備	◦市場調査, 流通状況の調査による有利 販売への打開	全	戸	22戸
1月	◦生産物の販売	◦主生産物の販売方法の合理化	全	戸	22戸
2月	◦家畜の管理, 販売	◦家畜の疫病対策 ◦販売ルートの開拓	全	戸	22戸
3月	◦瓶詰加工法	◦保存食の確保, 衛生的加工法の習得	全	戸	22戸

昭和46年4月現在

普及の方法	実施場所	担当者	協力機関 又 協力者	準 備	摘 要
◦個別専門指導	現 地	所 長	農 協	ブドウ局新植認可 苗木の確保	
◦個別巡回指導	現 地	所 長	I. N. T. A.	生産販売状況資料	
◦個別巡回指導	現 地	寺 沢	農 協	種子	
◦個別巡回指導 ◦講習会	現 地 集 会 先	事業所職員 平 岡	経 験 者 婦 人 部	調味料他 必要資材	
◦各地区集会	現 地	寺 沢	I. N. T. A	INTA技師との打合せ	
◦農協との折衝	現 地	羽 村	農 協		
◦現地での実際指導	INTA農場 近郊農場	平 岡 寺 沢	I. N. T. A 農 協	INTA農場との打合せ	
◦農協水利部に協力	現 地	所 長 羽 村	森 林 局 農 協	苗木の入手	
◦受講希望地区で講 議	集 会 先	所 長 寺 沢	I. N. T. A	各種、肥料、農薬の 入手	
◦受講希望地区で講 議	集 会 先	平 岡 寺 沢	I. N. T. A		
◦農協に協力	市場性ある 消費都市	全 職 員	農 協		
◦農協に協力	現 地	職 員	農 協		
◦講 習 会	現 地	所 長 平 岡	農 協 農 協		
◦講 習 会	集 会 先		農 協		

2.2. 改善対策の選定とその性格

地区	部門	改善上の問題点	同左対策
ア ン デ ス 移 住 地	自然環境	<ul style="list-style-type: none"> 1 土壌は砂質アルカリ性であり、しかし有機質が乏しく瘠弱である。 1 灌漑水量の不足 1 塩害 1 風雹霜害 	<ul style="list-style-type: none"> 1 緑肥、堆肥を導入、還元により有機質土壌への改良 1 揚水ポンプの新設設置 2 既設揚水ポンプの完全利用 3 水路ライニングによる漏水防止 1 灌水量の増大 2 排水路の整備 3 被覆作物の栽培 1 防風林の造成 2 資力に応じ雹害に対する金網設備 3 霜害に対する防寒設備
	生活環境	<ul style="list-style-type: none"> 1 飲料用水が不衛生である。 1 食生活の偏重、蛋白源不足。 1 住宅環境の不備。 	<ul style="list-style-type: none"> 1 浄化装置の設備 1 料理講習等による改善指導 1 台所、便所の改善
	社会経済環境	<ul style="list-style-type: none"> 1 域内道路の悪化 1 貸与トラックの老朽化 1 雇用労賃の高騰 	<ul style="list-style-type: none"> 1 グレーダーによる幅員、増巾、平坦化 1 現地金融機関利用による買替指導 1 機械力の利用、省力栽培の確立
	融資	<ul style="list-style-type: none"> 1 ドル建て融資の為替差損 1 延滞債権の管理 	<ul style="list-style-type: none"> 1 現地通貨種貸付の早期実現、現地金融機関利用に対する指導 1 営農資金収支における個別検討

3. 営農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経験年数	担当農家戸数
篠崎 俊英	ア ند ス 事 業 所	38 才	5 年	22 戸
羽村 弘	'	28 才	3 年	22 戸
下岡 宗多	'	40 才	5 年	22 戸
寺沢 マルト	'	29 才	8 年	22 戸

対 策 の 性 格					実 施 主 体			可 能 性		
普	調 査	試	資	他	事	事 他	他	困難度	適用度	効 果
○			○		○	○	B	大	大	
	○		○		○	○	A	大	大	
			○		○	○	B	大	大	
		○				○	A	大	大	
		○				○	A	大	大	
		○				○	B	大	中	
	○		○		○	○	A	大	大	
	○					○	C	大	中	
			○			○	B	中	大	
			○			○	A	大	大	
			○			○	A	大	大	
			○		○		A	大	大	
			○		○		A	大	大	

担 当 面 積	普 及 上 の 機 動 力	摘 要
410ha	小型トラック	職員4名の内、特に営農担当者を決めず、全員がこれに 当たる体制を取っている。 事業所全体的な管理事務、会計、融資、塩害試験等雑多な 仕事を抱え、計画の実施を欠く場合が多い。
'	'	
'	'	
'	'	

— ガルアッペー事業所 —

1 営農普及指導計画

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名		対象件数又は実施回数
4月	1 植林の枝落し	1 材質をよくすることにより高値で売れるので幼木時代の枝落し励行 2 枝落器の普及 3 植林保有農家の育成	植林農家青年		5戸 20名
	2 農事研究発表会	1 各農家の技術交換と営農意欲の向上。	全農家		38戸
	3. ブラジル視察体験発表	1 ブラジルに目を向けさせる。	全農家		2回
5月	1 大豆の収穫方法	1 大豆栽培農家の適期収穫と降雨にくさらない仁王積み法の採用	大豆栽培農家		13件
	2 紅茶の定植	1 等高線の植付。 2 育苗農家による採種用優良母樹の確保。 3 育苗定植農家を普及の基地とする。	紅茶部会		7件
6月	1 トマトの防寒対策とビニールトンネル栽培	1 各農家毎気象を知る様にする。 2 ビニールトンネルによる防寒。 3 発煙式防除方法 4 プロベラ式防除方法	蔬菜栽培農家		13戸
	2 蔬菜栽培の施肥量の決定と有機質の利用	1 各農家自分の畑の慣行施肥量により基準をみ出させる。	蔬菜栽培農家		13戸
7月	1 トマト、ピーマンの品種更新	1 ブラジルより新品種導入 ピーマン：池田種 トマト：コチア産組開発の品種	蔬菜栽培農家		13戸
	2 トラクターによる降霜利用の除草方法確立	1 適期除草	全農家		38戸

昭和46年4月1日現在

推 進 方 法					
普及の方法	実施場所	担 当 者	協力機関 又 協 力 者	準 備	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> ○実技講習 映画会 	事業所 旧農場	土 生 脇 田	I N T A	圃場の選定	
<ul style="list-style-type: none"> ○体験, 発表会 	旧86小学校	土 生	農 協		
<ul style="list-style-type: none"> ○講演とブラジルの農産物展示 	旧86小学校	土 生	農 協		
<ul style="list-style-type: none"> ○実技講習 ○実技講習, 巡回指導 	原田氏農場 岡崎氏	土 生 土 生	I N T A	アルトバラナ大豆栽培 農家の招聘 定植準備	
<ul style="list-style-type: none"> ○特定農家への普及, 展示圃, 巡回指導 	伊東農場	土 生		寒暖計, 簡易扇風機, ビニール, 暖房機具	
<ul style="list-style-type: none"> ○先進地視察, 委託栽培展示, 土壌分析 	小野農場	土 生		肥料の基礎, 知識を与へる。	
<ul style="list-style-type: none"> ○試作展示 	伊東氏	土 生		ブラジスより種子導入	
<ul style="list-style-type: none"> ○実技講習 	原田氏	土 生	I N T A		

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名	
			対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数
7月	1. アナナスの冠果促進	1. 1月, 2月の出荷を狙う。	アナナス栽培農家	3戸
8月	1. ホーキモロコシの栽培	1. 品質比較。 2. 播種期試験。 3. 見本を芝本産菜へ送る。	委託栽培農家	2戸
9月	1. 緑肥の導入	1. ソファ, ベレニヤ, グーチ, セントルヒマ等の柑橘類, 蔬菜栽培者への普及。 (有機質の代りとする)	柑橘栽培者 トマト栽培者	30戸
10月	1. 小豆栽培委託試験	1. 適品種の選定, 播種期試験。	栽培農家選定	2戸
11月	1. 夏トマトの育苗	1. 土壌消毒, 種子消毒による優良苗の確保	栽培農家	15戸
	2. 大豆の播種	1. 播種期の選定。 2. 適期播種による収量の確保	栽培農家	15戸
12月	1. 豚の導入	1. 繁殖用種豚の導入と種豚配布農家の育成。	養豚グループ	2戸
	2. 作物栽培の原理	1. 農薬, 肥料, 作物の生理学の基礎講習による一般的栽培原理を認識させる。	全農家	38戸
	3. 農業機械の扱い方とトラクターの標運	1. 圃場の区画と作付体系の確立	全農家	トラクター保有農家 15戸
1月	1. 優良アナナスの植付更新	1. 優良株より仔株を選び, 改良種の植付	アナナス栽培農家	5戸
	2. アナナスの病虫害防除	1. 植付仔苗の消毒 2. 病の防止		
2月	1. 柑橘類の施肥合理化 柑橘類の適期防除	1. 施肥基準の策定	柑橘栽培農家	30戸
	2. 農協の基盤理念	1. 農協の在り方, 目的, 役割等について組合員に認識させる。	全農家	全農家

推 進 方 法					
普及の方法	実施場所	担 当 者	協力機関 又は 協力者	準 備	摘 要
◦試験展示	沼 田 氏	土 生			
◦試作展示	植 松 田 辺	土 生	芝本産菜		
◦展示圖の設置	植 松 伊 東	土 生		種子の確保	
◦試験の結果による	古 庄 小 野	土 生	日 籍	多様品種の確保	
◦巡回指導		土 生		種子消毒用薬の確保	
◦展示,巡回指導,買 付工場との交渉		土 生	サントビボ 搾油工場	適品種の確保	
◦繁殖豚農家の育成	小 野 沼 田	土 生	I N T A	優良種豚用仔豚の確保	
◦夜間講習	旧小学校	土 生		パンフレット	
◦実技講習,夜間講習	エルトラード 農 学 校	土 生 脇 田	I N T A	エルトラード農業高校 と交渉	
◦巡回指導	小 野	土 生	I N T A	ブラジルより優良種 を導入する	
◦講習,展示	村 上	土 生		単肥肥料の準備	
◦講習,模範農協の視 察		土 生 脇 田	I N T A モンテカー 農 協		

月別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は 研究グループ名	対象件数は 実施回数
			3月	1.ブラジルより有望新規 作物の導入試験

2. 営農担当者の体制

氏名	所属事業所名	年齢	普及活動経験年数	担当農家戸数
土生 幹生	ガルアッパー事業所	39才	14年間	38戸

推 進 方 法					
普及の方法	実施場所	担 当 者	協力機関 又は 協力者	準 備	摘 要
・試作と自給用果樹 の確保	全 農 家	土 生	サンパウロ 支 部		

担 当 面 積	普及上の機動力	摘 要
3,000 ha	カシオネーター 1 台	

Ⅵ アスンシオン支部

1 営農普及指導計画

月別	指導事項	到達目標	推進団体	
			回数	
5月	◦植林,育苗	◦各農家が自分の手で容易に育苗を来るよう指導する。	事業団 植林グループ	1
5月 /	◦機械化営農のすゝめ方	◦合理的な機械化営農を進めるための機械に対する正しい知識の附与	事業団	1
6月	◦台湾桐の栽培	◦栽培管理知識の普及	事業団 台湾桐栽培グループ	1
7月 /	◦日本桑の増殖	◦全桑園面積の1/2は日本桑に切り換える。	事業団 ISEPSA	
8月 /			宮下専門家	
1月 5月	◦家畜の予防衛生	◦予防衛生知識の普及	事業団	3
9月 10月 /	◦省力化養蚕のやり方	◦大型省力化養蚕の普及	事業団 ISEPSA	2
4月 2月	◦ペカンの苗の育成方法	◦接木方法の周知	事業団	1

2 営農担当者の体制

氏名	所属	年齢	普及活動経験年数	担当農家戸数
真下 慶治	アルトパラナ試験農場	31才	3年	400戸
井上 香郎	・	35才	11年	・
浅木 洋充	・	29才	5年	・

推 進 方 法				草 備	摘 要
普及方法	場 所	担 当 者	協力機関		
○講習会	農 場	真 下	農 協	○印刷物	
○実演会	機械導入 農 家	真 下	農 協 機械販売 会 社		
○印刷物配布		真 下	農 協	○印刷物	
○各戸実地指導及び 講習会	養蚕農家 農 場	花 木	農 協	○印刷物, 穂木	
○パンフレット		花 木		○印刷物	
○講習会	農 場	花 木	農 協	○必要機械	
○講習会	農 協	井 上	農 協		

担 当 面 積	普及上の機動力	摘 要
30,000ha	ジープ 2台	
,	小型トラック 1台	
,		

VII サント・ドミンゴ支部

1 営農普及指導計画

月 別	普及指導事項	到達目標	対象地区名又は研究グループ名		対象件数又は実施回数
			対象地区名又は研究グループ名	対象件数又は実施回数	
4月～6月	◦輸出の振興	◦当面輸出野菜栽培者の結束を強める。	輸出野菜生産者		1～2回
7月～9月	◦新品種導入 (随時)	◦新品種、優良品種を導入し、市場性を有利にする。	希 望 者		10回
10月 ～12月	◦輸出の振興 ◦新品種導入	◦プエルトリコの市場の動きを把握させ、販売面に活かす。	輸出野菜生産者 コンスタンサ地区		
1月～3月	◦経営改善	◦単なる生産者の農産物から販売を重視する経営者に育成する。	全 地 区 ダハボン ハラバコア コンスタンサ		1回 数回 ' '

昭和46年5月1日現在

推 進 方 法				
普及の方法	実施場所	担 当 者	協力機関 又は 協力者	摘 要
<ul style="list-style-type: none"> ○ 移住者との共同現地市場調査(プエルトリコ)及び報告会開催 	支部事務所	永田, 松本		
<ul style="list-style-type: none"> ○ あっせん 		松 本		
<ul style="list-style-type: none"> ○ プエルトリコ農務省発行の市況週報を配布(3月まで継続実施) 		松 本	米田三井物産 サンファン 事 務 所	
<ul style="list-style-type: none"> ○ 営農通信による ○ 講習会開催 ・ ・ 	ダハボン ハラバコア コンスタンサ	松 本		

.....

.....

